



令和7年度  
研修集録  
第40号

秋田市立秋田商業高等学校



## 変革の時代を地域とともに歩む — 学び続ける商業教育の使命 —

校 長 高田屋 馨

我が国は急速な人口減少、産業構造の転換、デジタル技術の飛躍的進展という、かつて経験したことのない大きな変革期にあり、特に秋田県においては、少子高齢化の進行により、地域社会の人口構成や経済基盤、生活様式は大きく変容し、持続可能な社会の構築が喫緊の課題となっています。そのような中、産業界においても新たな価値創造や、デジタル技術を活用した革新的な取組が求められています。加えて、今年の漢字に選ばれた「熊」の頻出や自然災害、国際情勢の不安定などは、人々の生活や経済活動に大きな影響を及ぼし、社会の持続可能性と人材育成の在り方を、私たちに問いかけています。こうした時代背景のもと、秋田商業高等学校が担う使命は、単に知識や技能を教授するにとどまらず、地域と社会を支え、変化に柔軟に対応しながら未来を主体的に切り拓く実践的な人材を育成することにあると考えております。

本校が日々取り組んできた研修と教育実践は、時代の要請に応える努力の積み重ねであり、商業教育を基盤としながら、ICTの効果的な活用、ビジネス実践の深化、地域や関係機関、地元企業等と連携した学習活動を通して、生徒が自ら課題を発見し、多様な価値観をもつ他者と協働しながら解決へと導く力を育成することを目指してまいりました。とりわけ近年は、生成AIやデータ活用など新たな技術が急速に広がる中で、教員自身が学び続け、授業内容や指導方法を更新していく姿勢が求められています。

また、令和六年元日に発生した能登半島地震をはじめ、全国各地で相次ぐ自然災害は、学校教育における防災・減災の重要性、そして人と人とのつながりの尊さを改めて私たちに教えました。本校の教育実践においても、地域社会と連携し、実社会の課題に向き合う学習を重ねることで、生徒が社会の一員としての自覚と責任を育む機会を創出しています。防災教育や地域貢献活動を通して、他者を思いやり、ともに支え合う姿勢を育てることは、これからの社会を生きる若者にとって欠かすことのできない資質であり、これらの取組は、教員一人ひとりの研鑽と協働なくして成し得ないものであり、本研修集録は、その歩みと成果を伝える重要な記録であります。

本書に集録された記録と報告は、単なる成果の紹介にとどまるものではなく、そこには試行錯誤の軌跡があり、教育の本質を問い続ける教職員の真摯な姿勢と情熱が凝縮されています。日々の授業改善や生徒理解に向けた地道な取組は、目に見えにくいものでありながら、確実に学校全体の教育力を高めてきました。これらの実践を共有することは、本校のみならず、地域や他校にとっても貴重な財産となり、次代の教育を支える確かな礎となることでしょう。

さらに、政府が推進する「デジタル田園都市国家構想」や「高等学校DX」の流れは、地方に立地する本校にとっても極めて重要な示唆を与えています。地域に根ざしながら全国、さらには世界とつながる学びを実現することは、生徒の視野を広げ、商業高校としての新たな価値創造に直結します。本校教員が研修を通して培ってきたICT活用能力や外部との連携力は、生徒一人ひとりの進路実現と地域活性化の双方に資するものであり、今後さらなる発展が期待されます。

結びに、本研修に真摯に向き合い、日々の教育活動を通して生徒の成長に尽力されている教職員の皆様に、心より敬意と感謝を表します。本校が今後も地域とともに歩み、変化の激しい時代にあっても揺るがぬ教育の灯を掲げ続けることを切に願い、ここに巻頭の言葉といたします。

# 目 次

|                                    |                     |         |
|------------------------------------|---------------------|---------|
| ◎巻頭言                               | 校 長 高 田 屋 馨         | …………… 1 |
| I 指導主事訪問                           |                     |         |
| 1 日程                               | 教 務 部               | …………… 3 |
| 2 研究授業の指導案と協議会                     |                     |         |
| ① 国 語 : 授業者(児玉 睦子)                 | 国 語 科               | …………… 4 |
| ② 地歴・公民: 授業者(小林 稔幸)                | 地 歴 ・ 公 民 科         | ……………10 |
| 3 全体協議会                            | 教 務 部               | ……………17 |
| II 校内職員研修                          |                     |         |
| 1 年間実施報告                           | 研 修 部               | ……………20 |
| 2 授業公開週間 実施報告                      | 研 修 部               | ……………21 |
| 3 救急救命講習                           | 保 健 ・ 教 育 相 談 部     | ……………39 |
| 4 生成AIとデジタルツールの業務への活用              | 研 修 部               | ……………40 |
| III 報告                             |                     |         |
| 1 ビジネス実践                           |                     |         |
| ① AKISHOP                          | 商 業 科 千 葉 知 美       | ……………41 |
| ② キッズビジネスタウン                       | 地 歴 ・ 公 民 科 小 林 稔 幸 | ……………43 |
| ③ エコロジカルビジネス                       | 英 語 科 関 屋 さ や か     | ……………45 |
| ④ 総括                               | 商 業 科 石 田 雄 哉       | ……………47 |
| 2 センター研修                           |                     |         |
| A講座                                |                     |         |
| ① 初任者研修講座(高等学校)                    | 商 業 科 渡 部 孝 史       | ……………49 |
| ② 実践的指導力向上研修講座(高等学校8年目)            | 商 業 科 佐 藤 友 弥       |         |
|                                    | 商 業 科 佐 藤 正 志       | ……………57 |
| ③ 中堅教諭等資質向上研修講座(高等学校)              | 保 健 体 育 科 佐 藤 悠 香   |         |
|                                    | 数 学 科 宇 佐 美 圭 介     |         |
|                                    | 商 業 科 千 葉 知 美       | ……………59 |
| ④ 実践的指導力発展研修講座                     | 国 語 科 糸 田 由 香 子     | ……………80 |
| ⑤ 県立学校新任教務主任研修講座                   | 商 業 科 須 田 州 逸       | ……………81 |
| ⑥ 高等学校新任学年主任研修講座                   | 国 語 科 児 玉 睦 子       |         |
|                                    | 保 健 体 育 科 高 橋 伸 友   | ……………82 |
| ⑦ 高等学校新任生徒指導主事研修講座                 | 商 業 科 石 塚 委         | ……………84 |
| ⑧ 高等学校講師等研修講座A                     | 商 業 科 伊 藤 智 博       | ……………85 |
| C講座                                |                     |         |
| ① 国語科における「読む力」を育む指導の工夫             | 国 語 科 糸 田 由 香 子     | ……………86 |
| ② JTE English Workshop (中学校、高等学校等) | 英 語 科 高 崎 雅 恵       | ……………87 |
| ③ 生成AIやデジタルツールを活用した授業づくり           | 商 業 科 佐 々 木 一 秀     | ……………88 |
| IV 編集後記                            |                     |         |

## 令和7年度 秋田市教育委員会指導主事等学校訪問

1 期日 令和7年10月31日(金)

## 2 訪問指導主事

|                |            |          |
|----------------|------------|----------|
| 秋田市教育委員会学校教育課  | 副参事指導主事    | 永沼 崇 先生  |
| 秋田市教育委員会学校教育課  | 副参事指導主事    | 横山 靖子 先生 |
| 秋田市教育委員会学校教育課  | 副参事指導主事    | 堀井 綾子 先生 |
| 秋田県立横手清陵学院高等学校 | 教育専門監      | 平田 恵子 先生 |
| 秋田県教育庁高校教育課    | 指導チーム 指導主事 | 岩谷 宣行 先生 |

## 3 研修テーマ

深い学びと「問い」を生み出すための授業改善

～ ICTの効果的活用／多面的・多角的に思考・判断・表現する授業展開～

## 4 日程

| 時間                  | 校時        | 日程  | 備考                         |
|---------------------|-----------|---|----------------------------|
| 8:45～9:10           |           | SHR・清掃  |                            |
| 9:10～<br>9:55(45)   | 1         |   | 金曜1校時授業                    |
| 10:05～<br>10:50(45) | 2         | 10:30頃指導主事来校<br>10:35～10:50学校経営の説明<校長室>   | 金曜2校時授業                    |
| 11:00～<br>11:50(50) | 3         | 一般授業  | 金曜3校時授業                    |
| 11:50～              |           | 指導主事<校長室>   | ※特定授業以外の生徒は下校<br>※当日の部活動なし |
| 12:05～<br>12:55(50) | 4<br>特定授業 | 科目名：論理国語<br>内容：対比をとらえる<br>授業者：児玉 睦子<br>生徒：2年B組37名<2B教室><br>科目名：地理総合<br>内容：生活圏の調査と地域の展望<br>授業者：小林 稔幸<br>生徒：3年E組35名<3E教室> | ※全教員がどちらかの授業に参加            |
| 12:55～<br>13:40(45) |           | 昼食  | ※教務部 協議会場設営                |
| 13:40～<br>14:30(50) | 研究協議会     | ○国語科<語学室><br>協議題：言語活動とICT活用のバランスについて<br>○地歴公民科<204教室><br>協議題：多面的・多角的に思考・判断・表現する授業展開について                                 | ※見学した教科の研究協議会に参加           |
| 14:40～<br>15:20(40) | 全体会       | <会議室><br>①総評<br>②校長より   |                            |

## 国語科(論理国語)学習指導案

日 時：令和7年10月31日(金) 4校時

対 象：2年B組

場 所：2B教室

授業者：児 玉 睦 子

教科書：新編論理国語(大修館書店)

### 1 単元名 「対比をとらえる」(対話の精神)

#### 2 単元の目標

- ・対比の役割を意識して本文を読み、論理の展開をとらえる。
- ・文章の構成や接続表現に注目しながら、筆者の主張を読み取る。
- ・対話を通じて他者の考えを理解し、自分の意見を論理的に表現する力を育てる。
- ・対話の演技を通して、言語活動の重要性を体感する。

#### 3 単元と生徒

##### (1) 単元(教材)観

現代社会では、価値観の多様化や情報の氾濫により、対話の重要性が高まっている。対話とは、単なる会話ではなく、他者との関係性を築きながら、互いの考えを深め合う営みである。「対話の精神」の学習を通じて、言葉による思考と表現を鍛え、社会的な課題にも向き合える力を育てる。

##### (2) 生徒観

会計コース37名のクラス。几帳面で責任感が強く、正確性を求められる学習に対して粘り強く取り組む姿勢がある。今後は、その「真面目さ」「丁寧さ」を生かしながら、主体性や創造性を引き出す学習が必要であると考え。落ち着いた雰囲気の中にも真剣さが漂っており、授業を通して学力を向上させたいという強い意欲がうかがえる。

##### (3) 指導観

生徒たちは、日常的に情報機器を活用し、社会的な話題に関心を持ち、他者との協働には前向きである一方、自分の考えを論理的に構成し、根拠をもって説明する力には課題がある。また、語彙力や表現力にばらつきがあり、文章化に時間がかかる生徒もいる。そこで本単元では、言語活動を通じて論理的思考力・表現力・他者理解力を育成し、言葉による思考と対話の力を高めることを目指す。

#### 4 本校における「授業改善の課題(研修テーマ)」との関連性

- ・ICTの利便性を活かしつつ、深い思考と人間的なつながりを育む言語活動を設計する。
- ・グループでの対面ディスカッションを重視し、ICTは記録や補助に使う。
- ・意見の整理や共有にICTを活用し、議論の質を高める。

#### 5 単元の指導と評価計画

##### (1) 単元の評価規準

| 知識・技能   | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度   |
|---|---|---|
| 対比を示す語句、接続表現に注目しながら文章を読み、対比関係や論理展開をとらえる助けとしている。[(1)イ] | 「読むこと」において、対比の関係に注目し、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握している。[B(1)ア] | コミュニケーションについての筆者の考えを読み取ることに興味を持ち、対話に積極的に参加して学びを深めようとしている。 |

(2) 指導・評価計画

| 時 | 学習活動              | 評価                   |
|---|-------------------|----------------------|
| 1 | 通読、構成の確認、語句調べ     | ワークシート・漢字テスト【知・技】    |
| 2 | 第1段落の読解           | 観察・記録【思・判・表】         |
| 3 | 第2段落の読解           | 観察・記録【思・判・表】         |
| 4 | 全体の構成の把握、筆者の主張の理解 | 観察・記録【思・判・表】         |
| 5 | 対話の実践（本時）         | ワークシート【思・判・表】【主体的態度】 |

6 本時の指導計画

(1) 本時のねらい

- ・対話の本質や目的を理解する。
- ・演技を通して、言葉の選び方や表現の工夫を体験的に学ぶ。

(2) 本時の展開

| 段階        | 学習内容・活動  | 指導上の留意点   | 評価の観点【方法】  |
|-----------|--|---|--|
| 導入<br>10分 | <p>本時の目標：自分の立場を明確にし、相手の意見を受け止めながら、建設的に対話を進めることができる。</p>  |   |  |
|           | <p>発問：対話をもたらすものとは何か。</p>   |   |  |
| 展開<br>30分 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標を確認する。</li> <li>・対話と会話、対論の違いを整理する。</li> <li>・対話に必要な要素を考える。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「対話とは何か」を問いかける。</li> <li>・教科書本文の内容に即して簡単に確認する。</li> <li>・簡潔に板書する。</li> </ul>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の主張を理解しているか。（生徒の発言）</li> </ul>   |
|           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・4人一組でグループを作り、演技の準備をする。</li> <li>・役割分担（A・B：生徒役、C：先生役、D：観察者）を決め、シチュエーションの確認をする。</li> <li>・台本なしで即興対話をする。</li> <li>・2グループを指名し、クラス全員の前で対話をする。</li> <li>・「うまくいった対話」「すれ違った対話」の違いを考察する。</li> <li>・対話に必要なことを再整理する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「秋田商業高校の学校行事について」というテーマで即興対話をさせる。</li> <li>・他の生徒は「対話の質」に注目して観察するように促す。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・対話の活動に積極的に取り組んでいるか。（行動の観察）</li> <li>・違いについて主体的に考察しているか。（ワークシート）</li> <li>・対話に必要なことを再整理し、深められているか。（ワークシート）</li> </ul> |
| 整理<br>10分 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・対話とは何かをまとめる。</li> <li>・本時の振り返り</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「対話とは何か」のまとめをふまえ、現代社会ではなぜ対話が重要なのかという点にも触れ、思考の深化を目指す。</li> </ul>                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「対話とは何か」を自分の言葉でまとめているか。（ワークシート）</li> </ul>   |

## 令和7年度 秋田市教育委員会指導主事訪問等学校訪問研究協議会〈国語科〉記録

日 時：令和7年10月31日(金) 13：40～14：30

場 所：語学室

司 会：須 田 州 逸

授業者：児 玉 睦 子

記 録：須 磨 薫

## 協議題 言語活動とICT活用のバランスについて

## 1 はじめに

- ・指導主事紹介(副校長より)
- ・協議会の流れについて(司会より)

## 2 授業者(児玉)より

- ・授業というのは全員が参加することが大前提で、そのうえで個人の学びと協働的な学びが融合することが大切だと考えている。今回はその融合をICTで支援する提案授業として展開を考えた。
- ・授業をするときに気を付けたことは、今回の授業がアクティビティや総合探究になってはいけないということ。グループワークのその先に、言葉の力に対する気づきを引き出す授業にするためにはどうしたらいいのか、ということを考えて。
- ・2Bの生徒は頑張ってくれたが、思考を深めたり、表現力を磨いたり、という点ではまだまだ指導できていないので、今後の言語活動を工夫して、深い学びのある授業を構築していきたい。
- ・「建設的に対話を進めることができる」という本時の目標をそもそも生徒たちは達成できていないので、この活動を再度行う必要があるとも感じている。
- ・ICTを取り入れる意味を考えている中で、国語という教科の特性上、使うのがいいときと、使わないことでかえって学びが深まる時がある。ICTは思考の拡張ツールであるが、思考の代替ではないので、今回は補助的な位置づけとして取り入れた。
- ・言語を吟味する時間を確保し、身体性のある活動を重視したうえで、振り返りをデジタルで可視化するというバランスを考えた。

## 3 質疑応答

- ・どのような場面でICTの活用がされていたか。(質問)
  - Google Forms・・・振り返り、意見の可視化に活用。
  - Google Sheets・・・普段から活用している、集約しやすい。
- ・背景色の違いに意図はあるのか(質問)
  - 特別な意図はないが、シンプルな色味、文字数に配慮している。
- ・信頼関係があるように見え、それが言語活動等の基盤となっている。
  - 今まで2年B組とどのような関わりがあったのか。(質問)
  - 愛情をもって接してきたこと、積み重ね。
- ・効果的なICTの利活用ができていたのではないか。(質問)
  - 国語科として言語活動とICT活動の融合をしていかなければならない。

#### 4 参観者ワークショップ(各グループからの質問と発表を抜粋)

- ・いろいろな作業があり、そのバランスがとれていたのではないかと同時に書くことの必要性を再認識した。また、書くことのできる能力の低下が危惧されている。
- ・AIの意見をツールとして効果的に活用できていた。
- ・バランスについて  
ICTの活用が対話、やりとり、思考の時間を生み出す意味。  
可視化、共有化など生徒の思考を深める意味。
- ・パソコンと向き合うと生徒は操作に気持ちがいきがちだが、生徒自身が言語活動に重きをおけていた。
- ・手でキャッチコピーを書かせたことに意味があったのではないかと。
- ・ICTの活用を目的化しないこと。
- ・落ち着いた雰囲気と授業の流れを感じた。
- ・ICTの活用では、動画で対話の例示、ICT（AIなど）と対話するという視点もあるのではないかと。
- ・板書した内容・・・生徒たちはそれを残せていたか。残せる手段の確保。
- ・本時の目標の評価について。

#### 5 指導助言

秋田市教育委員会学校教育課 副参事指導主事 横山靖子先生

- ・1時間の中で生徒自身が表現に関心を持っている印象。
- ・中学校との接続によりさまざまな力が更に深まっていくのではないかと。
- ・役割分担の感想を共有してみても良い。
- ・ICT活用の良さは、書き直すことができる、録画で振り返る、お互いの考えの共有など。
- ・キャッチコピーに対して意見を言い合っても良いのではなかったか。

秋田県立横手清陵学院高等学校 教育専門監 平田恵子先生

- ・事前の準備がなされていた。
- ・生徒の思考が深まり、言語活動がなされていた。
- ・学習指導案について 生徒観から生徒の姿がイメージできた。  
主体性、創造性を促すための工夫がされていた。
- ・ICTの活用について 

|                           |
|---------------------------|
| 商業高校全体の取り組みが見える。発言、操作性など。 |
|---------------------------|

  
⇒普段から活用されていることがわかる。  

|                                |
|--------------------------------|
| 共有や意見交換に効果を発揮する。入力していても思考は深まる。 |
|--------------------------------|

  
⇒他方、メモ書きは手書きの方が良い、思考の足跡を残すこと。
- ・授業の内容  
対話にいたるまでの準備、自分たちの中から出たものを活かしていることが主体性につながっている。役割分担について、よく理解できていた。
- ・対話とは何か、教科書の内容がよく頭に入っていた。
- ・教師役が難儀。ICTで例示、共有。事前に教師役の動画を準備していても良かったか。  
生徒役、妥協案を出すことができていた。観察者、役割としておもしろい働きをしていたのではないかと。
- ・生徒一人一人に役割を分担してみても良かったのではないかと。
- ・生成AI、キャッチコピーと商業科の関連・・・生徒はAIより良いもの、自分なりのより良いものをつくろうとしていた印象。

### ☆「生徒の様子」や「ICT活用」について、感想や気づいたこと

#### I <導入>参観のポイント ①本時の目標 ②授業の流れ

- ・生徒とよくコミュニケーションがとれており、ICT活用にも意欲的に取り組んでいると感じた。
- ・AIの答えを提示していたのが良い。
- ・スライドに本時の目標がはっきりと明示されていて、生徒がしっかりと理解していた。
- ・生徒は先生の話真剣に聞いていて、授業に対してのワクワク感も伝わってきました。
- ・②授業の流れ→流れを説明する時には、説明が一方的にならないように、生徒の反応を見ながら進めていて良かった。

#### II <展開>参観のポイント ③生徒の「なぜ」を引き出す発問の工夫

##### ④生徒の主体的・探究的・協働的に取り組む学習活動

- ・対話に演技を取り入れる意味をより深く意識させられるとさらによいと感じた。演技は思考力・判断力・表現力を必要とする言語活動と考えられるので、対話について学ぶにはよい試みだと思った。
- ・即興対話のテーマが生徒にとって身近で、自分事として考えやすかった。「対話の一言目を指定する」という、対話が進むようにする仕掛けが良かった。最後の「対話は必要か」という発問が、シンプルだが生徒にとって学びを整理する発問となっていた。さらに、ICTを活用したことで、教師側も生徒の理解度を即時確認でき良かった。
- ・グラフを提示するのはICTの良い点である。
- ・生徒同士がお互いに意見を言い合い、受け止め、納得できる新しい考えを模索していた。
- ・代表として発表してくれた班は意見対立の班であったようだが、そのおかげで対話とは相手をやり込めることではない、ということが分かりやすかった。

#### III <整理>参観のポイント：本時の目標に対する振り返り

- ・Google Formsの利用により、生徒が作成するのも教師が確認するのも効率的だと感じた。
- ・キャッチコピーを考えさせることで、学びがさらに深まったように見えた。
- ・生徒同士で対話を実践し、考察して気づいたことをまとめ、ICTを参考にしながらオリジナルのキャッチコピーを考えて手書きする、というプロセスにたくさんの活動が詰まっています。授業のまとめまでの流れが素晴らしかったと思います。
- ・キャッチコピーの例としてAIが考えた「対話とは」を紹介することは、どのようなものか考えるのか分かりやすかったし、AIに負けないように考えているところもよかった。時間の管理ができていた。授業でよくある「やりっぱなし」になっていないのが良かった。

### ☆授業全体を通して、感想や気づいたこと

- ・生徒の発言を引き出したり、上手く話せない生徒には援助したりしながら、生徒の考えを生かして授業を進めているところが素晴らしかった。あのような雰囲気だと、生徒も安心して発言できると感じた。
- ・教師が生徒の意見を要約したり、ヒントを出したり、生徒が学びを深める上で、効果的に指導していたのが印象に残った。大変勉強になりました。
- ・生徒は「対話」について共感的姿勢や論理的思考が大切だと理解していたし、グループで対話してみて、理解していても実践が難しいということも体験できた。対話を試みて対話に

対する考えが深まったと思う。

- 本時を含め、ICT活用と手書きの活動をうまく融合していた。自分も授業で試してみたい取組がたくさんある。かなり刺激になった。



## 地歴・公民科(地理総合)学習指導案

日 時：令和7年10月31日(金) 4校時

対 象：3年E組

場 所：3E教室

授業者：小林 稔 幸

教科書：新地理総合 (帝国書院)

### 1 単元名 「生活圏の調査と地域の展望」

### 2 単元の目標

- ・地域が抱える地理的な課題を地図やその他資料から多面的・多角的に捉える。
- ・地域の特徴や課題が日本全体や他地域との関係でどのように位置づけられるかを理解する。
- ・地域の特徴を踏まえ、その課題に対する解決策を自分なりに考察する。

### 3 単元と生徒

#### (1) 単元(教材)観

地域が抱える地理的な課題を、地図や資料から得た複数の要素を関連づけて多面的・多角的に抽出・分析する力を養う。

#### (2) 生徒観

情報コース35名のクラスである。活発に意見を表明できる生徒が多い。集中力が続かない生徒もいるが、ペアワークやグループワークではお互いの良さを認め合いながら学ぶことができる。一方で地理は暗記科目と捉え、背景にある因果関係や要因などを本質的に理解していない生徒も見受けられる。

#### (3) 指導観

時事問題や社会的な事象についてのニュースなどで情報を得てはいるが、一面的に捉える傾向にある。自分が共感できる情報のみで物事を捉え、その背景や異なる考えに至らない。

### 4 本校における「授業改善の課題(研修テーマ)」との関連性

- ・事象の背景、変化の過程、時間的な推移1つの情報、1つの側面だけでなく、様々な視点から情報を集め、分析し、考察する。

### 5 単元の指導と評価計画

#### (1) 単元の評価規準

| 知識・技能  | 思考・判断・表現                             | 主体的に学習に取り組む態度                 |
|--|--------------------------------------|-------------------------------|
| 地域の課題について地図、統計などの地理的資料から、調査テーマにとって有用な情報を適切に選び出す。 | 地域の課題について、複数の要因を踏まえて課題を多面的・多角的に考察する。 | 地域の課題に、自分自身が関心をもち、解決すべきだと考える。 |

(2) 指導・評価計画

| 時 | 学習活動                | 評価            |
|---|---------------------|---------------|
| 1 | 地域の課題への仮説の設定        | 知・技【ワークシート】   |
| 2 | 地域の課題について調査         | 思・判・表【ワークシート】 |
| 3 | 地域の課題について多面的・多角的に考察 | 思・判・表【ワークシート】 |
| 4 | 地域の課題への考察を検証・発表     | 主・知・技【協議・発表】  |

6 本時の指導計画

(1) 本時のねらい

- ・秋田市の公共交通の課題(路線バスの廃止)について、複数の要因を踏まえて課題を多面的・多角的に考察する。

(2) 本時の展開

| 段階        | 学習内容・活動  | 指導上の留意点  | 評価の観点【方法】   |
|-----------|--|--|---|
| 導入<br>10分 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標を確認する。</li> <li>・秋田市の公共交通について、どのような手段があり、どう利用されているか確認する。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・秋田市の公共交通網がどのようなになっているか確認させる。<br/>(バス路線図)</li> </ul>  |   |
|           | <p><b>本時の目標：公共交通（バス）における課題について、住民・企業・行政それぞれの視点から課題を考察する。</b></p>   |  |   |
|           | <p><b>発問：秋田市における公共交通の課題と原因は何か。</b></p>   |  |   |
| 展開<br>45分 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・6人一組でグループを作り、調査・分析・考察の準備をする。</li> <li>・バス路線図を確認し、どのような地域の路線が少ない、本数が少ないかを調べる。</li> <li>・公共交通のサービス縮小(路線廃止)により、どんな課題が発生するか考える。</li> <li>・公共交通の課題について、住民・企業・行政の視点から、課題と原因について分析する。</li> <li>・公共交通の課題について分析した結果を基に、それぞれの視点をから解決策や提言を発表・共有する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットで路線図や人口分布図などを調べるよう促す。</li> <li>・グループで課題について意見をまとめさせる。</li> <li>・グループの中で3つの視点に分けて分析させ、意見を共有させる。</li> <li>・解決策についてまとめ、発表させる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査・分析・協議に積極的に取り組んでいるか。<br/>(行動の観察)</li> <li>・三者の視点で考察することができるか。</li> <li>・考察した結果と解決策を表現できるか。</li> </ul> |
| 整理<br>5分  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のまとめと振り返りを行う。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民・企業・行政それぞれの視点から公共交通課題の解決策をまとめさせる。</li> </ul>   |   |

## 令和7年度 秋田市教育委員会指導主事訪問等学校訪問研究協議会〈地歴・公民科〉記録

日 時：令和7年10月31日(金) 13:40～14:30

場 所：204教室

司 会：藤 原 遥 子

授業者：小 林 稔 幸

記 録：秋 島 亜里紗

## 協議題 多面的・多角的に思考・判断・表現する授業展開について

## 1 はじめに

- ・指導主事紹介(教頭より)
- ・協議会の流れについて

## 2 授業者(小林)より

今回の授業に関して言うと、教科書の単元は最後の方で、例年これまでの最後のまとめとして地理的な基礎学力を身に付けた上で今回の課題に入るところだが、例年より少し早めて実施した。

公共交通を実施したきっかけは、例えば具合が悪い生徒が1人で帰る手立てがないことを知り、秋田市でもこのような状況になっていると感じたことと、私は五城目町出身だが、両親が免許を返納して交通弱者となったことが挙げられる。実家近くのスーパーが潰れてしまい買い出しにも40分ほどかかるようになってしまったり、自分たちで病院にも行けず家族で送迎するという状況になって改めて秋田の公共交通を学んでみたいと思い、今回の単元を課題設定とした。

教材研究をする中で、地域的な課題は誰かがやるのではなく、様々な視点が必要ということで、今年の本校の研修テーマである「多角」というところにフォーカスをあてるとともに、多角的というところに絞って、住民、企業、自治体の視点からまとめてみた。反省点はたくさんあるが、三者の視点をこちらから与えるのではなく、生徒からもっと引き出して複数の視点があることを考えさせればよかった。また、授業の最後が今日の授業で最も大事なところにも関わらず時間が無くてできなかったところが反省点である。地域調査や課題の決め方、調べる方法というのは、これを通して次の時間以降にもう一つ課題を自分たちで見つけてやり遂げるところまで行きたいと思っている。ただ多角的にという視点を生徒自ら持たせるためにはどうしたらいいのか、引き出し方が難しいと感じている。教材自体はおもしろいところであり、来年度以降もブラッシュアップしてやっていきたい。先生方からのご助言をいただきたい。

## 3 質疑応答

- ・今回6人一組の予定であったが、人数が少なかったのはインフルエンザの流行のためか？(質問)  
→三者の視点を持たせるため3人は必要であり、まとめる係を含む4人のグループにした。

#### 4 参観者ワークショップ

- (司 会)多面的とはものごとの多様な側面、政治や文化、生活面なども入ると考える。多角的とはさまざまな立場の視点から生徒たちが考えられるような授業展開であると考ええる。以上のところから先生方で話し合いをしてもらいたい。生徒たちが多面的、多角的に考えられるように教師はどんな働きかけや授業デザインをするか、特に小林先生からあった三者の視点を引き出すためにはどんな効果的なものがあるか、授業を見ていて思ったところや先生方自身も地域の一員としていろいろな視点から見て話し合いをしてほしい。
- (1 班)多面的・多角的にというところはグループ学習が効果的という話になった。実施にあたって適切な人数を考えなくてはならないと感じた。人間関係もあり、グループ学習が適切でも進めるのが難しい。身近な話題から生徒に考えさせることが大事で、物事には良い面悪い面があるため、生徒に良いことかどうかを気付かせる工夫も必要だという話になった。
- (2 班)日常に焦点を当てた分析から身近な教材の中で社会を捉えさせる。そこから課題を提示して考えさせる内容は勉強になった。多角的な視点で考えさせるという点では、まず生徒の知識の差異を埋めてあげることが必要だと思った。東京の生活感や、秋田市の中での生活の実態、本当に車だけという実態を捉えさせて、共通の知識を生徒に植え付けさせることが大切だと思った。だが本時の時間の中では厳しいことから、前時まででこれの内容があった上で、今回の先生方のわかりやすく楽しい、トラブルがなく生徒を動かせるワークショップが必要だと感じた。良い授業であり、四者とも非常に参考になる授業だった。
- (3 班)グループ学習のところでグループ分けで住民、企業、行政で考えさせる時に、最初に班分けした方がまとまった意見がスムーズに出たのではないかという意見があった。調べる時間が結構あったが、これを前もってやっておけば生徒たちが考える時間をとることができたのではないかという意見があった。
- (4 班)今回協議題が多面的・多角的に思考判断する授業展開だったが先生の考え方や教養、専門性の高さなど先生の人となりが見えて素晴らしい授業で勉強になった。先生の方から生徒に事前にこの視点から考えるよう指示があり、これを生徒から出させるということだったが、先生の指示は適切だったと思うが、先生が反省で述べたところを考えた時、もしかしたらもう少し時間をかけたらそういう視点が徐々に生まれてきたのではないかという話があった。最後の生徒のディスカッションを確保するためにも、タブレットで資料を調べさせるところをもう提示して、これについてどう思うという問いかけをして始まってよかったのではないか。グループ活動も効果的だったが、見通しを事前に示す役割を明示したり、誰がどういうことをやるのかと役割を明示したり、最初の情報収集したり個人で考察分析する時に、秋田市における公共交通を考えさせる課題について、困りごとを生徒が書いていたが、誰が主体なのかを考えられていなかったのも、主体を考えさせるところがあれば考える際にもっとよかったかと思う。とても勉強になった。
- (司 会)授業者と話をしたが、前半の導入や調べ学習を短めにして話し合う時間をとった方が良かったと話していた。最終的には、例えば生徒たちが「行政がやるべきこと」と「企業がやること」の区別があまり付いていないと感じたため、商業施設はだれが誘致す

るのか、例えば秋田市の外旭川イオン計画などを例に挙げて、秋田市とイオングループがどう協議しているのかを挙げて、最終的にはコンパクトシティや町作りの話につなげればまた新しい視点になるかと感じた。

(授業者)ご助言いただいたとおり、三つの視点に時間をかけるべきところでかけられなかったし、4人グループは三者とまとめを想定していたため、時間があればしっかり役割分けをするつもりだったが時間がなくてできなかった。時間配分や指示の仕方や本題をしっかりとやれるよう指示をしたいと思っている。

### 5 指導助言

**秋田市教育委員会学校教育課 副参事指導主事 堀井綾子 先生**

社会科の学習の面白さは自分と社会のつながりを意識して社会的事象や考えを深めていくことがおもしろさだと感じている。生徒が実感している公共交通の不便さをスタートにした授業ということで、こどもたちは自分のこととして考えることができていた。

社会科学習の接続も意識して話をしたい。本時の提示があった地理教育だが、小学校3年生からの学習である。社会科の地域の調べ学習、中学校で地理学習、高校はそれを踏まえて地理総合で主体的な学習をすることになっている。接続として大事なものは社会的な見方・考え方、これはいろいろな考え方として大事だが、社会ではここが大切である。社会的な見方・考え方を働かせた視点をもとに、生徒は自分の考え方で資料を見て、それをもとに表現していく。この視点を提示することも深い学びを実現する教師の手立てとなる。今日の協議題も小中学校で大切とされている。今回は三つの視点から課題を考える場が設定されていた。より多面的・多角的に考察して考えられるには、それぞれの立場で考えさせるのもひとつの方法である。それを提示した上でグループを三つに分ける。それぞれの立場で課題・原因・解決策をじっくりと調べ考えていくと提示して、じっくり調べた資料をもとに話し合っ、全体の場で共有し学びを深めることもできる。

小中学校でも様々な立場から社会的事象を考える場ができるように学習を進めていく。今後も小中学校の学びのつながりを意識した授業づくりを引き続き取り組んで欲しい。

**秋田県教育庁高校教育課 指導チーム 指導主事 岩谷宣行 先生**

地理総合の一番最後のところで、歴史総合や公共は学習指導要領に教科書の順番に実施すると明示されているが、地理の場合はそれがないため自由に実施できる。おそらく本来の流れとは違うところで投入されたと感じる。

この時間のことでお伝えしていくとすれば、一番初めのところで先生が投げかけた課題という言葉に対して生徒がうまく反応ができていないと感じた。これが正しいとすれば鍛えられる良い機会だと感じている。課題の部分で意図していたところが出てこなかった部分があった。先生が補足を加える場面がたくさんあり、新たな問いを投げかけられているような気分になってしまう部分があった。ともすれば何をするんだというところに生徒が立ち返ってしまうようなところがあったかもしれない。時間短縮を考えれば公共交通の課題は少ないというのが鍵になっていると思う。少ないから困っていると先生は言ったが、商業的・経済的な課題からすれば、少ないから困っているという人は少ないのではないかという考えもあるのではないか。需要と供給という部分は勉強していると思うが、そのあたりのところが生きていけばよかったかもしれない。時間が無くなっていたところもあったが、スライドも用意し

ていたので、時間がなければ「スライドを用意してきたが、なぜ用意したと思う？」という攻め方もあってよかったかもしれない。そういう方法もある。公共交通は大きな問題で、スライドで時間が無くてとばした所にたくさんのグラフが隠れていたが、あの辺を見せたらもっと生徒が考える時間が増えておもしろかったのではないか。次回披露する部分だと思う。

地理総合のまとめの部分だが、さまざまな部分に波及する学習だと思う。最低賃金の話になってきたり、最低賃金があがることによってどういう弊害があるか、ラウンドワンが無料のバスを出しているから需要がないわけではないなど探れるかなと思った。多角的・多面的に授業ができる授業單元においてはこの單元はとても良かったと思う。生徒は3年生だが残りの時間でいろいろなことを考える、今日はその一つの目標だと思うし、卒業に向けてより努力させてほしい。

### ☆「生徒の様子」や「ICT活用」について、感想や気づいたこと

#### I <導入>参観のポイント ①本時の目標 ②授業の流れ

- ・前回の振り返りから本時のテーマへのつながりが丁寧に説明されていた。
- ・目標が明確に提示されていた。
- ・ICTを使う目的が教師側から明確に指示されていて、生徒は前向きに作業に取り組んでいました。
- ・とても勉強になる授業の導入でした。

#### II <展開>参観のポイント ③生徒の「なぜ」を引き出す発問の工夫

##### ④生徒の主体的・探究的・協働的に取り組む学習活動

- ・多角的という部分に焦点を当て、生徒達が直面している公共交通の不便やについて三者の視点から気づきを得られるよう授業が展開されていた。
- ・グループで話し合う時間をもっと確保すると、興味深い意見が出てきたように感じました。
- ・普段の生活に関係していることを教材にすることで、生徒の学ぶ意欲が喚起されていました。
- ・具体例をあげて生徒の「なぜ」を引き出していた。

#### III <整理>参観のポイント：本時の目標に対する振り返り

- ・生徒は意欲的に話し合いに参加していた。
- ・時間が少し足りなかったように感じました。
- ・内容がもりだくさんで、時間が足りないようでした。教師側が答えを先にスライドに提示する場面では、生徒に考えさせて答えを導き出してもいいのでは、と思いました。
- ・ICTと板書を活用し、効率的に授業が展開されていた。

### ☆授業全体を通して、感想や気づいたこと

- ・自分がどこに一番力を入れたいのかを考えた上で時間配分するのはとても重要であることや、生徒自身に気付かせたい部分までどう持って行くのか授業の組み立てについて色々と学ぶことができました。
- ・生徒の考える視点(住民・企業・行政の立場)を明確にした方が、話し合いに深みが出たように思いました。(ロールプレイ的な要素を持たせるイメージかと)
- ・ICTを上手に使った見応えのある授業でした。お疲れ様でした。
- ・とても勉強になる授業展開でした。



# 令和7年度 秋田市教育委員会指導主事訪問等学校訪問〈全体会〉記録

日 時：令和7年10月31日(金) 14:40～15:20

場 所：会議室

司 会：副校長 櫻田 洋子

記 録：伊 藤 智 博

## 1 指導主事紹介(櫻田副校長)

|                |            |            |
|----------------|------------|------------|
| 秋田市教育委員会学校教育課  | 副参事指導主事    | 永 沼 崇 先生   |
| 秋田市教育委員会学校教育課  | 副参事指導主事    | 横 山 靖 子 先生 |
| 秋田市教育委員会学校教育課  | 副参事指導主事    | 堀 井 綾 子 先生 |
| 秋田県立横手清陵学院高等学校 | 教 育 専 門 監  | 平 田 恵 子 先生 |
| 秋田県教育庁高校教育課    | 指導チーム 指導主事 | 岩 谷 宣 行 先生 |

### 今年度の研修テーマ

深い学びと「問い」を生み出すための授業改善

～ ICTの効果的活用／多面的・多角的に思考・判断・表現する授業展開～

## 2 総評

### (1) 秋田県教育庁高校教育課 指導チーム 指導主事 岩 谷 宣 行 先生

#### ○県教育委員会としての学校訪問時の重点指導事項2つについて

##### ① 組織で取り組む魅力ある授業づくりの推進

- ・組織で取り組む魅力ある授業づくりとは、研修テーマの深い学びと「問い」を生み出すための授業改善である。
- ・深い学びにアプローチするために日々の授業の価値付け、意味付けすること。本時の目標の提示を今一度考えること。
- ・研究授業を担当していた小林先生は、しっかりと本時の目標を提示していた。

##### ② 「こころ 姿 ふるまい さわやか高校生」運動の推進による生徒指導の充実

- ・生徒指導の機能を活かした教育活動、授業の中での生徒指導の重要性について、生徒間の対話、互いの考え、互いを認め合うなどを推進していくこと。生徒指導には、生徒指導提要がある。インターネットでダウンロードし手元において活用すること。生徒指導の定義をよく理解し、生徒が自発的、主体的に成長できるように努めること。生徒指導と学習指導の一体化、授業に内在化した生徒指導を行ってほしい。
- ・いじめや不登校は組織で対応すること。いじめや不登校の生徒への対応は一人で抱え込むことなく、管理職等に相談し組織で対応にあたること。早めの組織対応を心掛けてほしい。

### (2) 秋田市教育委員会学校教育課 副参事指導主事 永 沼 崇 先生

#### ① 秋田市学校教育の基本方針と本校の学校経営について

令和4年3月改定の第4次秋田市教育ビジョンのキーワードである「自立と共生」は教育の根幹である。『徳・知・体』の調和がとれた学校教育の充実を行う。秋田市学校教育の重点項目6つについて確認すること。高田屋校長から学校経営方針について説明を受け

た。建学の精神、校訓の「感謝、勤勉、鍛錬」の意義の具現化を図るために、人間性教育を中心に学校運営にあたっていることを認識した。AKISHOPなどの秋商キャリア教育を通して地域と交流し、地域とのつながりを大切にしていることを理解した。

## ② 本校の学習指導及び一般授業について

「深い学びと『問い』を生み出すための授業改善～ICTの効果的活用／多面的・多角的に思考・判断・表現する授業展開～」の研修テーマのもと、研究を推進していることを理解した。ビジネス、観光などの学習を中心に充実したICT学習環境を効果的に活用し、学びを進めていることを伺った。子供たちが自ら学びを進めることができるようICTを積極的に活用し、適切に情報を選択する力や得られた情報と自分の考えとを組み合わせ、新しいものを生み出す力など、情報活用能力を身に付けさせることが必要である。

### ○参観した一般授業について

#### ・3CD 観光ビジネス

地域事業ブラッシュアッププランの導入の場面で、本時の学びに対して子供たちが見通しを持てるように工夫されていた。

#### ・1AB 簿記

簿記検定に向けて3つの教室に分けて授業が展開されていた。子供たちの学びの選択に対応できる取り組みが行われ、多様な学びの姿が展開されていた。子供一人一人に寄り添った授業が展開されていた。

#### ・3EF 英語コミュニケーションII

英文を作る場面で学習課題シートを活用していた。先生方は机間指導を行う中で個や全体に対する問いかけがなされていた。発表の声が小さい生徒に対して先生と子供たちがしっかり聞き、互い考えを共有しようとしていた。

#### ・2B 科学と人間生活

ブロッコリーのDNA抽出の場面において、グループでの役割分担や活動手順が丁寧に板書され示されており、子供たちが見通しをもって活動できる手立てとして講じられていた。抽出したDNAをタブレット端末で撮影後、Google Classroomに投稿するなどICTの特性を活かし学びの成果を振り返る環境が構築されていた。

## ③ 秋田市教育委員会からのお願いについて

### ・子供の安全安心について

交通事故については、今年度は昨日時点で58件と昨年度より多くの交通事故が発生している。そのうち44件は自転車による事故であり、一時不停止や運転操作ミスが多く見られる。また、子供が交通ルールを守っていても交通事故に巻き込まれる事案も発生していることから、子供自身が自らの命を守れるよう具体的な場면을想定させながら指導すること。事故以外にもいじめやトラブルが発生した時は、迅速かつ的確な組織的な対応が重要であり、対応に際しては一人の教員で抱え込むことなく、複数の職員で役割を分担し学校全体で対応すること。

### ・不登校生徒への支援の充実について

昨年度、市立小中学校の不登校生徒は812人と年々増加しており、憂慮する状況である。各校では、自己存在感を高める学級づくりや授業づくりとともに教育相談の充実など日頃から、不登校の未然防止に努めること。学校や教室が安心して過ごせる場所となるように取り組むこと。不当校生徒への支援では、生徒自らの未来に希望を持っ

て歩んでいけるよう、落ち着いて過ごせる居場所や学びの機会を保証するなど一人一人の状況に応じた支援が重要である。子供たちが生き生きと過ごせる学校づくりを進めていくこと。

### (3) 校長より

本日はお忙しいところ秋田市教育委員会の3名の指導主事、高校教育課岩谷指導主事、横手清陵学院平田専門監にお越しいただき、本校の教育活動についてご参観、ご指導を賜りましたことを心よりお礼申し上げます。本日の学校訪問では授業や生徒の活動、さらには学校経営の取り組みについて多角的な視点から貴重な助言と講評をいただいた。岩谷指導主事から指摘された通り、授業の導入の時点で本時の目標、テーマを提示することは定着しているとみているが、授業の中での振り返りが行われているかは、時間に追われてできていない状況もある。

本校では校訓である「感謝、勤勉、鍛錬」、「地域社会の貢献における実践力を取り組む、人間性を併せ持つ生徒育成」をもとに努力しているが、昨今は様々な発達段階の生徒がおり様々な対応が必要である。本日の指導を糧として今後も学校全体で努力して参りたい。今後ご指導、ご助言をお願いしたい。

1 今年度の目標

- (1) 教職員の資質向上と生徒理解・指導に役立つ校内研修を実施する。
- (2) 指導力の向上と授業改善及び生徒理解のため、授業公開週間を実施する。
- (3) 校外研修の情報を提供し、参加を奨励する。

2 今年度の重点的取り組み事項

◎校内研修は学校全体で取り組むことを前提とする。

- (1) 校内研修の円滑な実施  
時勢に合った研修を提案し、課題について教員間の共通理解を図る。
- (2) 授業公開週間の推進  
研修テーマを設定し、アピール授業実施により活性化を図るとともに、参観者の掌握を徹底する。
- (3) 校外研修の奨励と研修者の掌握  
適切な時期に適切な方法で案内し、研修参加者を一覧にして掌握する。

3 今年度の研修テーマ

深い学びと「問い」を生み出すための授業改善  
～ ICTの効果的活用／多面的・多角的に思考・判断・表現する授業展開～

4 今年度の実施研修内容

○：進路指導部と連携

★：保健教育相談部と連携

| 時期          | 研修内容等   | 対象  | 研修形態                              |
|-------------|---|-----|-----------------------------------|
| 4/ 1        | Google Classroom「研修部の部屋」開設                        | 全職員 | 研修等の情報提供                          |
| 4/ 4        | ① 秋田県教職員研修体系と研修講座案内について<br>② 研修部ロッカーの活用について       | 全職員 | 職員会議                              |
| 4/ 4        | 「研修部_年度当初アンケート」実施                                 | 全職員 | Google Classroom、<br>Google Forms |
| 4/28        | 令和7年度研修テーマについて                                    | 全職員 | 職員会議                              |
| 4/28        | 「研修部_年度当初アンケート結果」から見えてきた本校の課題の共有                  | 全職員 | 職員会議                              |
| 5/28        | 令和7年度 授業公開週間について実施要項提示・説明                         | 全職員 | 職員会議                              |
| 5/28        | 教師に求められる資質・能力について                                 | 全職員 | 職員会議                              |
| 5/28        | 「研修部_年度当初アンケート結果」から作成した個人票の配付                     | 全職員 | 職員会議                              |
| 5/28 ○      | 志望理由の指導用参考資料提示                                    | 全職員 | 職員会議                              |
| 6/ 2～6/18   | 授業公開週間(前期)  | 全職員 | アピール授業・授業参観                       |
| 6/23        | 授業アンケート実施要項提示                                     | 全職員 | 職員会議                              |
| 8/18 ★      | 救急救命講習  | 全職員 | 校内職員研修                            |
| 8/25        | 授業アンケート1回目結果報告                                    | 全職員 | 職員会議                              |
| 9/22        | 授業公開週間(後期)について                                    | 全職員 | 職員会議                              |
| 10/21～11/ 7 | 授業公開週間(後期)  | 全職員 | アピール授業・授業参観                       |
| 1/13        | 生成AIやデジタルツールの業務への活用<br>～生成AIの活用事例、使わない方がよい場面について～ | 全職員 | 校内職員研修                            |
| 1/21        | 授業アンケート2回目結果報告                                    | 全職員 | 職員会議                              |
| 2/25        | 中堅教諭等資質向上研修報告                                     | 全職員 | 職員会議                              |
| 随時          | 『研修部の本棚』への書籍の追加                                   | 全職員 | 書籍の設置・貸し出し                        |
| ～年度末        | 年間の研修記録を集録し、研修集録にまとめる                             | 全職員 | 配付                                |

## 令和7年度 授業公開週間 実施報告

1. 趣 旨 お互いに授業を参観し合うことで、指導力の向上と授業改善を図るとともに生徒理解に役立てる
2. テー マ 深い学びと「問い」を生み出すための授業改善  
～ICTの効果的活用／多面的・多角的に思考・判断・表現する授業展開～

### 【授業をするに当たっての重点的取り組み事項】

- ① 【本時の目標】を提示
- ② 【授業の流れ】を明示
- ③ 生徒の「なぜ」を引き出す発問を工夫
- ④ 生徒が多面的・多角的に思考・判断・表現し、学びを深める場面や時間を設定（グループ活動・調べ学習・考察・発表など）※ICT機器の活用
- ⑤ 【本時の目標】に対する振り返り

3. 期 間 前期 6月2日(月)～6月18日(水)  
後期 10月21日(火)～11月7日(金)

### 4. 実施方法

- (1) 各教科 各教科代表者1名以上(アピール授業者)  
商業科は分野ごとの代表者1名以上  
理科・家庭科・芸術科については毎年の実施は求めない  
\*アピール授業実施前に最低1回は科会を開き、科全体で協力してその授業に関わる
- (2) アピール授業者
  - ① 1週間前までに「アピール授業一覧」に授業内容を記入(授業変更板に掲示)
  - ② 学習指導案(略案)を3日前までに作成  
「校務分掌 → 研修部 → R7 → 授業公開週間」に保存
- (3) 全職員 自教科1時間以上 + 他教科1時間以上 = 計2時間以上参観  
理科・家庭科・芸術科は他教科2時間以上参観  
参観はフリー形式とし、授業時間の半分(25分)は参観する

\*「参観シート」は1授業につき1枚持参、Google Formsに参観後1週間以内に入力

\*Formsの回答状況で参観者を掌握 → 研修部でデータを取りまとめ → 授業者へ

## 商業科(原価計算)学習指導案

日 時：令和7年6月3日(火) 1校時

対象生徒：2年A組

使用教科書：TAC株式会社『原価計算』

授業者：千葉知美

### 1 単元名 標準原価計算

### 2 単元の目標

- (1) 標準原価計算の理論を理解し、標準原価計算の処理ができている。  
(知識及び技術に関する目標)
- (2) 標準原価計算の方法の妥当性と実務における課題を発見し、自身の考えを明瞭に表現している。  
(思考力、判断力、表現力等に関する目標)
- (3) 標準原価計算について自ら学び、標準原価計算に関する技術を習得しようと主体的・協働的に学習に取り組んでいる。(学びに向かう力、人間性等に関する目標)

### 3 単元と生徒

#### (1) 単元観

標準原価計算に関する知識、技術などを基盤として、標準原価計算の方法を実務に適用し、原価情報を効果的に活用できることを学習の目的としている。

#### (2) 生徒観

生徒全員が1年次に日商簿記3級を習得しており、簿記に関する基礎知識を十分に身に付いている。また家庭学習の習慣も定着しており、友人同士でわからない部分を教え合うなど、前向きに学習に取り組む生徒が多い。一方で、問題の正答を得ることだけを目的とし、解答の形を暗記するだけで、会計理論を本質的に理解していない生徒も見受けられる。そのため、応用問題への対応が難しいという課題がある。今後は、生徒たちの強みである協働性や向学心を授業に活かしながら、本質的な「わかる」を引き出す授業づくりを考えていきたい。

#### (3) 指導観

この授業では、生徒の学習意欲を高める手立ての一つとして、日商簿記2級に挑戦させている。日商簿記2級を合格するためには、問題の意図を正しく読み取り、問題解決に必要な手段を適切に選択する思考力や判断力が必要不可欠である。そのため、授業の中にさまざまな言語活動を取り入れ、生徒の思考力や判断力の向上を図っていきたい。

#### 4 単元の評価規準

| 知識・技術   | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度   |
|---|---|---|
| 標準原価計算の手続きや目的を理解し、標準原価計算の差異分析や記帳を正しく行うことができる。 | 標準原価計算の方法の妥当性と実務における課題を見だし、自身の考えを明瞭に表現しようとしている。 | 標準原価計算について自ら学び、標準原価計算の技術を習得しようと、主体的に問題演習に取り組んだり、積極的に意見交換をしたりしている。 |

#### 5 本時の計画

##### (1) 本時のねらい

言語活動を通して、標準原価計算の妥当性について正しく理解させる。

##### (2) 展開

| 段階  | 学習活動   | 指導上の留意点  | 評価  |
|---|--|--|---|
| 導入<br>10分   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○「標準」という言葉について考え、意味を理解する。</li> <li>○既習の原価計算と標準原価計算の違いを確認する。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○「標準」という言葉の意味を正しく理解させ、標準原価計算の体系をイメージさせる。</li> <li>○標準原価計算が原価を管理するための原価計算手法であることを理解させる。</li> </ul>                         |   |
|   | ○本時の学習課題を理解する。   | ○教科書とスライドを用いて授業を進める。   |   |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <b>本時の目標：標準原価計算の手続きを理解し、標準原価計算を採用することの利点を表現できる。</b> </div> |  |  |   |
| 展開<br>35分   | <ul style="list-style-type: none"> <li>①標準原価計算の手続きを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・標準原価の計算〔問題演習〕を行う。</li> <li>⇒ペアで解答状況を確認する。</li> </ul> </li> <li>②標準原価計算を採用することの利点について考える。</li> <li>③他者の意見から、自分の考えを深める。<br/>(発表者:他者に意見を適切に伝える)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○問題演習の際には机間巡視および指導を行い、理解が浅い生徒に適切な支援を行う。</li> <li>○よく表現できている生徒を認め、発表を促す。</li> <li>○書画カメラに生徒のワークシートを映し、良い点を解説する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者と協働しながら、主体的に学習に取り組んでいる。〔観察〕</li> <li>・自分の考えを明瞭に表現できる。〔ワークシート・発表〕</li> </ul> |
| 整理<br>5分  | ○本時のまとめと振り返りを行う。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○自身の理解状況を正直に記入させる。</li> <li>○ワークシートを回収し、生徒の理解度を把握する。</li> </ul>   |   |

### ☆「生徒の様子」や「ICT活用」について、感想や気づいたこと

#### I <導入> 参観のポイント ①本時の目標 ②授業の流れ

- ・検定への意識づけや、本時やることが明確に提示されておりわかりやすかった。
- ・生徒は応答やプリントへの記入など、主体的に授業に参加している様子うかがえた。
- ・初めて実施する单元なので、言葉の意味から丁寧な説明がされていた。
- ・学習内容が、分かりやすくスライドで提示されていた。
- ・初めての学ぶ単元の導入部分に工夫がされていた。
- ・本時の目標がしっかり定められていた。

#### II <展開> 参観のポイント ③生徒の「なぜ」を引き出す発問の工夫

##### ④生徒の主体的・探究的・協働的に取り組む学習活動

- ・「標準」という言葉の意味を考えさせることで、既習の原価計算との違いを意識させることができたと感じる。また、辞書係に発表させ意味を明確にしたことで知識の正しい定着が図られている。
- ・スライドでの図示により、標準原価と実際原価のイメージを掴みやすくしている。
- ・やるべきことが明確なので、生徒は学習に対する充足感が得られると感じた。自教科(国語)でもやるべきこと・身につける力をより明確に生徒に提示することが必要だと感じた。
- ・なぜ標準原価を使った計算の必要性があるかを、経営者目線で考えることで3年次の管理会計の学習に繋がると思った。
- ・ペアワークの時間は、活発な意見交換をする姿が見られたので大変効果的であった。
- ・「標準原価」と「原価標準」の意味を考えさせていた。
- ・思考するのに難しい分野ではあるが、言語化などの工夫が随所に設けられていた。

#### III <整理> 参観のポイント：本時の目標に対する振り返り

- ・授業の最後まで居られなかったので振り返り部分を見る事が出来なかった。
- ・積極的に学習に臨む様子を感じた。

### ☆授業全体を通して、感想や気づいたこと

- ・指示や説明が明確で、授業力の高さを感じました。中堅研の先生方は自身のスキルアップに加え、後進の指導も視野に入れる段階なので、先生のよいところをどんどん他の先生方に波及させてほしいと願っています。最初のアピール授業、お疲れ様でした。
- ・「自分の言葉で表現できるように」が印象に残った。内弁慶な秋商生に一番必要なスキルだと思う。
- ・大変丁寧な指導が印象的でした。最後の本時のまとめの場面でも、自分の考えをまとめる前に意見共有の時間を設けることで、理解がさらに深まるのではないかと感じました。
- ・参考にさせていただきます。

# 商業科 学習指導案（略案）

授業者：石 田 雄 哉  
 千 葉 知 美  
 渡 辺 淳 一

- 1 実施日時・場所：6月12日(木) 2校時 205教室
- 2 実施科目：財務会計 I
- 3 学年・クラス：2年 A・B組
- 4 単元名：第4編 財務諸表の活用
- 5 本時のねらい：・本物の財務諸表を活用し、各社の財務情報・指標を比較させる。  
・会計書類の情報をグループで整理し、会社の業績について根拠を持ってまとめる。

## 6 学習の流れ

| 学習活動 (50分)   | 指導上の工夫・留意点   | 評価方法  |
|--|--|---|
| <b>【導入 (15分)】</b><br>・ガイダンス、指標の説明<br><br><b>【展開 (25分)】</b><br>・グループごとに財務諸表の数値を調べて、スプレッドシートにまとめる (15分)<br>・調べた指標を元に各班の意見をまとめる (10分)<br><br><b>【まとめ (10分)】</b><br>・いくつかの班に発表してもらう。 | ・あらかじめクラスルームにログインさせる。配信は説明後。<br><br>・グループ内で担当企業を決め、それぞれが検索し同時に入力させる。<br>・根拠をしっかりとつけることを強調する。<br><br>・教師機でスプレッドシートを表示し、生徒はその場で発表する。 | 【主体的】<br>机間巡視・観察<br><br>【主体的】<br>発表<br>【思考】<br>スプレッドシート |

### ☆「生徒の様子」や「ICT活用」について、感想や気づいたこと

#### I <導入> 参観のポイント ①本時の目標 ②授業の流れ

- ・目標について繰り返し確認をしていた。
- ・本時の目標に加えて評価規準も提示することで、生徒達にとっては、本時の学習に対して自分がどこを目指してどのように取り組むべきか、見通しが明確になると感じた。
- ・生徒の人数が多かったものの、やることの指示や注意事項が明確でスムーズに取り組むことができていたと思います。
- ・本時の目標がしっかり定められていた。

#### II <展開> 参観のポイント ③生徒の「なぜ」を引き出す発問の工夫

##### ④生徒の主体的・探究的・協働的に取り組む学習活動

- ・個別学習と協働学習の場面が設定されていた。どちらの場面も生徒は集中して取り組んでいた。
- ・調べる内容を一人一担当にしたことで、一人一人責任と主体性を持って取り組んでいた。
- ・有名で具体的な企業が取り上げられており、生徒の関心を引き出し、学習したことが社会の中で具体的にどのように役立つかを実感させることができる授業だと思いました。
- ・思考するのに難しい分野ではあるが、言語化などの工夫が随所に設けられていた。

#### III <整理> 参観のポイント：本時の目標に対する振り返り

- ・実際の会社が出している資料を読み解くことで知識としてだけでなく、情報を活用する能力を身に付けさせる授業だった。
- ・自分たちが学習している内容が実社会で利用されている内容だという話があり、今後の学習に生徒達も自分事として学習に取り組めるのではないかと感じた。
- ・積極的に学習に臨む様子を感じた。

### ☆授業全体を通して、感想や気づいたこと

- ・授業で学んだことを実社会で活用できることを学ぶ良い授業であった。
- ・話し合いの材料となる資料が整っていない班があったのが残念だった。
- ・評価規準を生徒に明確に提示して、生徒のやる気を引き出すような工夫をぜひ見習いたいと思いました。

# 理科 学習指導案（略案）

授業者：高 田 冬 深

- 1 実施日時・場所：6月12日(木) 3校時 化学室
- 2 実施科目：生物基礎
- 3 学年・クラス：3年E組
- 4 単元名：第1章 生物の特徴 第3節 光合成と呼吸 ④酵素の性質
- 5 本時のねらい：実験を通して酵素の基本的な性質について正しく理解する。
- 6 学習の流れ

| 学習活動（50分）   | 指導上の工夫・留意点   | 評価方法  |
|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のねらいの確認</li> <li>・酵素の性質の復習</li> <li>・実験器具の確認</li> <li>・試験管に基質である過酸化水素を入れ、pHの測定を行う。</li> <li>・触媒を入れたときの反応について班で話し合い予想を行う。</li> <li>・触媒を入れて気体の発生を確認し、線香の火を入れたときの反応を観察する。</li> <li>・各班の結果を黒板にまとめる。</li> <li>・実験結果からわかることを考察する。</li> <li>・後片付け</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・酵素の基本的な性質である最適温度と最適pH、基質特異性について確認する。</li> <li>・実験器具の取り扱いについて注意し、ガラス器具を丁寧に扱うことを徹底させる。</li> <li>・試薬が手につかないように留意する。</li> <li>・基質と触媒の関係について再度確認し、予想を立てやすいように補助する。</li> <li>・線香とマッチの取り扱いに注意させ、火の始末についても徹底させる。</li> <li>・生の肝臓と加熱済肝臓、pHの違いによる反応の違いについて意識させる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・班で協力して準備しているか。</li> <li>・正しい手順で実験に取り組んでいるか。</li> <li>・根拠を示して予想できているか。</li> <li>・結果をちゃんとまとめているか。</li> <li>・班で結果を共有し、協力して考察できているか。</li> </ul> |

### ☆「生徒の様子」や「ICT活用」について、感想や気づいたこと

#### I <導入> 参観のポイント ①本時の目標 ②授業の流れ

- ・目標や授業1時間の流れがハッキリわかりやすく記入されており、限られた時間で実験を行うための準備がしっかり行われているのがわかった。
- ・実験の目的を言葉だけでなく、図に書いて説明していた。学習のイメージ・実験のねらいがよくわかり、参考にしたいと感じた。
- ・授業の内容が多く、50分で終わることができるか不安な量だったが、本時の目標も授業の流れも、あらかじめ黒板に書かれており、スムーズに授業が展開されていた。

#### II <展開> 参観のポイント ③生徒の「なぜ」を引き出す発問の工夫

##### ④生徒の主体的・探究的・協働的に取り組む学習活動

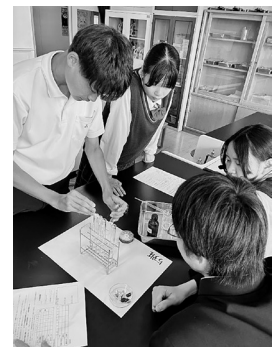
- ・実験予想をグループで話し合う場面があり、あまり考えられない生徒にとっても理解度の高い生徒の意見をもとに予想するという意味で効果的であった。
- ・③既習内容の確認をクイズのようにして問いかけしていた。先生の問いかけが上手で男子生徒が積極的に答えており、授業の雰囲気良かった。
- ・班での予想と実験結果が違うのはなぜか、pHがA～Cで同じくなるはずなのにならないのはなぜか、発生した気体を確かめるために線香を使うのはなぜか、多くの場面で生徒は「なぜ」を考えていたように思います。
- ・前時に酵素(カタラーゼ)の性質、及び $2\text{H}_2\text{O}_2 \rightarrow 2\text{H}_2\text{O} + \text{O}_2$  を学習しており、酸素が発生することを実験前にも確認しているが、試験管から泡が発生しても酸素発生と結びつかない生徒も多い。実験で体験し、確認することで知識が結びつき、学びが深まった。

#### III <整理> 参観のポイント：本時の目標に対する振り返り

- ・実験結果から酵素の性質について振り返る時間が確保されていた。
- ・酵素の基本的な性質のうち、最適pHの確認ができ、カタラーゼの反応が二酸化マンガン(無機触媒)と同じであると経験し、理解につながったと思う。
- ・グループで生徒同士が仕事を分担し合っていた事が素晴らしい。皆、実験結果に集中していた。教師の指導力が分かる授業であった。

### ☆授業全体を通して、感想や気づいたこと

- ・予想や実験結果を、Google Formsに入力することで一斉に見るというスタイルでICTの導入も可能かと感じた。しかし、現在の黒板に予想や結果を全て板書していくスタイルは、全ての流れを見ることができる利点もある。ICTで同じように出来る方法について、自分自身も調べてみたいと感じた。生徒たちが活発に実験・意見交換をしている、大変楽しい授業でした。
- ・実験は時間配分が非常に難しいと思いますが、説明を聞く、実験する、意見交換、まとめるなど、先生が的確に指示してメリハリをつけることでスムーズに1時間で授業の流れに沿って進められていた。大事な部分は実際に注目させてみせるなど安全面や作業面での指示もわかりやすく進められていた。



# 数学科(数学A)学習指導案

日 時：令和7年6月13日(金) 6校時

場 所：2B教室

対 象：2年B組

授業者：宇佐美 圭 介

教科書：数研出版『新編 数学A』

## 1 単元(題材)名

場合の数と確率 場合の数

## 2 単元(題材)の目標

- (1) 順列や組合せの意味を理解し、順列や組合せの総数を求めることができる。(知識及び技能)
- (2) 事象の構造などに着目し、場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 学び合いを通して、場合の数を求める方法について理解を深める意欲がある。(学びに向かう力、人間性等)

## 3 単元(題材)と生徒

### (1) 単元(題材)

順列と組合せの違いや関係性について理解を深め、事象の構造を読み取り、適切な計算を選択できるようにしたい。

### (2) 生徒観

男子17名、女子20名、計37名のクラスである。学習に向かう姿勢が良好であり、問いかけに答えようとする意欲がある生徒が多い。

### (3) 指導観

順列と組合せの違いや関係性について、生徒とのやり取りを通して解説を進めることで理解を深めさせ、問題文を読み取る際に混同させないようにしたい。

## 4 単元(題材)の指導計画

場合の数と確率(総時数30時間)

- (1) 場合の数 …14時間(本時11 / 14)
- (2) 確率 …16時間

## 5 単元(題材)の評価規準

| 時間    | (ア) 知識・技能                          | (イ) 思考・判断・表現                               | (ウ) 主体的に学習に取り組む態度                   |
|-------|------------------------------------|--|-------------------------------------|
| 評価の観点 | 順列や組合せの意味を理解し、順列や組合せの総数を求めることができる。 | 事象の構造などに着目し、場合の数を求める方法を多面的に考察し、立式することができる。 | 学び合いを通して、場合の数を求める方法について理解を深める意欲がある。 |

6 本時の計画

(1) 本時の目標

組合せについて理解し、組合せの総数を求めることができる。

(2) 展開

| 時間        | 生徒の学習活動  | 指導上の留意点  | 評価場面・評価方法   |
|-----------|--|--|---|
| 展開<br>5分  | <ul style="list-style-type: none"> <li>組合せの意味を確認する。</li> <li>本時の目標を確認する。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>順列との意味の違いについて説明する。</li> </ul>   |   |
| 展開<br>40分 | <p>例 <math>a, b, c, d</math> から異なる3文字を取り出すとき、取り出し方の総数を求める。</p>   |  |   |
|           | <ul style="list-style-type: none"> <li>取り出し方を具体的に答える。</li> <li>順列の場合どうなるかを考える。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>必要であれば周囲の生徒と話し合わせる。</li> </ul>  |   |
| 展開<br>40分 | <p>発問：組合せ <math>{}_4C_3</math> と順列 <math>{}_4P_3</math> にはどのような関係がありますか。</p>   |  |   |
|           | <ul style="list-style-type: none"> <li><math>{}_4C_3 \times 3! = {}_4P_3</math> であることに気づく。</li> <li><math>{}_nC_r</math> と <math>{}_nP_r</math> の関係について考える。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li><math>{}_4C_3 = \frac{{}_4P_3}{3!}</math> であることを確認させる。</li> <li><math>{}_nC_r \times r! = {}_nP_r</math> であることに気づかせ、<math>{}_nC_r = \frac{{}_nP_r}{r!}</math> であることを確認させる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>組合せの総数を求めることができる。(ア) (観察)</li> </ul> |
|           | <p>練習24、25</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>組合せの性質を確認する。</li> </ul> <p>練習26</p> <p>プリント</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>一人で解く時間を取った後、周囲の生徒と確認させる。</li> <li>生徒の解答を投影する。</li> <li><math>{}_nC_n = {}_nC_0 = 1</math> であることを強調する。</li> </ul>   |   |
| まとめ<br>5分 | <p>本時の内容をまとめる。</p>   |  |   |

協議の視点 生徒の興味を引き、組合せについての理解が得られていたか。

## ☆「生徒の様子」や「ICT活用」について、感想や気づいたこと

### I <導入> 参観のポイント ①本時の目標 ②授業の流れ

- ・本時の目標が分かりやすく説明されていた。
- ・本時の目標が明確で、生徒たちがよく理解しているようであった。

### II <展開> 参観のポイント ③生徒の「なぜ」を引き出す発問の工夫

#### ④生徒の主体的・探究的・協働的に取り組む学習活動

- ・教師側の問いかけに対して、生徒がしっかり応じ、意欲的に学習に取り組んでいたように感じます。意欲的な生徒が多いため、生徒に解答を説明させるなどすると、授業に広がりが出るような気がしました。
- ・生徒はしっかり授業に参加していた。ICTの活用も効果的であった。
- ・「教科書を見ると答えがついているので、面白くない。教科書を閉じましょう。」自分で $4C_3$ と $4P_3$ の関係を考える面白さがあると思います。
- ・順番が関係ないのが組み合わせであるという考えをしっかりと理解できていたようだ。
- ・教師の発問に生徒たちの反応が大変良く、意欲的に学ぶ姿勢が見られた。生徒のノートを映像に写し、掲示するなど参考になった。

### III <整理> 参観のポイント：本時の目標に対する振り返り

- ・教師の細やかな質問に生徒が自由に答える形で授業がすすんでいた。大部分の生徒が内容を理解していたように思うが、分からない生徒が自力で答えを考え出す時間が少なかったように思う。
- ・振り返り(①自力でわかった ②相談してわかった ③相談したけどわからなかった ④相談せずわからなかった)をこの内容で毎回やっていると、生徒は、まず自力でなんとかしよう、相談してでも理解しよう、と考えるようになると思います。

## ☆授業全体を通して、感想や気づいたこと

- ・順列や組合せは日常生活に関連している事柄が多いため、生徒に関連事項を出させるなどすると、面白いかもしれないと感じました。
- ・導入、説明、ICT活用、生徒の動かし方等とても洗練されていて安心できる授業でした。
- ・生徒とのやり取りを通して解説を進めており、生徒が授業に参加し活発に理解を深めている様子が印象的でした。
- ・PとCの違い、Cの公式を導き出す過程を生徒が理解できていたようで良かったと思う。
- ・生徒に気づかせたり、生徒の考えをうまく引き出したりしているように感じた。



## 保健体育科 学習指導案（略案）

実施日時：令和7年6月17日(火) 1校時

場 所：体育館

対 象：1年E・F組

授 業 者：佐藤 悠香

### 1 単元名 陸上競技(ハードル走)

### 2 単元の目標

- (1) ハードル走において、スピードを維持した走りからハードルを低く越すことができる。(知識及び技能)
- (2) 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) ハードル走に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどをして、健康・安全を確保したりしている。(主体的に学習に取り組む態度)

### 3 単元と生徒

#### (1) 単元観

ハードル走は、インターバルのリズミカルな走り方とスピードに乗った滑らかなハードリングを身につけることで、フラット走に近いタイムで走りきる爽快感を味わうことができる運動である。本単元を通して、技術の習得や向上に向けて、自己に適した課題を見付け、課題に応じた練習に取り組んでいく学習過程に楽しさややりがいを味わうことができるようになることを目標としている。

#### (2) 生徒観

運動に対して意欲的に取り組める生徒が多く、ハードル走に対しても前向きに挑戦している生徒が多い反面、ハードルを越えることに恐怖心を抱いていることから練習に対して消極的な生徒もいる。また、技能の習熟度も幅広く、それぞれの課題に応じた練習の工夫が必要なクラスである。

#### (3) 指導観

生徒一人一人が自己の課題を見だし、その解決のために挑戦する学習過程に楽しさを見いだしてほしいと考えている。そのために、生徒同士が互いの違いに配慮しながら、協働的に課題を解決する場を設定したり、段階的な指導を行ったりするなど、粘り強く挑戦できる手立ての工夫を図っていきたい。

### 4 指導と評価の計画

|        |          |     |               |               |
|--------|----------|-----|---------------|---------------|
| 【指導計画】 | (1) 導入   | 1時間 | (3) 課題別練習     | 3時間(本時 1 / 3) |
|        | (2) 基本練習 | 2時間 | (4) 技能テスト・まとめ | 2時間           |

【単元の評価規準】

| 知識・技能                         | 思考力、判断力、表現力等  | 学びに向かう力、人間性等  |
|-------------------------------|---|---|
| スピードを維持した走りからハードルを低く越すことができる。 | 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。 | 自主的に取り組むとともに、練習の成果などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとする事、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする事などをしたり、健康・安全を確保したりしている。 |

5 本時の学習(本時4／8)

- (1) 目標 自己や仲間の課題を発見し、解決に向けて自己の考えたことを他者に伝えている。  
(思考力、判断力、表現力等)

(2) 本時の展開

| 過程        | 学習活動   | 形態       | 教師の支援及び留意点  |
|-----------|--|----------|---|
| 導入<br>10分 | 1 整列、挨拶、出席確認<br>2 準備運動<br>3 本時の目標と流れの確認  | 一斉       | <ul style="list-style-type: none"> <li>全体を見ながら、適切に運動できていない生徒に助言をする。</li> <li>前回の授業で課題に感じたことを発問し、発言から目標提示につなげる。</li> </ul>   |
|           | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【本時の目標】</b><br/>課題解決に向けて、仲間同士で互いの走りを観察・アドバイスし合いながら練習しよう。</p> </div>   |          |   |
| 展開<br>35分 | 4 技術ポイントの確認<br>5 互いの動きを観察・アドバイスし合いながら練習<br>(1) ペアをつくり、最初に走る側とチェックする側を決める。<br>(2) 走る人は2本走り、チェックする方はチェックポイントに沿って仲間の走りをチェックする。<br>(3) チェックした人から、走った人に課題解決に向けたアドバイスをする。<br>(4) 役割を交代して、(2)、(3)を繰り返す。 | 一斉<br>ペア | <ul style="list-style-type: none"> <li>映像と学習シートで、ポイントを確認させる。</li> <li>安全の確保のために、生徒の動きの導線等について指示する。</li> <li>課題解決に向けたアドバイスをすることに苦慮している場合には適切な支援をする。<br/>(運動観察のポイントの確認等)</li> <li>ハードルを越えることに対して、恐怖心を抱いている生徒には、ハードルを低くしてあげるなど支援する。</li> <li>生徒の良いアドバイスについては全体で共有し、課題解決に向けての示唆を与える。</li> </ul> |
|           | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【評価】(思考力、判断力、表現力等)</b><br/>自己や仲間の課題を発見し、解決に向けて自己の考えたことを他者に伝えている。<br/>(観察・学習シート)</p> </div>  |          |   |
| まとめ<br>5分 | 7 本時のまとめと振り返り<br>8 挨拶  | 一斉       | <ul style="list-style-type: none"> <li>仲間からのアドバイスで動きが改善した生徒に発表を促す。</li> </ul>   |

〈協議の視点〉 多面的・多角的に思考・判断・表現する授業が展開されていたか

### ☆「生徒の様子」や「ICT活用」について、感想や気づいたこと

#### I <導入> 参観のポイント ①本時の目標 ②授業の流れ

- ・「思考・判断・表現」の目標達成のために複数回アドバイスの機会を設け、生徒同士、また生徒教員間での言語活動が豊富だったことが印象的でした。その中で体育的な技能の習得もしっかりされており、流れもスムーズで勉強になりました。
- ・本時の目標を達成していた。導入時にICTを活用していたのは効果的であった。
- ・前回の課題を明確にし、相互の技術向上の雰囲気を作られていた。

#### II <展開> 参観のポイント ③生徒の「なぜ」を引き出す発問の工夫

##### ④生徒の主体的・探究的・協働的に取り組む学習活動

- ・技能チェックが細かく分類されていることで修正すべきポイントが明確になりやすく、わかりやすかったです。生徒の発表に対するフィードバックも思考をさらに深める内容で、体の構造からハードル走における効率的な動かし方まで広く考えを巡らせる時間になりました。
- ・体育館でもタブレットが使えるので、お互いに動画を撮影し合って動作についてアドバイスしてもよかった。
- ・生徒は相互の課題を明確に指摘しあい、反復練習の繰り返して、確実に技術向上が見られているように感じた。ペアの課題を理解することで、自らの課題克服を図っていたようにも感じた。

#### III <整理> 参観のポイント：本時の目標に対する振り返り

- ・生徒の授業の取り組みが良かった。教師の意図するとおり授業が進んでいたように思いました。
- ・生徒は授業のねらいを十分に理解し、熱心に取り組んでいた。全体的な技術向上が見られた授業であったと思う。

### ☆授業全体を通して、感想や気づいたこと

- ・体育の時間とはいえずっと体を動かし続けるのではなく、「知識・技能」と「思考・判断・表現」のバランスが最適な授業だったと思います。結果として技能面でも成長が見られ、大変勉強になりました。
- ・教職経験年数に裏打ちされた、無駄のないスムーズな授業でした。生徒の動かし方も好感の持てるものでした。一つ思ったのは、観察する側が横からの観察だけでなく、正面から見たらもっと違うアドバイスができたかもしれません。
- ・生徒が意欲的に授業に参加していた。素晴らしい授業でした。



## 商業科 学習指導案（略案）

授業者：石 崎 絵里香

- 1 実施日時・場所：10月28日(火) 5・6校時 3A教室
- 2 実施科目：総合実践
- 3 学年・クラス：3年A組
- 4 単元名：ライフプランニングと資金計画
- 5 本時のねらい：マネープランゲームから将来の資金計画の見通しを持たせる
- 6 学習の流れ

| 学習活動（100分）  | 指導上の工夫・留意点   | 評価方法               |
|---|--|--------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の目標の確認(5分)</li> <li>・ 20歳代の人生体験(12分)</li> <li>・ 30歳代の人生体験(23分)</li> <li>・ 考察・発表・まとめ(10分)</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゲームのねらい、ルールの説明</li> <li>・ スライド資料に基づき、各グループ内で進める</li> <li>・ ローンの仕組み、メリット・デメリットを理解させる</li> </ul>  | 役割に基づきゲームを進めている    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2時間目のねらいを知る(3分)</li> <li>・ 40歳代の人生体験(13分)</li> <li>・ 50歳代の人生体験(10分)</li> <li>・ 60歳代の人生体験(2分)</li> <li>・ 考察・発表(18分)</li> <li>・ まとめ(4分)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 貯蓄が多くなる例と少なくなる例を比較させる</li> <li>・ 退職金を計算し、これまでの貯蓄額を合算させる</li> <li>・ 収入と支出、思い出ポイントのバランスを考察させる</li> <li>・ 人生の疑似体験から「自分価値観、理想、生活設計」の大切さを知り、資金計画を立てる重要性を伝える</li> </ul> | 自分の意見を相手に伝えることができる |

### ☆「生徒の様子」や「ICT活用」について、感想や気づいたこと

#### I <導入> 参観のポイント ①本時の目標 ②授業の流れ

- ・本時の目標が明示され、生徒との共通理解が図られていた。
- ・導入の5分間で目標を明示したことにより、生徒が「この時間で何を学ぶのか(ゴール)」と「何をするのか(プロセス)」を明確に把握できていました。
- ・100分間(2時間)という長丁場の授業において、序盤で全体像を共有したことは、生徒の見通しを立てる上で非常に効果的でした。指導案からも、各年代の体験時間が細かく設定されており、テンポ良く進むことが予感されるため、生徒の集中力を削がない工夫がなされていました。

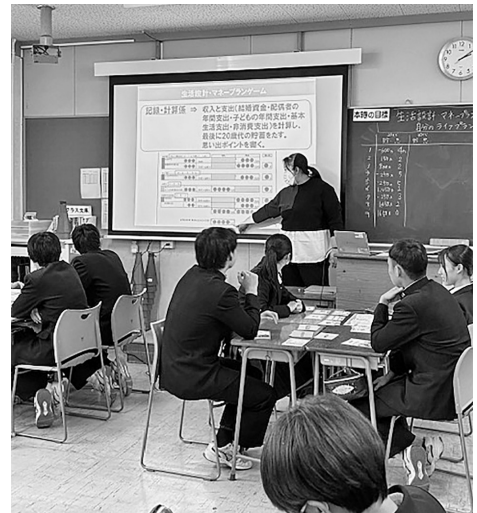
#### II <展開> 参観のポイント ③生徒の「なぜ」を引き出す発問の工夫

##### ④生徒の主体的・探究的・協働的に取り組む学習活動

- ・条件が簡潔に示されていて、課題解決に向けて考えることができていた。
- ・ゲーム内の条件設定をあえて簡潔にすることで、生徒が自ら「どうすれば貯蓄が増えるのか?」「なぜこの選択が重要なのか?」と考える余白が生まれていました。
- ・ローンのメリット・デメリットや退職金の合算など、実社会に即した「課題解決」の要素が盛り込まれており、グループ内での対話が自然に発生していました。単なる遊びに終わらず、「知識を使って判断する」という探究的なプロセスが、グループワークを通じて協働的に行われていた点が秀逸でした。

#### III <整理> 参観のポイント：本時の目標に対する振り返り

- ・ゲーミフィケーションを通して楽しく生徒が学ぶことができていた。また、ゲームの中に学んだ知識を活用する場が設けられており、大変参考になった。ありがとうございました。
- ・「楽しかった」という感想に留まらず、ゲーム内での選択と結果を、自身の「価値観」や「理想の生活設計」と結びつける振り返りができていました。
- ・最後に「資金計画を立てる重要性」という本質的な結論に立ち返ることで、ゲーミフィケーションによって得た体験が、確かな「学び」として定着していました。学んだ知識を即座に活用し、それを振り返るというサイクルが非常にスムーズでした。



### ☆授業全体を通して、感想や気づいたこと

- ・収支だけでなく「思い出ポイント」という指標を設けることで、幸福度と経済性のバランスを考えさせる視点が素晴らしく、多様な人生観を認める道徳的な深みも感じられました。
- ・20代から60代まで、各年代の重要性に合わせて時間配分を調整しており(30代の23分など)、重点的に考えさせたいポイントが明確でした。
- ・前半で得た知識(ローンの仕組み等)が、後半の貯蓄額の差として現れる構成になっており、長期的な視点での意思決定の重要性が生徒にダイレクトに伝わっていました。



# 英語科 学習指導案（略案）

授業者：高 崎 雅 恵

- 1 実施日時・場所：11月6日(木)5校時 2F教室
- 2 実施科目：英語コミュニケーションⅡ
- 3 学年・クラス：2年F組
- 4 単元名：L2 Is Seeing Believing?
- 5 本時のねらい：自分なりの意見を友達に伝える
- 6 学習の流れ

| 学習活動(50分)   | 指導上の工夫・留意点   | 評価方法  |
|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標の確認(1分)</li> <li>・リスニングタスク(5分)</li> <li>・ペアになって写真について英語でやりとりする(5分)</li> </ul> Part 1 <ul style="list-style-type: none"> <li>・新出単語の確認(12分)<br/>(ペアワーク、クリスクロス、デフィニションゲーム)</li> <li>・T/F Questions (3分)</li> <li>・教科書の表を完成させる(5分)</li> <li>・教科書の3枚の絵について意見交換(10分)</li> <li>・音読(9分)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・板書の確認</li> <li>・音声のみの情報、ペアやクラス全体で情報共有</li> <li>・モデルを板書、ヒントを示す</li> <li>・能動的なペアワークを促す</li> <li>・時間設定 90 秒、未知語が多いまま間違いを許容</li> <li>・時間設定 120 秒</li> <li>・意見交換の促し。簡単な英文を使うことを指示。</li> <li>・音読スピードの重視</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>1度で聞き取りができる</li> <li>積極的に会話ができる</li> <li>正しい発音ができる</li> <li>時間内に読み取ることができる</li> <li>自分の意見を相手に伝えることができる</li> <li>正確な音読ができる</li> </ul> |

### ☆「生徒の様子」や「ICT活用」について、感想や気づいたこと

#### I <導入> 参観のポイント ①本時の目標 ②授業の流れ

- ・ 単語を丁寧に繰り返し学習していた
- ・ 導入の生徒の活動はとてもよいと感じました。生徒が英語で表現しようとしていました。

#### II <展開> 参観のポイント ③生徒の「なぜ」を引き出す発問の工夫

#### ④生徒の主体的・探究的・協働的に取り組む学習活動

- ・ ペアでの活動が多い。
- ・ 新出単語の確認の前に教科書の3枚の絵を生徒に説明させ、新出単語を推測させてもよいかと感じました。生徒達の様子を観察すると、できそうな気がしました。また教科書の表を完成させる活動は答え合わせとして、初見の英文を音読させてみてよいと思います。

#### III <整理> 参観のポイント：本時の目標に対する振り返り

- ・ 単語を繰り返しやった後ならば空欄のあるプリントも読めそうである。

### ☆授業全体を通して、感想や気づいたこと

- ・ いきなりTFでもできるということ。
- ・ 普段の授業で実践していることが明確で、生徒の活動に移るタイミングなど、指導がしっかりなされていると感じました。



## 令和7年度 救急救命講習

- 1 日 時：令和7年8月18日(月) 9：00～9：50
- 2 会 場：本校・アリーナ
- 3 内 容：心肺蘇生、AEDの使い方、熱中症の手当、  
アナフィラキシーショックの対応(エピペン使用時の注意)など。
- 4 受講対象：本校教職員
- 5 講 師：秋田消防署救急担当

### <講習の様子>



## 令和7年度 校内職員研修

1 日 時：令和8年1月13日(火)

14：00～15：00 全体職員研修

15：10～16：00 個別対応

2 会 場：本校・会議室

3 ねらい：

- ① 校務における生成AIの具体的な活用事例を理解する。
- ② 業務効率化と教育の質を向上させる方法を学ぶ。
- ③ 人間の専門性が不可欠な場面(生成AIを使わない方がよい場面)を見極める力を養う。
- ④ 生成AIを正しく位置づけ、安全かつ効果的に教育現場へ導入する力を身につける。

4 テーマ：「生成AIとデジタルツールの業務への活用  
～生成AIの活用事例、使わない方がよい場面について～」

5 受講対象：本校教職員

6 講 師：秋田県立秋田南高等学校  
教諭兼教育専門監(情報科) 小 西 一 幸 先生

<研修の様子>



# AKISHOP 24年目の新しい挑戦

AKISHOP担当 教諭 千葉 知美

## I はじめに

今年度のAKISHOPは、「広げよう 発想の輪～住みつづけられる秋田づくりを～」というテーマのもと、生徒の主体性や創造性の向上を目指すとともに、地域の方々との協働を深めることを意識した活動に取り組んだ。

活動も24年目を迎え、AKISHOPは本校の特色ある教育活動として、地域の方々に広く理解され、大きな支持をいただいている。しかし、生徒の実態や地域の状況、運営環境は年々変化しており、活動の在り方の見直しが迫られている。

今年度は「前年踏襲」からの脱却を図り、良い伝統は守りつつ、生徒の実態に即した活動の刷新を行った1年であった。その具体的な内容を以下の通り記す。

## II 今年度改善・変更した点

### ○組織の見直し

2年前より、SDGsを取り入れた活動に取り組んでいるが、意識の定着が浸透しきれず、活動がパターン化している課題がある。そのため、今年度は課ごとに活動テーマに応じた班編制を行い、活動目標を明確化することで、活動の幅を持たせ、生徒の創造性を育む体制を整えた。

また、班の希望調査では、400字で志望理由を記入させることで、生徒の適性や興味・関心に即した班編制を行い、学習活動が円滑に進むように配慮した。

## 令和7年度 AKISHOP全体像

【本部】AKISHOPの運営、商品開発

### 【広報課】

|      |                          |
|------|--------------------------|
| 広報 1 | 各班の取組の取材及び広報・商品チラシの作成    |
| 広報 2 | メディア出演・学校訪問を通じたプロモーション活動 |
| C M  | AKISHOP紹介動画の作成           |

### 【イベント課】

|        |                      |
|--------|----------------------|
| 伝統文化   | 秋田の伝統・文化を発信するイベントの企画 |
| 世代イベント | 〇〇世代にあったイベントの企画      |
| SDGs   | SDGsに関する啓蒙企画         |
| 観光     | 外国人客に向けたツアーの企画       |

### 【開発課】

|          |                            |
|----------|----------------------------|
| 秋田食材     | 秋田の食材を活かした商品の企画            |
| 食育弁当     | 栄養バランスを考えた食生活改善のための食育弁当の開発 |
| 〇〇世代食品   | 〇〇世代のための食品開発               |
| フードグランプリ | フードグランプリ参加に向けた商品の開発        |
| 食品ロス削減   | 食品ロス削減のための商品開発             |
| 専門高校コラボ  | 秋田県内の専門高校とのコラボ             |

### 【地域活性課】

|       |                 |
|-------|-----------------|
| ギフト   | 秋田の特産品の市場調査・分析  |
| 地域連携  | 他校・商店街・福祉施設との連携 |
| 地元生産者 | 秋田の農業課題の解決方法の模索 |

○生徒主体の運営への転換

例年、教員主導でA K I S H O Pの運営を行っていたが、生徒の自主性の涵養や当事者意識の醸成のため一部の業務を本部担当の生徒に割り振り、業務に取り組みさせた。

【今年度新たに生徒が取り組んだ業務】

- 連絡調整会議の企画・運営
  - 会場レイアウトの考案
  - 中間報告会の企画
  - A K I S H O P チラシのデザイン
  - 会場借借の交渉
  - 前日準備の運営
- など

生徒に仕事を託し、自分たちの意見が反映される環境を作ることで、成功体験や失敗から多くのことを学び、意欲的に活動に取り組んでいる様子が窺えた。次年度は、各班の班長も巻き込み、全体で行事を運営する仕組みを作っていきたい。

III 令和7年度の活動

(1) スケジュール

- 4月：ガイダンス(係分担・連携企業開拓)
- 5月：環境分析、アイデアの創出と評価
- 6月：コンセプトの考案、企画書の作成
- 7月：中間報告会、試作品の評価
- 9月：パッケージ、マーケティング計画
- 10月：A K I S H O P 準備、本番
- 11月：振り返りと反省
- 12月：報告会の実施

(2) A K I S H O P 当日の様子

10月18日(土)に開催されたA K I S H O P 当日は、地元企業・団体54社のご協力のもと、開発商品29種類(販売総数約3,000個)、受託販売31種類(販売総数約950個)の商品を販売した。

今年度は会場の都合により、秋田駅前大屋根下・市民市場・ぽぽろ一どに加え、秋田駅

構内トピコ前でも販売を行った。特にトピコ前は、駅利用客の客足が多く、例年になく新たな顧客層を生むことが出来た。悪天候や新たな会場レイアウトでの販売活動となったが、トラブルも無く、生徒は状況に応じて柔軟な対応が出来ていたように感じた。

来場者アンケートでは「SDGs活動の深まり」「生徒の創造性」を評価する声をいただき、テーマに応じた班編制による生徒の活動の広がりが感じられた。



IV 成果と課題

(成果)テーマに応じた班編制により、生徒の学習に深まりが増し、様々な角度からSDGs活動に取り組み、成果をあげていた。中でもフードグランプリ班の第12回全国高等学校フードグランプリへの出場及び受賞が最たる例である。教員側の仕掛け作り次第で、生徒がA K I S H O Pの活動において、より自主的に創造的に取り組んでくれることを実感した一年であった。

(課題)教員アンケートの結果から、「商品説明」や「販売マナー」の指導時間が不足していたとの反省があがった。班編制を変えたことで、年度当初の連携企業の開拓や班ごとの活動の見直し設定に時間がかかったことが原因である。来年度は班編制の見直しを含め実施計画を再検討し、活動時間の確保に努めたい。この他にも様々な課題があげられるが、来年25年目を迎えるA K I S H O Pが、より良い学習活動の機会となるよう、引き続き改良を重ねたい。

# キッズビジネスタウンの取組

キッズビジネスタウン担当 教諭 小林 稔 幸

キッズビジネスタウンは開始から18年目を迎えた。例年、1日目は勝平小学校の6年生、2日目は一般公募による小学生の参加のもとに実施していたが、今年度は、1日目に勝平小学校の5年生にも参加してもらい、より多くの児童に体験してもらうこととした。昨年度に引き続き、SDGs（持続可能な開発目標）について学習を深め、「一つの街としてどのように貢献できるか」を検討した上で、各店舗が目標を掲げて運営に臨んだ。共通目標として設定した目標12「つくる責任 つかう責任」も概ね達成され、環境や社会に配慮したビジネスの実践を行うことができた。

## 1. キッズビジネスタウンの目的

本プログラムは、小学生以下の児童が「市民」となり、働くこと、学ぶこと、遊ぶことを通して協力して街を運営し、社会の仕組みを体験的に学ぶ教育プログラムである。児童は模擬的な街の中で、ハローワークでの仕事探しから、実際に労働して、給与を受領し、そしてその給与で買い物をするまで一連の流れを体験する。本校生徒は、この街の企画・運営を担う。当日は「社長」として児童を牽引し、共に販売実習等を行いながら社会やビジネスの仕組みを伝えていく。この「教える」というプロセスを通じて、生徒自身もビジネスに必要な知識を客観的に再認識し、学びを深化させることができる。これらの活動を通じ、ビジネス実践の核心である「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を体得し、将来の社会を支える「社会人基礎力」を育成することを目的としている。

## 2. 令和7年度の活動

今年度は本校を会場に、10月17日(金)、18日(土)の2日間にわたって開催された。キッズビジネスタウン担当の生徒は2・3年生の29名で、以下の流れで活動した。1年生は各店舗の従業員として、当日の活動に参加した。

### (1) スケジュール

- ・ 1月：ガイダンス、基礎学習
- ・ 6月：店舗の模索、決定
- ・ 7月：企業への研修、交渉等
- ・ 9月：求人票、マニュアルの作成
- ・ 10月：1年生へ指導、本番
- ・ 11月：振り返りと反省
- ・ 12月：報告会の実施

### (2) 今年度の開設店舗(29店舗)

| 分類    | 店舗名  |
|-------|--|
| 公共施設  | 警察、税務署、銀行、献血センター、ハローワーク                              |
| 小売業   | パン屋、お菓子屋、駄菓子・文房具屋、デパート、コンビニ、雑貨屋                      |
| サービス業 | ドリンクショップ、映画館、グリーンゴルフ体験教室、放送局、クリーンアップ秋商               |
| 製造業   | ハーバリウム、アクセサリ、消しゴムハンコ、ボトルサンドアート、サンドキャンドル、ピンバッチ、ネイルチップ |
| 飲食店   | チョコバナナ屋、たこ焼き屋、キッズヘラ、秋商稲庭うどん、ラーメン屋、りんごあめ屋             |

### 3. 当日の様子

1日目は勝平小学校の児童156名、2日目は一般公募による小学生247名、延べ403名の参加で昨年度より84名増加し、令和以降で最大の参加人数を記録した。

これに伴い、各店舗では児童の労働時間を30分単位に設定して回転数を高めるなど、運営方法を工夫した。また、多忙な状況を想定した事前の準備や段取りを徹底したことで、当日は大きな混乱もなく、円滑に進行することができた。



事後アンケートから、参加者の感想は以下のようなものであった。

#### <小学生アンケートより>

|           | はい  | いいえ |
|-----------|-----|-----|
| 楽しかったか    | 305 | 3   |
| お金の大切さを実感 | 284 | 18  |
| ものの大切さを実感 | 273 | 19  |
| 来年も参加したい  | 265 | 12  |
| 秋商に入学したいか | 32  | 14  |

小学生にとって「非常に楽しく、お金や仕事の大切さを学べる教育的な場」として認識されていることが分かった。運営面では時間や混雑に対する改善要望が見られたものの、秋田商業高校の生徒による親切で分かりやすいサポートが、参加者の体験価値を大きく高めているという結果が明らかになった。

#### <保護者アンケートより>

|          | はい  | いいえ |
|----------|-----|-----|
| 満足度      | 135 | 6   |
| 来年も参加したい | 110 | 28  |

多くの保護者は、イベントの継続を強く望んでおり、高校生の対応を高く評価している一方で、メルクを使い切るための商品の充実や、仕事の体験時間、ハローワークでの待ち時間、会場の分かりやすい案内が具体的な改善点として繰り返し挙げられている。

### 4. 実施上の成果と課題

#### (1) 成果

生徒たちは店舗経営を通じ、計画段階では予測できなかった事態や1日目に生じた課題に対し、2日目には即座に改善策を講じて運用した。この実践的なプロセスを通じて、状況判断力や問題解決能力の著しい向上が見受けられた。



#### (2) 課題

マニュアル作成段階での想定不足により、イレギュラーな事態への対応が遅れたこと。第二に、同一店舗内での業務配分に偏りが生じ、児童によって活動量に差が出てしまったことである。

最大の課題は、仕入れの見通しと在庫管理の不備である。複数の店舗で商品が完売し、営業終了を余儀なくされる場面が見られた。これは単なる「欠品」にとどまらず、働く意欲を持って来場した児童から「就業機会」を奪ってしまうことを意味する。

商品流通と労働機会の連動性を再認識し、次年度は在庫管理の精度向上を図り、より質の高い教育プログラムを目指したい。

# エコロジカルビジネス班の活動

エコロジカルビジネス班担当 教諭 関 屋 さやか

エコロジカルビジネス班は、地球環境問題と国際理解の分野について学び、エコロジー（環境保全）とビジネス（商業・経済活動）を両立させた「持続可能な社会」の構築のために行動する力の育成を目標にしている。生徒はユネスコスクールの一員であることを自覚し、SDGsを意識した活動を行ってきた。今年度は3年生27名、2年生15名で活動した。

## 〈1学期の活動〉

1学期は本校事務職員の太田直主席主査の協力のもと、課題解決型ワークショップを行った。主に発展途上国の現状について学び、班のメンバーと協力しながら問題の原因と結果を考察して発表する活動を通して、思考力や分析力を伸ばすことができた。また、一般社団法人あきた地球環境会議の方々にご協力いただき、SDGsの基礎について学習した。

## 〈2学期の活動〉

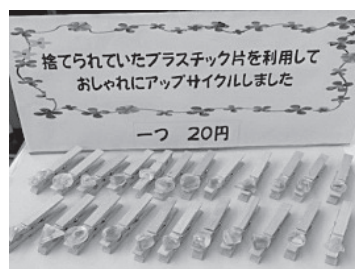
2学期からは、「環境対策班」18名、「国際理解班」24名に分かれて活動した。

### 環境対策班の活動（担当：高崎、関屋）

あきた地球環境会議のご協力により講師を派遣していただき、「生物多様性(海の環境)」「アップサイクル」「森林保全と木はがき作り」などの講座を実施した。

今年度から新たに「廃材のアップサイクル」に取り組んだ。生徒からのアイデアをもとに、本校剣道部で壊れて廃棄される竹刀を使ったキーホルダーと、廃プラスチック片を利用した製品を作ることに決め、AKISHOPでの販売を目指して製作活動を行った。竹刀は7cm幅に切断し、金具を取り付けて「AKISHO」の焼き印を施し、生徒の思いを綴ったカードを添えた。また、拾い集めたプラスチック片やペットボトルキャップを切断し、レジンで固めてカラフルでかわいらしい飾りを作り、それを木製のピンチに貼り付けた。両方ともAKISHOPのお客様に大変好評で、秋商生の環境問題への取り組みに感心してくださった。

また、AKISHOPでは例年どおり「ダリアの無料配布」、「秋田杉の端材を活用したエコ箸づくり体験」、「バザー」を行った。会場には募金箱も設置し、無料でダリアや箸を受け取った多くの方が募金に協力してくださった。バザー・アップサイクル商品の売り上げ・募金の総額は15,337円となり、日本ユネスコ協会に寄付した。



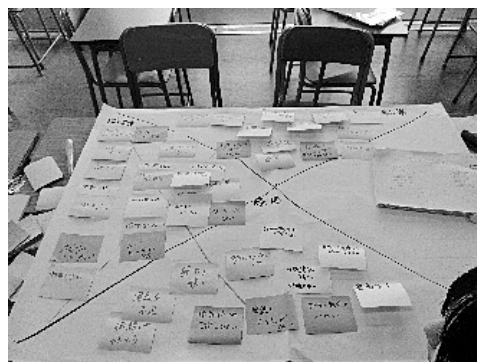


**国際理解班の活動** (担当：太田)

昨年は「問題解決型ワークショップ」を作成し、ユネスコスクール加盟校として「作る」年度とし、今年度はその活動主体を「広める」活動に力を入れた。

秋田ユネスコ協会理事である菊地格夫氏協力のもと、各種ユネスコ協会主催イベントでのボランティア、ファシリテーターとしての参加依頼を受け、日頃の授業に加え秋田市内で行われるイベントに参加し活動を推進した。

AKISHOP当日は、ユネスココースSDGsセミナー（秋田ユネスコ協会主催）に参加した。これを「広める」活動のゴールと位置づけ、秋田県内の大学生や高校生に向けたワークショップを実践した。昨年よりもワークショップの実践力が上がっている背景には、「広める」活動回数を増やしたことによる良い意味での慣れと、日頃の授業のほとんどにワークショップ形式の授業を実践したことが大きく影響していると感じている。また、昨年同様ダイレクトトレードコーヒーを来場者に提供し、コーヒー市場が抱える問題を同時に考察した。このことについては、後日行われた報告会で発表した。商業高校に在籍する生徒として、経済活動の在り方を再考察できる問題提起だったと感じている。



# 令和7年度ビジネス実践活動について（総括）

教諭 石田 雄 哉

## 【はじめに】

本校ビジネス実践活動は①「ユネスコスクールとしての自覚を持ち、ビジネス実践活動を通して、持続可能な社会を実現するための実践力を身に付けさせる。」②「さまざまな『つながり』を通して、『社会人基礎力』を身に付け、主体的に考え、地域に貢献できる意欲と知識を持った生徒を育成する。」ことをねらいとして、20年以上実施されてきている。現在は「AKISHOP」「キッズビジネスタウン」「エコロジカルビジネス」の三本柱で運営しており、本校を象徴する教育活動となっている。昨年度からはユネスコスクールの理念をより深化させ、SDGs(持続可能な開発目標)の達成や持続可能な社会の実現を意識した学習活動を実践している。

## 【今年度改善を目指した点】

### ○AKISHOPにおけるテーマ別班編成への転換

昨年度までは「総菜班」「菓子班」といった商品別の編成を行い、教員側で企業を割り当てていた。しかし、この手法では探究の深化が難しく、商品がマンネリ化する傾向にあった。そこで今年度はテーマ別に班を編成し、テーマに沿った商品開発を促した。また、店舗割り当てを廃止し、生徒自らが提携先を開拓・交渉する形式をとった。その結果、生徒の思考が深まり、新たな企業との連携事例が増加した。

### ○最終報告会の充実化

最終報告会での振り返り活動の質を高めるため、運営側から明確な指針を提示した。具体的には、報告担当者が資料作成に早期着手する一方、他の生徒は個人およびグループでの内省を徹底した。発表前週にはリハーサルを実施し、相互評価を経て内容をブラッシュアップする体制を構築した。

## 【課題】

今年度の事後アンケート等から、以下の課題が浮き彫りとなった。

### ①AKISHOPの製品バランス

テーマ別編成により、全体の商品数が減少した。特に総菜関連が不足し、活動が停滞した班も見られたため、次年度は班編成や商品数の指導について改善を要する。

### ②主体性の向上と指導体制

職員アンケートでは、生徒の「主体性」不足を指摘する声が目立った。一部の生徒に活動が偏る傾向があり、学校全体で探究活動を支える指導の工夫が求められる。

### ③ビジネスマナー教育の徹底

取引先との連絡不備や説明不足が指摘された。活動初期や商業科目の授業において、実務的なメール作法や接客マナーの指導を充実させる必要がある。

### ④カリキュラム・マネジメントの強化

マーケティング手法や商品開発の要点、接客対応の練習など、商業科目で培うべき知識と実践との連動を強め、意識向上を図るマネジメントが求められる。

⑤業務負担の平準化

キッズビジネスタウンは2日間開催で、班長はほとんど2日間働き続けとなり、昼食を取ることにも困難な状態が見られた。それに対してAKISHOPは1日開催で、金曜日は各班の最終調整で余裕があり、さらにAKISHOP当日も班員で交代できるため、生徒も負担を分散できている。両者の負担感に大きな開きがあり、また教員の負担感も差異があるようである。

⑥SDGsの次なる指針

2030年の目標期限を見据え、今後の活動の核となる新たなテーマの検討を開始すべき時期にきている。

⑦班名称と活動実態の整合性

「エコロジカルビジネス班」内において、環境対策班と国際理解班で活動しているが、特に国際理解について、班名と活動内容の乖離を解消するための再編・整理が必要である。

【おわりに】

ビジネス実践は、地域社会からの期待と信頼に支えられた伝統ある取組である。今後は、本活動がいかに生徒一人ひとりの「探究」に結びついているかを継続的に検証し、教育的効果を最大化させなければならない。地域と歩む伝統を守りつつ、時代の要請に応じた不断の改善を積み重ねていきたい。

令和7年度ビジネス実践全体像

| 部          | 班編制             | 活動内容・探究テーマ   | 生徒                                      | 教員 |   |
|------------|-----------------|--|---|----|---|
| AKISHOP    | 本部              | 秋商ならではの商品開発や秋田の課題解決のための活動を行う。                          | 7                                       | 2  |   |
|            | 広報              | 広報1  | チラシ作成、活動を撮影し記録をまとめて冊子を作成する。             | 20 | 1 |
|            |                 | 広報2  | ビジネス実践、SDGsに関する広報活動                     | 20 | 1 |
|            |                 | CM   | 紹介動画作成（秋田商業、ビジネス実践、秋田市）                 | 20 | 1 |
|            | イベント            | イベント   | 秋田の伝統・文化を発信するイベントの企画                    | 15 | 1 |
|            |                 |  | 〇〇世代が楽しめるイベントの企画                        | 15 | 1 |
|            |                 |  | SDGsに関する啓蒙活動                            | 15 | 1 |
|            |                 | 観光   | バスツアー（インバウンド対応）                         | 15 | 1 |
|            | 開発              | 開発1  | ①秋田の食材を生かす（秋田県央部の食材）                    | 22 | 2 |
|            |                 | 開発2  | ②栄養バランスを考えた食生活改善のための食育弁当開発              | 22 | 2 |
|            |                 | 開発3  | ③〇〇世代のための食品開発                           | 22 | 2 |
|            |                 | 開発4  | ④フードグランプリ参加に向けた開発                       | 22 | 2 |
|            |                 | 開発5  | ⑤食品ロス削減のための商品開発                         | 22 | 2 |
|            |                 | 開発6  | ⑥秋田県内専門高校とコラボした商品開発                     | 22 | 2 |
|            | 地域活性            | ギフト  | 秋田の特産品の市場調査・分析<br>秋田県内外でのお土産商品販売動向などを分析 | 44 | 3 |
| 地域連携       |                 | 学校間連携（美大附）、新屋商店街、障害者施設との連携                             | 20                                      | 2  |   |
| 地元生産者      |                 | 六次産業化商品開発を通して、秋田の農業課題を解決する方法を見つける。地域を元気に豊かにするための活動を行う。 | 20                                      | 2  |   |
|            | キッズビジネスタウン      | 小学校へのビジネス、金融教育<br>職業体験を通じたビジネス実践                       | 30                                      | 10 |   |
| エコロジカルビジネス | 国際協力            | ・JICAによるワークショップ<br>・ダイレクトトレードコーヒー販売                    | 25                                      | 1  |   |
|            | 環境対策            | ・地球環境会議による講座<br>・ダリア、アップサイクル、バザー、ポスター発表                | 25                                      | 1  |   |
|            | ビジネス実践基礎講座（1年生） | SDGsの基礎学習、アイデア出しトレーニング<br>ビジネスプラン考案・発表                 | 209                                     | 6  |   |

# 初任者研修講座(高等学校)を受講して

教諭 渡部 孝史

## 1 校外研修

### ・センター研修

|       |                    |   |
|-------|--------------------|---|
| I期    | 4月23日(水)           | <b>【開講式】</b> 初任者への期待<br>○教育公務員の服務(講義)<br>○学校組織の一員として①ー組織原則の理解ー(講義・演習)<br>○授業づくりの基本(講義・演習)<br>○授業で取り組む情報教育①(講義・演習) |
| II期   | 5月14日(水)           | ○学習指導要領の要点(講義・協議)<br>○学習指導要領に基づく教科指導(講義・協議・演習)<br>○単元(題材)構想の具体(講義・協議・演習)  |
| III期  | 6月11日(水)           | ○学習指導案作成の基本(講義・演習)<br>○教科における学習評価の基本(講義・協議・演習)<br>○いじめ等の問題行動や不登校の理解(講義・演習)  |
| IV期   | 7月31日(木)           | ○安全教育と応急手当(講義)<br>○教員のメンタルヘルス(講義)<br>○他者と共によりよく生きる力を育てる道徳教育(講義・演習)<br>○授業で取り組む情報教育②(講義・演習)                        |
| V期    | 8月6日(水)            | ○キャリア教育の充実(講義・演習)<br>○いじめや不登校への具体的な対応(講義・演習)<br>○総合的な探究の時間の充実(講義・演習)  |
| VI期   | 8月27日(水)           | ○中学校との関連を踏まえた授業づくり(講義・協議)   |
| VII期  | 9月17日(水)           | ○「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくり①(講義・協議・演習)   |
| VIII期 | 10月28日(火)          | ○授業実践研修(授業実践・参観及び協議)  |
| IX期   | 10月29日(水)          | ○特別な支援を要する児童生徒の理解と支援①(授業参観)<br>○特別な支援を要する児童生徒の理解と支援②(講義・演習)<br>○「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくり②(講義・協議)                 |
| X期    | 1月6日(火)<br>オンライン実施 | ○学校における教育相談(講義・演習)<br>○特別活動の理解とホームルーム経営(講義・演習)<br>○学校組織の一員として②ー目標管理ー(講義・演習)<br><b>【閉講式】</b> 初任者研修を終えるに当たって        |

| 月 | 校内研修   |  | 月  | 校内研修   |   |
|---|--|--|----|--|---|
|   | 研修項目   |  |    | 研修項目   |   |
|   | 一般研修   | 教科研修   |    | 一般研修   | 教科研修  |
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員としての使命感</li> <li>・本校の教育目標と学校経営</li> <li>・初任者研修の意義と進め方</li> <li>・校内組織と服務規程</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間目標と年間指導計画</li> <li>・授業参観と研究協議Ⅰ</li> <li>・学習指導案の書き方Ⅰ</li> </ul>   | 9  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内規定と評価</li> <li>・生徒会指導、部活動指導の在り方</li> <li>・キャリア教育の進め方Ⅰ</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参観と研究協議Ⅳ</li> <li>・研究授業と研究協議Ⅲ</li> <li>・学習指導案の書き方Ⅱ</li> <li>・考查問題の作成と検討Ⅱ</li> </ul> |
| 5 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事と年間行事予定</li> <li>・本校の教務課程</li> <li>・生徒指導の現状と課題</li> <li>・特別活動指導の要点</li> </ul>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参観と研究協議Ⅱ</li> <li>・示範授業Ⅰ</li> <li>・研究授業と研究協議Ⅰ</li> </ul>   | 10 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修の在り方と研修体制</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参観と研究協議Ⅴ</li> <li>・研究授業と研究協議Ⅳ</li> <li>・学習指導案の書き方Ⅲ</li> </ul>                       |
| 6 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の進路動向と進路指導の進め方</li> <li>・諸表簿及び公文書の手引き</li> <li>・学年経営とホームルーム経営の在り方</li> </ul>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価方法と評価規準Ⅰ</li> <li>・授業参観と研究協議Ⅲ</li> <li>・考查問題の作成と検討Ⅰ</li> <li>・研究授業と研究協議Ⅱ</li> <li>・教材研究の方法と実際</li> </ul> | 11 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTの効果的利用法と個人情報管理</li> <li>・PTAの組織と運営</li> </ul>                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参観と研究協議Ⅵ</li> <li>・評価方法と評価規準Ⅱ</li> </ul>  |
|   |  |  | 12 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理体制とその在り方</li> <li>・生徒指導の現状と問題点</li> </ul>                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・考查問題の作成と検討Ⅲ</li> <li>・生徒の活動と学習指導の工夫</li> <li>・生徒の学力の実態把握</li> </ul>                   |
| 7 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館の在り方と利用状況</li> <li>・問題行動の事例研究</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の精選と活用</li> <li>・授業評価と授業改善Ⅰ</li> <li>・導入の工夫と授業構成</li> <li>・個に応じた学習指導の工夫</li> </ul>                       | 1  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育の進め方Ⅱ</li> <li>・学級担任の実務と心構え</li> </ul>                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業と研究協議Ⅴ</li> <li>・学習指導案の書き方Ⅳ</li> <li>・生徒理解と学習指導の工夫</li> </ul>                     |
|   |  |  | 2  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導要録の記入方法と取り扱い</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業評価と授業改善Ⅱ</li> <li>・考查問題の作成と検討Ⅳ</li> </ul>   |
| 8 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健室の利用状況と健康管理</li> <li>・教育相談の進め方</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・示範授業Ⅱ</li> <li>・教科指導と教育機器の活用</li> </ul>  | 3  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・初任者研修を振り返って</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間の教材研修の成果と課題</li> </ul>  |

### 3 研修より

本研修は、初任者として教員に求められる基礎的資質・能力の向上を目的として実施された。校外研修(センター研修)では、学習指導要領の理念や高等学校教育における指導の在り方について、講義や講習を通して学んだ。特に、主体的・対話的で深い学びを実現するためには、授業のねらいを明確にし、生徒の実態に即した指導計画をたてることが重要であると理解した。

また、生徒理解や教育相談に関する内容では、生徒一人ひとりの背景や心情に配慮した関わりが、信頼関係の構築につながることを学んだ。

校内研修では、管理職はじめ主任の先生からお話をいただき学校運営や危機管理などの研修を行った。また指導教員の授業参観や指導助言を通して、実践的な授業運営や学級経営について学ぶことができた。

教材研究の視点や発問の工夫、板書の構成など、日々の授業に直結する具体的な助言を受け、自身の課題を明確にする機会となった。また、校内での協議を通して、教員同士が連携しながら生徒指導に当たることの大切さを再認識した。

初任者としての自覚を新たにするとともに、教員としての基礎を固める貴重な研修となった。今後も研修で学びを意識しながら、実践力の向上に努めていきたい。

また、本研修で得た学びを授業実践に生かし、生徒の理解度や反応を踏まえた授業改善に継続的に取り組んでいきたい。初任者として常に学ぶ姿勢を大切に、教員としての資質向上に努めていきたい。

## AP研修(宿泊)報告書

### 1 目的

あきたアドベンチャープログラム(AAP)研修を通じて、学習集団における人間関係の在り方や集団づくり、グループカウンセリング、主体性を引き出す体験的な学習等の方法について実践的に学ぶとともに、教員の相互交流を深める。

### 2 期日

令和7年7月24日(木)～25日(金)

### 3 会場

県立岩城少年自然の家 由利本荘市岩城赤平字長ヶ沢260の8  
TEL 0184-74-2011

### 4 対象

県立高等学校及び秋田商業高等学校 21名(男17名・女4名)  
県立特別支援学校 20名(男7名・女13名)  
計41名(男24名・女17名)

### 5 日程

#### 1日目

| 時間          | 活動内容                |
|-------------|---------------------|
| ～ 9:30      | 駐車場の車中で待機           |
| 9:30～       | 受付 ※職員の誘導に従い移動      |
| 10:00～10:30 | 開会行事、諸連絡、オリエンテーション  |
| 10:30～11:45 | プロジェクトアドベンチャー体験①    |
| 11:45～13:00 | 昼食、休憩               |
| 13:00～17:30 | プロジェクトアドベンチャー体験②    |
| 17:30～18:30 | 夕食、休憩               |
| 18:30～19:30 | ベッドメイキング説明、ベッドメイキング |
| 19:30～20:30 | レクリエーション            |
| 20:30～21:30 | 入浴                  |
| 22:00       | 消灯、就寝               |

#### 2日目

| 時間          | 活動内容                            |
|-------------|---------------------------------|
| 7:00        | 起床                              |
| 7:30～ 8:30  | 朝食                              |
| 8:30～ 9:00  | 宿泊室清掃・退室                        |
| 9:00～12:00  | プロジェクトアドベンチャー体験③                |
| 12:00～13:00 | 昼食                              |
| 13:00～14:30 | プロジェクトアドベンチャー体験・理論④             |
| 14:30～15:00 | グループ協議<br>「APから学んだこと、今後に生かせること」 |
| 15:00～15:30 | 退所準備(着替え後、荷物を持って体育館へ移動)         |
| 15:30～16:00 | 閉会行事                            |
| 16:00       | 解散                              |

6 令和7年度初任者研修「AP研修(宿泊)」レポート

|    |      |    |     |          |    |       |
|----|------|----|-----|----------|----|-------|
| 2班 | 学校番号 | 21 | 学校名 | 秋田商業高等学校 | 氏名 | 渡部 孝史 |
|----|------|----|-----|----------|----|-------|

(1) 研修の成果と反省

アドベンチャープログラム研修を通して、コミュニケーション能力の大切さを改めて実感した。校種、学校、教科が違う面識の無い先生方と班に分かれての行動やキャンピングネームを使っただけの様々な体験活動をグループで行い、名前を覚えること、呼び合うことで距離感が縮まり、関係性が深まっていくことを感じた。

距離感が縮まることで自然と雰囲気良くなり各活動において意見を出し合いながら問題解決に向けた最善の方法を導き出し、大きな成果へとつながり、達成感を味わうことができた。コミュニケーションを取ることで、団結することができ班として個々の力を発揮させる方法などとても参考になることが多い研修となった。

集団の人間関係を形成する上で、全員が参加しやすい状況を作ることが必要で、集団で何かに取り組む際、参加できない人に考えられることとして、失敗することを恐れていることが考えられる。効果的な自己紹介、簡単なゲームをすることにより、集団の緊張を解き、失敗しても良い環境を作り、課題に対して意見を述べたり、挑戦する姿勢を育むことが大切だと感じた。

様々な課題に対し、協力して取り組み、解決することによる達成感を与えることで、信頼関係が強くなるとともに、次の課題へ挑む原動力となる。そのため、課題を与える際には、試行錯誤した上で解決できるものであることが望ましいと思った。課題の難易度設定を工夫し、ヒントを与える支援が必要だと感じた。最後まで興味を引かせることでやる気を維持させ、互いに助け合う姿を見ることができると思った。

(2) 成果と課題を今後どのように生かしていくか

私自身、これまでのクラス経営や部活動では徐々にコミュニケーションを取りながら名前を呼んでいくうちに覚えていったりしていた。今後はアドベンチャープログラム研修を通して学んだグループでの活動や名前を呼び合いながらの活動をいち早く取り入れていき、クラスや部活動の距離感を縮め関係性を深めることで、互いに助け合う雰囲気ができあがり、クラスの和や部活動の和がより強い絆になるのではと感じた。

人間関係の在り方や集団作りを考える際には、コミュニケーションをとりやすいように、集団で行う活動の段取りや段階をしっかりと考えなければいけないと感じた。学校生活において、クラス経営や部活動など、人間関係を作らなければいけない場面は多々あるため、どの場面でどのような活動を取り入れたら効果的かをしっかりと考えていきたい。そして、信頼関係をしっかりと構築することにより、授業や行事の活性化につなげていきたい。

(3) 来年度以降の運営改善についての要望等

熱中症対策を含め、運営側のサポートや気遣い、心遣いが行き届いており体調不良者を出さず最後まで無事に全員で終わることができました。岩城少年自然の家の方々のはじめスタッフの方々や高校教育課、特別支援教育課の方々のおかげだと強く感じています。

暑いときに暑さを感じることや寒いときに寒さを感じることは大事だと思います。来年度以降もそういったことも踏まえての研修でよろしいかと思います。

すべてがプラスに働く研修だと思います。ありがとうございました。

# 令和7年度高等学校初任者研修「特別支援学校訪問」研修報告書

## 1 目的

特別支援学校を訪問し、特別支援教育に対する理解を深めることにより、幅広い知見を得させ、教員としての使命感を養う。

## 2 期日

令和7年7月2日(水)

## 3 会場

栗田支援学校 秋田市新屋栗田町10-10  
TEL 018-828-1162

## 4 対象

初任者 3名

## 5 参加者

栗田支援学校 副校長 田中 紀和  
栗田支援学校 教頭 齊藤 理香  
男鹿工業高校 教頭 須田 和仁(引率責任者)  
男鹿工業高校 教諭 藤原 一成(指導教員)

## 6 日程

| 時間          | 活動内容             |
|-------------|------------------|
| 9:20～9:40   | 受付               |
| 9:40～10:00  | 開会行事 学校概要説明      |
| 10:10～11:30 | 授業参観 小学部・中学部・高等部 |
| 11:40～12:10 | 協議 質疑応答 閉会行事     |
| 12:10       | 解散               |

## 7 感想

| 2班   | 学校番号 | 21 | 学校名 | 秋田商業高等学校 | 氏名 | 渡部 孝史 |
|--|------|----|-----|----------|----|-------|
| <p>栗田支援学校を訪問して、小中高での段階的な教育活動を丁寧に行われていた。自立を目的とした活動が多く、学校教育全体の中で個々に応じた指導が細かく行き届いている。その中で地域との連携や行事への参加を積極的に行っており、地域貢献を通して主体的に活動に取り組ませていることが分かった。また、様々なところで活躍する場を設けており、達成感や自己有用感を身に付けさせるとともに、振り返りを行い、次回への改善へと繋げていた。</p> <p>基本方針である、児童生徒個々の能力を最大限に発揮できる教育を行うとともに、思いやりの心と生きるたくましさ、学習上の特性を踏まえ、学び方の順番や成功体験、具体的な内容の生活指導を通して育成していると感じた。これからの教育活動に活かしていきたい。</p> |      |    |     |          |    |       |

## 令和7年度初任者研修講座 授業実践

### 1 研修内容

講座Ⅵ「中学校との関連を踏まえた授業づくり」  
 講座Ⅶ「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくり①

### 2 期 日

令和7年8月27日(水)  
 令和7年9月17日(水)

### 3 会 場

秋田県総合教育センター 潟上市天王字追分西29-76  
 TEL 018-873-7200

### 4 対 象

県立高等学校及び秋田商業高等学校 9名  
 秋田県中学校 6名

### 5 日 程

| 時間          | 活動内容                          |
|-------------|-------------------------------|
| 10:00～10:30 | 受付 オリエンテーション<br>(日程説明、協議の進め方) |
| 10:40～11:35 | 模擬授業① 協議                      |
| 11:35～12:35 | 昼食・休憩                         |
| 12:35～13:30 | 模擬授業② 協議                      |
| 13:40～14:35 | 模擬授業③ 協議                      |
| 14:45～15:40 | 模擬授業④ 協議                      |
| 15:40～15:45 | 移動                            |
| 15:45～16:15 | 教科ごとのまとめ<br>研修のリフレクション        |

### 6 手 順

|           |   |
|-----------|---|
| 一人の持ち時間   | 55分   |
| ①授業の概要説明  | 5分<br>協議をより深めることができるように、協議の視点を踏まえて、授業の場所設定と工夫したポイントを紹介する。         |
| ②模擬授業の提示  | 25分<br>導入として指導案にしたがって説明を行う。                                       |
| ③付箋紙記入    | 5分<br>協議の視点として他校種、他教科の合同研修であるため、教科の専門性に特化したものではなく「学習指導」に関する視点とする。 |
| ④授業分析(協議) | 20分<br>ワークショップ型研究協議とする。   |

## 7 学習指導案

### 商業(ビジネス基礎)学習指導案

|         |                                      |   |         |
|---------|--------------------------------------|---|---------|
| 日時      | 令和7年8月27日(水)                         | 授業者   | 渡部孝史    |
| クラス     | 1年D組 32人                             | 使用機器  | クロームブック |
| 単元名     | 第3章 経済と流通の基礎 1 経済の仕組みとビジネス ②生産要素と希少性 |   |         |
| 単元目標    | 知識・技術                                | ・生産の要素を知り、希少性についてその価値を理解する。   |         |
|         | 思考・判断・表現                             | ・地域の希少性を発見し、それをビジネスにどのように結びつくか考案し、表現することができる。   |         |
|         | 主体的に学習に取り組む態度                        | ・課題の解決に向けたビジネスの考え方及び共有に主体的かつ協働的に取り組んでいる。  |         |
| 単元と生徒   | 教材観                                  | ・社会や地域の課題を見出し、ビジネスの視点から社会的課題の解決策を考案する。社会的な課題にビジネスがどのような影響を与えているのかというビジネスの役割を実践的に理解させる。    |         |
|         | 生徒観                                  | ・元気があり活発な生徒が多く、授業時などの反応はよい。本時では生徒の積極的な姿勢を生かし、生徒同士や全体での意見交流を通して、全体の定着度を高められるような授業展開を心がけたい。 |         |
|         | 指導観                                  | ・社会の変化と共に変化したビジネスや社会、地域に関する課題を実践的・体験的に学習させる。既習事項の知識を活用し、自ら考え他者と協働することを通して理解を深めさせたい。       |         |
| 単元の指導計画 | 第3章 経済と流通の基礎9時間 生産の要素と希少性 1時間        |   |         |

#### 単元(題材)の評価規準

|      | (ア) 知識・技術  | (イ) 思考・判断・表現   | (ウ) 主体的に学習に取り組む態度  |
|------|--|--|--|
| 評価観点 | ・社会の変化により生じた課題及びビジネスの役割について理解しているとともに、社会的課題をビジネスの視点から解決する技術を身に付けている。 | ・社会の変化により生じた課題を見出し、科学的な根拠に基づいて、ビジネスの視点から課題解決することを考案している。 | ・社会の変化により生じた課題及びビジネスの役割について自ら学び、社会的課題の解決について主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 |

#### 本時の計画(本時 1 / 1時間)

##### (1) 本時の目標

| 時間          | 生徒の学習活動                                       | 形態       | 教師の活動及び指導上の留意点                                     | 主な評価の観点              | 評価方法    |
|-------------|---|----------|--|----------------------|---------|
| 導入<br>(10分) | ・始業の挨拶<br>・前時の学習の確認<br>・導入クイズ<br>・本時の流れ、目標の確認 | 一斉       | ・振り返りは電子黒板を用いて視覚的に行う。<br>・出題する。<br>・本時の流れ、目標を説明する。 |                      |         |
|             | 目標：地域の希少性を見つけ、経済活動につなげよう。                     |          |  |                      |         |
| 展開<br>(35分) | ・指示された資料の説明を聞く。<br>・ワークシート穴埋め                 | 一斉       | ・ワークシートを配布する。<br>・電子黒板を使い説明する。<br>・ワークシートの答え合わせ。   |                      |         |
|             | ○身近にある希少なものには価値があるのだろうか？                      |          |  |                      |         |
| まとめ<br>(5分) | ・ペアになって考えを伝え合い、深め合う。<br>・板書をワークシートにまとめ説明を聞く。  | ペア<br>一斉 | ・ペアワークで話し合わせる。<br>・発表の要点を分類に分けて板書する。まとめを説明する。      | ・他者の意見も取り入れ考察している(イ) | ・ワークシート |
|             | ・本時の「リフレクションシート」に記入する。<br>・終業の挨拶              | 個人       | ・リフレクションシートに記入させ回収する。<br>動画を提供する。机間指導を行う。          |                      |         |

## 8 研修リフレクションシート

| No.11  | 学校番号 | 21 | 学校名 | 秋田商業高等学校 | 氏名 | 渡部 孝史 |
|--|------|----|-----|----------|----|-------|
| <p>(1) 講座Ⅵ「中学校との関連を踏まえた授業づくり」を振り返って印象に残ったことや深めたい内容等について</p> <p>今回の研修を通して、中学校での学習内容や指導の積み重ねを正確に把握することが、高等学校での授業づくりの質を高める上で不可欠であると改めて感じた。中学校段階での生徒が身につけてきた力やつまづきやすい点を意識することで、導入や課題設定をより効果的に工夫できると感じた。今後は中学校との連携を意識し、生徒が学びのつながりを実感できる授業づくりに取り組んでいきたい。</p> <p>また、中学校段階でのキャリア教育や社会科・技術科などでの学習内容が、高等学校商業科の学習と深くつながっていることを再認識した。中学校で培われた基礎的な情報活用能力や協働的な学びの経験を踏まえることで、商業科における専門的な学習への導入がより円滑になると感じた。今後は、中学校での学びを土台とし、生徒が将来の職業や社会との関連を具体的にイメージできるような実践的な授業づくりを進めていきたい。</p> <p>(2) 講座Ⅶ「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくりを振り返って印象に残ったことや深めたい内容等について</p> <p>主体的・対話的で深い学びを取り入れた商業科の授業づくりは、生徒が実社会とのつながりを意識しながら、自ら考え、他者と協働し課題を深く探究していく力を育成することを目指し、目的としている。</p> <p>経済産業省の未来人材ビジョンより、今後の問題点として、デジタル技術が活用されることによりAIやロボットによる雇用の自動化が進むことがあげられている。これにより会計事務従事者などが自動化できると予想が立てられている。米国では自動化により労働市場の両極化が起きた。日本でも兆候が確認されている。また、人口減により外国人労働者を至るところで採用している。これらを踏まえ、これから必要となるのは、課題解決能力、発想力、他者との協働力を身につけている人材である。</p> <p>産業界と教育機関との一体化が必要となる。新たな未来を牽引する人材が求められる。社会情勢を踏まえた授業づくりから人材育成へと今後つなげていくことが大事である。</p> <p>(3) 講座Ⅵ、Ⅶから気づきと生かし方</p> <p>本研修を通して、中学校段階で育成されてきた資質・能力を正確に把握し、それを前提にした高等学校の授業づくりの重要性を再認識した。特に、生徒がすでに身につけている学習方法や思考の型を生かすことで、学びの断絶を防ぎ、よりスムーズに高等学校の学習へとつなげられることに気付いた。また、主体的・対話的で深い学びの視点から授業を捉え直すことで、単に活動を取り入れるのではなく、何を考えさせたいのか、どのような対話が学びを深めるのかを明確にする必要があると感じた。生徒同士の意見交換や振り返りの場面を意図的に設定することが、思考の深化につながると理解できた。今後は、中学校との接続を意識した教材研究を行うとともに、生徒の気づきを引き出し、それを次の学びに生かす授業計画を心がけていきたい。</p> <p>本研修で得た視点を、日々の授業改善に継続的に生かしていきたい。そして、商業科目を学び、地域に貢献できる人材の育成。そのために日々の授業から課題解決能力や他者との協働する力を身につけさせることが大事。また社会に応じた能力を備えさせ、その力を発揮させる人材育成が必要となる。主体的・対話的で深い学びから実社会へとつなげていきたい。</p> |      |    |     |          |    |       |

# 実践的指導力向上研修講座(高等学校8年目)を受講して

教諭 佐藤友弥・佐藤正志

## 1 はじめに

本研修の目標は、「自己理解に基づき、個々の個性・適性、分掌等に応じた資質能力の向上を図る。」と設定されていた。本研修を通して自身の資質能力を理解し、教育活動全般に繋げることを目標に研修に臨んだ。

## 2 期 日

- I 令和7年6月20日(金)
- II 令和7年7月23日(水)

## 3 内 容

- I (1) <講義・演習> いじめや不登校の未然防止と対応  
秋田県総合教育センター 指導主事 高橋真理奈 先生
- (2) <講義・演習> 教育活動全体を通じたキャリア教育  
秋田県総合教育センター 指導主事 木村ふさ子 先生
- (3) <講義・演習> 学校組織の一員として—自己理解に基づく目標設定—  
秋田県総合教育センター 指導主事 八柳英子 先生
- II (1) <講義・演習> カリキュラムマネジメント  
秋田県総合教育センター 指導主事 鈴木智美 先生
- (2) <講義・協議・演習>カリキュラムマネジメントを軸にした授業改善  
秋田県総合教育センター 指導主事 金森道 先生  
秋田県総合教育センター 主任指導主事 近藤俊春 先生

## 4 概 要

### I (1) いじめや不登校の未然防止と対応【生徒指導力】

いじめ問題への対応としてあらかじめ教育現場で認識しなければならないのは「いじめの定義」であることだ。言葉の受け取り方が難しくなっているため、言葉の選択やコミュニケーションスキルを教員と生徒が学び、磨いていくことが大切である。また、実際にいじめが発覚した場合でも全てが厳しい指導を要するとは限らないため、柔軟な対応による対処も検討する必要がある。

不登校については、「学校に行かないタイプ」、「学校に行けないタイプ」、「気力がないタイプ」の3つのタイプに分けられる。不登校対策につながる発達支持的生徒指導として「魅力ある学校づくり・学級づくり」と「学習状況等に応じた指導と配慮」が挙げられた。生徒が学校に来ることに對して楽しいと感じ、休みたいと思わないような「居場所づくり」と「絆づくりのための場づくり」の重要性を強調していた。生徒からのSOSが出せる信頼関係づくりとして教員が忙しいオーラを出さず、話しかけやすい雰囲気心がけることが大切だ。

また、校外の関係機関との連携としてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーに相談する手段もあることが述べられた。

(2) 教育活動全体を通じたキャリア教育【教育課題への対応】

令和7年度学校教育の指針の重点として「地域に根ざしたキャリア教育の充実」があり、具体的には①社会的・職業的自立を目指したキャリア教育の充実②主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進③自他を尊重する心を育む教育活動の充実が挙げられている。働き方の多様性が進む中で社会が求めている人材を理解し、授業を含めた教育活動全般で主体性や課題解決能力を育てる必要がある。特に商業科における授業やビジネス実践活動は地域の企業を知るきっかけとなり、連携を図れる場面が多岐に渡ってあるため、より一層力を入れていきたい。

(3) 学校組織の一員として —自己理解に基づく目標設定—【マネジメント能力】

教職員としての自分の力量分析に基づいた能力開発の必要性について理解することをテーマにグループワークで「資質・力量マップ」を作成した。「自分の強みと弱みを理解する」、「その理解に基づいて今後の自分の成長への努力を見通す」の2点を踏まえて活動を進め、改めて自分自身が学校という組織の中でどのような役割を果たしているのか考えることができた。普段は生徒を評価しているが、このように自身を評価すると細かな業務のミスが目立ったため、社会人の常識である時間を守ることやメモを取ることなど当たり前の積み重ねが大切であると感じた。

II (1) カリキュラム・マネジメント【教科等指導力、マネジメント能力】

キーワードは「つなぐ」。各学校の教育目標、教育課程、授業が独立せず組織的かつ計画的に実施し、教育活動の質の向上につなげることを再確認する必要がある。また、演習として勤務校の「よさ」と「課題」を探ることをテーマにグループワークを実施した。自校や他校の実情を共有し、課題の改善や解決策を考える上で勤務校への愛情がより良い教育活動につながることを強く感じた。

(2) カリキュラム・マネジメントを軸にした授業改善【教科等指導力】

3人1グループ(農業・保体)、1人40分(視聴25分+協議15分)の持ち時間で録画した授業で授業改善の研究協議を行い、その後、商業科(3名)と近藤主任指導主事で振り返りをした。他教科の先生方の授業風景や振り返りから生徒に考えさせる場面設定の難しさやカリキュラム・マネジメントを軸にした授業単元を選択できていたかなど、様々な視点を持って授業を構築していく大切さを感じた。

私は、簿記—固定資産の減価償却—の単元を選択し、企業は直接法と間接法のどちらを使うだろうかをテーマに授業を実践した。記帳方法を理解して適切な会計処理を評価するのではなく、「自分だったらどちらを選択するか」を考えさせて発表することを評価とした。メリット・デメリットは双方にあるため話し合いで決めることで、カリキュラム・マネジメントの主体的・対話的で深い学びに繋げることを狙いとした。

近藤主任指導主事からカリキュラム・マネジメントに基づいた授業展開であったことを評価していただいた一方で、商業科の教員である以上は専門用語で授業を進めることの大切さについて助言をいただいた。

5 まとめ

本研修を終え、教職員としての働き方や学校という組織で自身の役割について考える良いきっかけとなった。本校の教員として何ができるのかを考え、生徒児童数減少が進む中でも本校で学びたいと思うような学校にしていきたい。

# 中堅教諭等資質向上研修講座(高等学校)を受講して

教諭 佐藤 悠香

## 1 校外研修について

### ①センター研修

| 期   | 日時                  | 研修内容  |
|-----|---------------------|---|
| I   | 6月24日(火)<br>(オンライン) | 【開講式】中堅教諭等への期待<br>○教育公務員の服務<br>○学校の危機管理<br>○質の高い授業研究を継続的に進めていくための方略                               |
| II  | 8月5日(火)             | ○高い専門性に基づく教科指導の充実と推進  |
| III | 9月18日(木)            | ○人間としての在り方生き方を考える道德教育<br>○いじめの理解と対応<br>○気になる生徒の事例を通した具体的対応の理解                                     |
| IV  | 10月21日(火)           | ○学校全体で取り組む情報教育<br>○キャリア教育の推進<br>○学校組織の一員として ―キャリアデザイン―<br>○これからの学校教育<br>【閉講式】中堅教諭等資質向上研修を終えるに当たって |

I期では、学校における危機管理の重要性を改めて実感した。「危機はいつでも起こり得る」という意識を持ち、日常の小さな兆候に気づく感度を高めることが、未然防止の第一歩であると学んだ。教員は、授業や部活動中の事故防止、健康管理、災害時の対応など、あらゆる場面での危機意識と迅速な対応が求められる。今後も日々の教育活動の中で、危機管理の視点を持ち続け、安全・安心な学校づくりに努めていきたい。

II期では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実について理解を深めることができた。個別最適な学びとは、生徒が自らの理解度や興味・関心に応じて学習を調整しながら進める学びであり、協働的な学びとは、そうした個別の学びが孤立しないよう、他者と関わり合いながら多様な視点を取り入れ、学びを深めていくものである。この二つの学びの在り方について再認識するとともに、それらを実現するには「一人一人の子どもを主語にした学び」の視点が不可欠であることを学んだ。今後は、生徒自身が学習課題や学習形態を主体的に選択・決定・切り替えながら、「自分の学びをデザインできる授業」を目指して、授業改善に取り組んでいきたい。

III期では、「気になる生徒の事例を通した具体的対応の理解」についての講義や演習を通して、自分自身の生徒への関わり方を改めて見つめ直す機会となった。中でも、声のトーンや目線、しぐさといった非言語的な要素が、生徒の受け取り方に大きく影響することを学び、「何を言うか」以上に「どう言うか」が信頼関係を築くうえで重要であると実感した。また、家庭も困り感を抱えていることが多く、教員として“共に育てていく”という姿勢で関わることの大切さを再認識した。さらに、自分自身の認知のクセや受け取り方に気づき、円環的思考を通して状況を多面的に捉える視点を得られたことは、大きな学びとなった。こうした学びをもとに、グループで実際の事例に対する対応策を検討したことで、理解をより深めることができた。今後も、生徒一人ひとりに寄り添いながら、柔軟で丁寧な対応を心がけていきたい。

IV期では、「学校全体で取り組む情報教育」についての講義や演習を通して、これからの教育の在り方を見つめ直す貴重な機会となった。学習指導要領において、学習の基盤となる資質・能力として「情報活用能力」が明記されていることから、すべての教科でこの力を育成する必要があることを改めて学ぶことができた。また、超スマート社会を生きる生徒たちには、「文

章や情報を正確に読み解き、対話する力」「新たな価値を見いだす力」「AIやデータを最大限活用できる力」などが求められていることも確認できた。しかし、これまでの自分の指導を振り返ると、そうした力を育む視点が十分でなかったことに気づかされた。今後は、これらの学びを生かし、生徒の将来を見据えてICTを活用した授業を展開できるようにしたい。そのためには、自分自身のICT活用能力を高めることができるよう、日々の実践に取り入れていけるよう努力していきたい。

#### ② 選択研修

進路指導を通してスポーツマーケティングに関心を持つ生徒と出会い、私自身も理解を深めたいと考え、株式会社ブラウブリッツ秋田で研修を行った。事業部での研修では、集客に関する課題やその改善策について学び、特にPDCAサイクルに基づいた「評価と改善」の重要性を実感した。例えば、前節のチケット売上から人気のない座席を分析し、付加価値をつけて販売する工夫や、来場者単価を上げるための施策など、数字に基づいた戦略的な取組が印象的だった。また、ホームゲームのイベント運営にも携わり、キッズパークやピッチでのヨガなど、魅力的な企画が集客に大きく貢献していることを体感した。プロモーション活動の工夫や、現場での柔軟な対応力の重要性も学び、実社会で求められる力を肌で感じることができた。今回の経験を通して得た学びを、今後の進路指導に活かし、生徒たちの夢の実現を支えていきたい。

#### ③ 授業研修

9月3日(木)に、男鹿工業高校で体育のバドミントンの研究授業を実施した。「相手の守備を崩し、得点しやすい空間を作り出すこと」を目標とし、技術練習とゲームを組み合わせた授業展開とした。授業の後半では、生徒が自らの技能や課題に応じて練習場所や方法を選択できるようにし、学習の個別化を図った。生徒達は、仲間と相談しながら練習内容を決定し、主体的に取り組むことができていた。今回の授業実践を通し、体育では生徒自身が学習形態を選択したり、自らのタイミングで形態を切り替えたりすることが比較的容易であり、生徒の主体性を引き出しやすいことを改めて実感した。今後もこのような学びの在り方を大切に、生徒一人ひとりが自ら考え、選び、行動できる授業づくりを目指していきたい。

## 2 校内研修について

校内研修では、学校経営や教育課程、危機管理などについて、多くの先生方からご指導いただいた。中でも、校長先生の講話では、学校経営とは単なる組織運営ではなく、教育目標の実現に向けて学校全体の力を引き出す取組であり、そのためには、教員一人ひとりが力を発揮できる職場の雰囲気づくりや、信頼関係の構築が不可欠であることを学び、学校経営の本質を理解することができた。また、生徒の主体性を育むことが教育の根幹であり、目標達成に向けて失敗を恐れず挑戦する姿勢を育てるには、大人がその姿を示すことが重要であるという言葉が印象に残った。さらに、教頭先生の講話では、危機管理の重要性について学び、「生徒の命を守ることを最優先に考え、日頃から危機に対するアンテナを高く持ち、いざという時に備え、「自分ならどう動くか」「本校ではどう対応すべきか」を常に意識することで、危機予測力や判断力を養っていくことの必要性を再確認することができた。お二人の先生方の講話のみならず、多くの先生方からの講話を通し、中堅教員としての自覚を新たに、学校経営にどのように関わっていくかを考えることができた。今回得た学びを今後生かし、中堅として学校全体の発展に貢献できるよう研鑽を重ねたい。

## 3 これまでの10年を振り返って

この10年は、採用当初に思い描いていたようなキャリアを十分に積むことができず、中堅と呼べるだけの力を備えることができなかつたと振り返っている。今回の研修は、そうした自分の現状を見つめ直す貴重な機会となり、多くの課題や教員としての専門性の未熟さに気付かされた。また、今後どのように成長していくべきかを考えるきっかけにもなった。今回得た気づきを糧に、今後も学び続ける姿勢を大切にしながら、教員としての資質を高めていきたい。

## 選 択 研 修 報 告 書

|  |                               |      |          |
|--|-------------------------------|------|----------|
| 所 属 校  | 秋田市立秋田商業高等学校                  | 職・氏名 | 教諭 佐藤 悠香 |
| 研 修 先  | 株式会社ブラウブリッツ秋田                 |      |          |
| 研 修 期 間  | 令和7年7月29日(火)、8月9日(土)、8月19日(火) |      |          |
| <p><b>1 研修の概要</b></p> <p>7月29日(火) 9:00～10:00 オリエンテーション(クラブの歴史や課題、業務内容等について)<br/> 10:30～12:00 場外イベントミーティング<br/> 13:30～14:30 集客マーケティングミーティング<br/> 17:00～17:30 試合運営ミーティング<br/> (次戦ホームゲームに向けてのミーティング)</p> <p>8月9日(土) 11:30～14:30 会場設営<br/> 14:45～20:00 試合運営業務(場外イベント運営、開始セレモニー補助等)<br/> 20:30～21:30 後片付け</p> <p>8月19日(火) 10:30～12:00 場外イベントミーティング<br/> 13:30～14:30 集客マーケティングミーティング<br/> 17:00～17:30 試合運営ミーティング<br/> (前節ホームゲームの振り返り、次節以降ホームゲームに向けてのミーティング)</p> <p><b>2 研修の成果(今後への生かし方も含むこと)</b></p> <p>私は、昨年度、「プロスポーツチームでフロントスタッフとなり、マーケティング分野の仕事を担当したい」という夢を持ち、大学進学を目指す3年生の進学指導を担当した。さらに、今年度も同じ志望の生徒と出会ったことから、商業高校であるためスポーツマーケティングに興味を持つ生徒が多いのではないかと考えた。このことをきっかけに、そのような志望の生徒達の力になれるよう、私もスポーツマーケティングについて学びを深めたいと思い、株式会社ブラウブリッツで研修を実施させていただくことを決めた。</p> <p>研修では、いくつかの部署がある中で「事業部」で受け入れていただき、私が特に学びたかった「集客マーケティング」について勉強させていただいた。クラブが抱える集客に関する課題としては、「コア層以外の層をどう集客するか、集客した顧客をどうロイヤル顧客にしていくか」ということであり、その課題を解決するために場外イベントや付加価値をつけたチケットを企画していることを知った。同時に、試合観戦を目的にスタジアムに来てくれるファンを増やすことが理想だが、選手獲得や結果を残すこと自体の難しさもあり、なかなか理想通りにはいかない現実も教えていただき、クラブチームが抱える課題について学ばせていただいた。</p> <p>3日間を通して、イベントやチケットの企画するに当たり、PDCAサイクルに基づき、常にアップデートを目指しているのだと感じた。特に、学びとなったのは「評価と改善」の部分である。「前節のチケットの売り上げから、人気のない座席を明確にし、そのような座席にどのような付加価値をつけて売り上げを出すか」、「来場者単価を算出し、あと500円使ってもらうためにどういう策を打ち出すか」など、数字から評価し、そこから改善策を打ち出していた。改善策を打ち出すに当たっては、ホームゲームの開催時期や時間帯、来場者の客層、スタジアムの環境、場外の各店舗の売り上げなどをもとに分析していた。事業部長からは、「この仕事を担当する上で、数字に強く、分析力に長けている方がよい。高校生にもその点を意識して学習してほしい」ということを助言いただき、私自身も実際にミーティングに参加して同じように感じた。</p> <p>また、ホームゲームのイベント運営にも携わり、魅力的なイベントばかりで集客がもっと増やせそうだと感じた。例えば、キッズパークはハーフタイムの時間帯にも遊びにくるほど大盛況であり、ピッチでのヨガイベントもファンの方からすると、ピッチに降りることができること自体が貴重な経験だと好評であった。事業部長は「プロモーション活動を工夫し、まずは認知度向上させることが大事だ」と話しており、プロモーション活動の大切さについても改めて学ぶことができた。さらに、予定通りに進まないこともあり、コミュニケーション力や的確で迅速な判断力も大事になるということも学んだ。</p> <p>これまで、自分で調べて学んできたことを実際に経験しながら学ぶことで理解を広げたり深めたりすることができ、とても貴重な機会となった。3日間を通して学んだことをもとに、今後もさらに学びを深め、生徒達に還元していきたい。</p> |                               |      |          |

## 保健体育科(体育)学習指導案

### 1 単元名 球技 ネット型(バドミントン)

#### 2 単元の目標

- (1) 勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができるようにする。(知識及び技能)
- (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどをしたり、健康・安全を確保したりすることができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

#### 3 単元と生徒

##### (1) 単元観

バドミントンは、コート上でネットをはさんで相対し、身体やラケットを操作してシャトルを空いている場所に返球し、一定の得点に早く到達することを競い合うゲームである。味方や相手の状況に応じて得点しやすい空間を作り出せるよう攻撃をしかけ、その攻撃に対応して仲間と連携して守るなどの攻防を展開することを目標としている。

##### (2) 生徒観

機械科の3年生である。男子19名、女子2名の計21名であり、特に男子生徒はバドミントンに意欲的に取り組んでいる。

##### (3) 指導観

学習指導要領では、ネット型球技の技能の指導に際して、「ボールの変化やリズムの変化によって相手守備を崩し、得点しやすい空間を作り出すなどの攻撃とその対応による攻防」を中心に取り上げることとされている。本時の授業では、特に攻撃面に着目し、「相手の守備を崩し、得点しやすい空間を作り出すための攻め方」への理解を深めながら技能を高めた。

#### 4 指導と評価の計画

【指導計画】(1)導入：1時間 (2)基本練習：3時間 (3)リーグ戦：4時間 (4)まとめ：1時間

##### 【単元の評価規準】

| 知識・技能   | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度   |
|---|---|---|
| ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができる。 | 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えている。 | 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。 |

## 5 本時の学習(本時 3 / 9)

### (1) 目標

相手側コートを守備のいない空間に緩急や高低などの変化をつけて打つことにより相手守備を崩し、得点しやすい空間を作り出すことができる。(知識・技能)

### (2) 本時の展開

| 過程  | 学習活動  | 教師の支援及び留意点  |
|---|---|---|
| 導入<br>10分   | 1 整列、挨拶、準備運動<br>2 本時の目標と流れの確認   |   |
|   | 【本時の目標】 相手の守備を崩し、得点しやすい空間を作りだそう。  |   |
| 展開<br>35分   | 3 技術練習<br>・ハイクリア (1分×2セット)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・7人グループをつくり、使用コートを示す。グループの中で、2人もしくは3人組をつくるよう指示する。</li> </ul>                   |
|   | 【発問①】 ハイクリアでコート後方に下げた相手から得点をとるのに有効なショットは? 「ドロップ」                                    |   |
|   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハイクリア→ドロップ→ロブの MIX ラリー (1分×2セット)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ショットが上手く打てない生徒には、支援をする。</li> </ul>  |
|   | 4 ハーフコートのゲーム (2分×4セット)  |   |
|   | 【発問②】 ハーフコートゲームで相手の守備を崩すには、どう攻める? 「相手を前後に揺さぶる」                                      |   |
| 展開<br>35分   |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手を前後に揺さぶって決めるよう指示する。</li> <li>・ゲームをしていない人は、得点とアドバイスを担当させる。</li> </ul>        |
|   | 【発問③】 相手を前後に揺さぶって得点をとるために大事なことは? 「ハイクリアをエンドラインギリギリに打つ」「ドロップをネットギリギリに打つ」など           |   |
|   | 5 シングルスゲーム (5点先取)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニゲームでの気づきをゲームに生かすよう指示する。</li> <li>・相手を揺さぶる攻撃ができていない生徒には、必要な支援をする。</li> </ul> |
| 【評価】(知識・技能)<br>相手側コートを守備のいない空間に緩急や高低などの変化をつけて打つことにより相手守備を崩し、得点しやすい空間を作り出している。【観察】 |   |   |
| まとめ<br>5分   | 6 本時のまとめと振り返り   |   |
|   | 【発問④】 空いた場所に落とされないために重要な動きは? 「コート真ん中に戻る」  |   |
|   | 7 挨拶  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の発言を次回の授業(守備中心)の説明につなげる。</li> </ul>   |

# 特定課題研究レポート

|       |   |  |          |
|-------|---|--|----------|
| 所属校   | 秋田市立秋田商業高等学校  | 職・氏名   | 教諭 佐藤 悠香 |
| 研究内容  | A：本県の教育課題に関する研究<br>C：生徒指導に関する研究<br>E：道徳教育に関する研究<br>G：総合的な学習の時間に関する研究<br>I：その他 | B：マネジメントに関する研究<br>④：教科指導に関する研究<br>F：特別活動に関する研究<br>H：特別支援教育に関する研究<br>(選択したものに○を付けること) |          |
| 研究テーマ | 保健の授業づくりにおける生成AIの活用方法についての実践的研究   |  |          |

## 1 研究の概要

### (1) 研究の動機

保健の授業づくりにおいて、「生徒が学習課題を自分事として捉え、主体的に取り組みながら理解を深める授業」を目指してきたが、従来の指導法では新たなアイデアを見いだせず、改善が停滞していた。その頃に、文部科学省の「リーディングDXスクール」等で生成AIの活用事例に触れ、保健体育科における活用の可能性を追求したいと考え、本テーマを設定した。

### (2) 研究目的

生成AIを保健の授業準備及び実践に導入し、その具体的な活用方法と効果を明らかにすることを目的とする。

### (3) 研究方法

- ① 対象単元：第1学年 保健「安全な社会生活」(ア)安全な社会づくり、(イ)応急手当)
- ② 使用教材：『現代高等保健体育』(大修館書店)
- ③ 検証方法：授業準備の各段階におけるAIの活用履歴を記録するとともに、授業中の生徒の活動、対話の深まり、ワークシートの記述内容を観察・分析する。

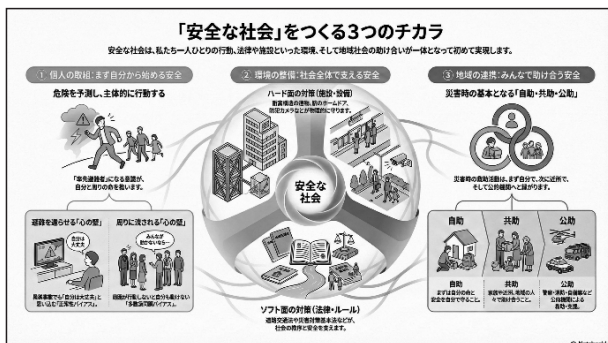
## 2 研究結果(生成AIの具体的な活用法)

実践を通して有効性が感じた活用法は以下の通りである。

### (1) NotebookLMによる授業内容の可視化(インフォグラフィック活用)

内容：授業内容を要約し、視覚的なまとめ資料を作成した。

効果：生徒はスライド1枚で1時間の流れを振り返ることができ、自分の考えを記述する際の思考の助けとなった。また、教員にとっても授業の要点を再確認する一助となった。



#### 【本時のまとめ】

「安全な社会の形成には、『個人の取組』『環境整備』『地域の連携』がどのように関わっていると考えますか。授業で学んだ内容を使い、自分の言葉で説明しなさい。」

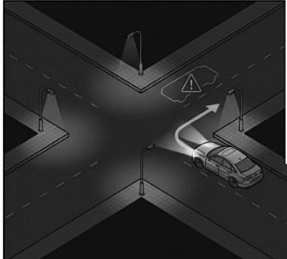
安全な社会をつくるためには、一つでも欠けていたら危ない事件や事故に巻き込まれてしまうことがあった。いくら自分が気をつけていても設備が悪かったり、設備が完璧でも1人1人が気をつけていく意識を持っていないと安全は守れないんだと思った。それだけでなく、時に助けをもらうために地域の方々とコミュニケーションが必要だと感じた。手伝わなくても自分が助けると意識をもって周りを見て行動していきたい。




### (2) Geminiによる対話的な授業案の構築とスライド化

内容：ケーススタディやロールプレイングのアイデアをGeminiで生成し、その案をNotebookLMに読み込ませてスライド化した。

効果：事例作成時間を大幅に短縮することができた。さらに、応急手当では本来は実習が求められているが、必要な物品を揃えるのが難しいため、AIが提案した「写真を用いたケーススタディ」を採用することで、実習を行わずとも実践力を高める工夫ができた。

**【ケース1】この事故、どうすれば防げた？**  
 夜間、街灯の少ない交差点での右折事故。



| 環境<br>Environment   | 車両<br>Vehicle   | 人的<br>Human  |
|---|---|--|
| <br>街灯が少なく暗い。見通しが悪い。 | <br>ライトの照射範囲は十分だったか？ | <br>「誰もいないだろう」という油断(希望的観測)。 |

この事故をゼロにするために、環境・車両・人のそれぞれで『できたはずのこと』をワークシートに書き出してみましょう。「環境」「車両」「人的」のどこを改善すれば事故を回避できたか整理してみましょう。

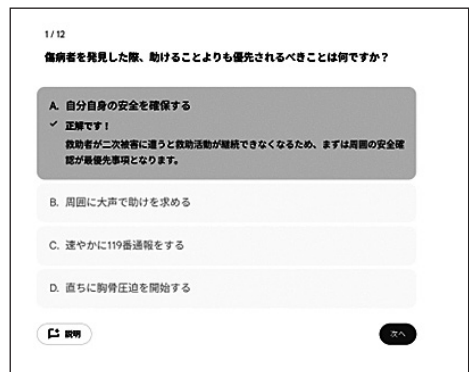
**ケース2**



それぞれのケースについて、必要な応急手当について考えよう(グループ)

- ①どんな怪我や症状が疑われるか？
- ②必要な手当は？

- (3) NotebookLMを活用した学習内容定着のためのクイズの作成  
 内容：授業で使用したパワーポイント資料を読み込ませ、解説付きのクイズを自動生成した。  
 効果：教材作成時間を大幅に短縮しつつ、生徒が楽しみながら知識の定着を図る機会を提供できた。



(4) Geminiによる最適な映像資料の選定と活用提案

内容：導入に適した映像資料の検索と、その効果的な活用方法(提示のタイミングや発問など)をAIから得た。  
 効果：教材研究にかかる時間を短縮でき、JAFの危険予知トレーニング動画を用いた効果的な導入が可能となった。

交通事故は100%運転者の不注意だけで起こる？



交通事故はどう防ぐのか？

雨の夜や交差点のシーンJAFの「危険予知トレーニング(KYT)」動画を30秒程度再生。

「今の映像、ヒヤッとしましたね。事故が起きる寸前でした。この危機を『個人の注意』だけで防げるでしょうか？どうすれば確実に防げるか、3つの視点で整理していきましょう。」

3 考察

今回の研究により、GeminiとNotebookLMを目的別(アイデア生成と資料化)に使い分けることで、保健授業における有効な活用法を見いだすことができた。

【成果】

自分一人では到達できなかった新たな授業展開の構築や、生徒が理解を深めるための視覚資料・クイズ作成を短時間で行うことが可能となった。特に「指導案、評価基準、ワークシート、生徒の回答予想」まで多角的に生成できる点は、授業準備の質を高める大きな要因となった。

【課題と展望】

生成AIは非常に有用である一方、利用者が明確な目的意識を持たなければ、AIに振り回されて効率を損なう可能性があることも実感した。管理職の先生方からは、「AIを活用し、実習を行わずとも実践力を高める工夫をした点は、今後の授業モデルとなる研究である」と評価をいただいた一方で、「効果的に活用するには、使う側が明確な目的意識と教材への深く正しい理解を持つことが不可欠である」という助言もいただいた。これらの指摘を踏まえ、今後も研鑽を続けたい。また、今回は授業の質に関する評価が主観的なものにとどまったため、生徒アンケートやテスト結果の分析など、客観的データに基づく評価を行い、より効果的な活用方法を確立していきたい。

## 中堅教諭等資質向上研修講座(高等学校)を受講して

教諭 宇佐美 圭 介

### 1 校外研修について

#### ①センター研修

| 期   | 日時                  | 研修内容  |
|-----|---------------------|---|
| I   | 6月24日(火)<br>(オンライン) | 【開講式】中堅教諭等への期待<br>○教育公務員の服務<br>○学校の危機管理<br>○質の高い授業研究を継続的に進めていくための方略                               |
| II  | 8月5日(火)             | ○高い専門性に基づく教科指導の充実と推進  |
| III | 9月18日(木)            | ○人間としての在り方生き方を考える道德教育<br>○いじめの理解と対応<br>○気になる生徒の事例を通した具体的対応の理解                                     |
| IV  | 10月21日(火)           | ○学校全体で取り組む情報教育<br>○キャリア教育の推進<br>○学校組織の一員として ―キャリアデザイン―<br>○これからの学校教育<br>【閉講式】中堅教諭等資質向上研修を終えるに当たって |

I期の教育公務員の服務では、時間外在校等時間は年々減少しているがまだ多い状況があり、業務の見直しを図り、さらに時間外在校等時間を減らしていかなければいけないと感じた。また、不祥事の根絶に向けて、様々な意識を高めていかなければいけない。慣れや勘違いでは済まされないため、自分の行動はもちろん周囲の行動でも気になることは改善策を検討し続けなければいけない。学校の危機管理では、学校は生徒にとって安全でなければならず、一つの事故が学校の信用失墜につながるが、危機がゼロになることはないことを再認識した。それぞれの職員がどこかに危機が潜んでいると思いながら危機管理をアップデートしていくことで危機を限りなくゼロに近づけていかなければいけないと感じた。質の高い授業研究を継続的に続けていくための方略では、授業研究は組織的に全員が参加して授業の質を高めなければいけないが、実行されていない現状があると感じた。教員の親和・結束を高め、参画していかなければいけない。また、授業は生徒と作り上げていくものである。生徒にも授業の目的を理解させてから授業を行うことで、自分事として取り組ませる必要がある。

II期は、数学科四名で各自の授業動画を視聴・協議した。学校によって生徒の学力層が違い、その学校に合わせた学習内容を選択していかなければいけない。また、生徒の思考を促すために、どこまで説明して、どの部分をどのように考えさせ、どのように興味を持たせるかなどをしっかりと計画し、生徒の資質・能力の育成に努めていかなければいけないと感じた。

III期の人間としての在り方生き方を考える道德教育では、学校全体で道德教育をしていかなければいけないことを再認識した。年々、人間関係が希薄な中で育ってきたような生徒が多くなっているように感じるため、人とのかかわり方や自分の考えと他者の考え方を納得のいく形でまとめさせる人間性を育てていかなければいけない。気になる生徒の事例を通した具体的対応の理解では、グループに分かれ、事例を持ち寄り協議した。事例の解決策を協議することで課題が明確になり、その後の指導を具体的に考える手助けになった。普段、自校生徒のことを考える際、一人で考えることが多くなりがちであるが、副担任や学年部の先生と情報を共有し、より良い指導につなげていかなければいけないと感じた。

IV期の学校全体で取り組む情報教育では、自分がイメージしていた情報モラル等の指導では不十分であり、Society5.0の中を生きていく生徒にどのような情報教育をしていかなければいけないかを考えさせられた。これから活用される頻度が増えていく生成AI等を自ら使用していくことで生徒に使用上の注意点等を指導できなければいけないと感じた。それ以外に

も、これからの予測困難な社会の中でどのように学校教育に携わっていくのかを考えていかなければいけない。新しくなり続ける社会の中での対応力を身につけさせるためにどのような教育が適しているのかを常に更新し続ける必要があると感じた。

## ② 選択研修

自身が専門とする教科とは違う分野の公営施設が担っている生涯学習や社会貢献の在り方を学び、教員として生徒を指導する際の幅を広げたいと思い、秋田県公文書館で三日間研修を行った。研修では、公文書館についての説明を受けたり、古文書の整理や特別展示の準備をしたりした。特別展示の準備では、八郎湖の干拓についての展示資料を作製しながら公文書館職員から干拓当時の話を伺った。自分が知らなかった様々な話を聴き、干拓前後が一筋縄ではいかなかったことを知った。このことから歴史を学ぶことの重要性を知った。国や地域、人々の生活を次世代に継承するために公文書や古文書の保存が大切である。しかし、欧米諸国と比べると日本ではその価値が低くみられており、発展途上である。国や自治体が中心となって、アーキビストを育成し、日本の歴史を守っていかなければいけないと感じた。

## ③ 授業研修

9月3日(木)に、秋田高校で2次関数と直線の共有点の個数を題材に研究授業を実施した。式変形が簡単な問題であれば、式変形をして判別式の値から2次方程式の解の個数を考えることができるが、2次関数と直線の式がやや複雑な場合、グラフを用いた方が考えやすくなる。このことを印象付けることにより、グラフを用いる良さや、式変形をする前に方針を立てることの大切さを印象付け、今後の様々な関数に対して活用させたいと思いこの題材を選択した。授業では2次関数のグラフとx軸に平行な直線や傾きが一定でy切片が変化する直線、定点を通り傾きが変化する直線を電子黒板で視覚的に例示し、共有点の個数がどのように変化するかを確認させることができた。しかし、説明に時間がかかり、生徒が解答を作る時間を確保することができなかった。普段接している生徒ではないため、既習事項の定着度や理解力がどの程度かわからない部分もあったが、様々なパターンを想定して準備する必要があったと感じている。学習内容の精選や説明を工夫して短縮するなど、1時間の授業内で収める方法を探究していかなければいけない。

## 2 校内研修について

管理職や分掌主任の先生方から学校や分掌を運営する上で、どのようなことを考えていかなければいけないのかを話していただき、これから中堅教員としてどのように学校経営に関わっていくかについて考えを深めることができた。2年部学年主任からは、一番は生徒が主体的に取り組むことであり、そのために担任の先生方が学級経営をしやすいように連絡・調整するのを大切にしていると伺い、信頼関係を持ちながら運営していることが分かった。

授業研修では6月13日(金)にアピール授業を行った。組合せの導入について、生徒とやり取りをしながら組合せと順列の関係性について確認し一般化した。いかに説明しすぎずに生徒から引き出すかを考えながら発問し、生徒からうまく引き出すことができたと思う。また、生徒が問題文をうまく読みとれず順列と組合せを混同してしまわないように具体例を示して確認することができ、理解を深めることができた。

## 3 これまでの10年を振り返って

これまでは分掌の一員として、主任や管理職と連携をとりながら指示されたことをやる事が多かったが、これからは自らが主任等となり他の教員と連携を図り、調整しながら仕事をしなければいけないと感じている。進路指導については大学進学についての知識はある程度あるが、就職や専門学校への進学についての知識に乏しいため生徒の進路実現に向けて学習し続けなければいけないと感じている。学習指導については、年々各学校に入学する生徒の学力層等が変化しているため、そのときの生徒に応じた授業を展開できるように様々な引き出しをつくっていきたい。その他の指導や業務に関しても変わりゆく社会や生徒、保護者に対応できるように能力を向上させていきたい。

## 選択研修報告書

|  |                                     |     |         |
|--|-------------------------------------|-----|---------|
| 所 属 校  | 秋田市立秋田商業高等学校                        | 氏 名 | 宇佐美 圭 介 |
| 研 修 先  | 秋田県公文書館                             |     |         |
| 研 修 期 間  | 令和7年8月4日(月)、令和7年8月7日(木)～令和7年8月8日(金) |     |         |
| <p><b>1 研修の概要</b></p> <p>8月4日(月) 大学生、短大生のインターンシップと合同実施</p> <p>8：30～9：00 研修準備</p> <p>9：00～9：30 オリエンテーション</p> <p>9：30～10：30 秋田県的主要業務、秋田県の採用制度について</p> <p>10：30～11：30 公文書館の概要について</p> <p>11：30～12：00 施設案内</p> <p>13：00～14：30 古文書資料整理作業について</p> <p>14：30～15：30 公文書等利用統計について</p> <p>15：30～16：30 マイクロフィルムの電子化および県公報修復作業について</p> <p>16：30～17：00 IPM（総合的有害生物防除管理）について</p> <p>8月7日(木)</p> <p>8：30～9：00 研修準備</p> <p>9：00～12：00 古文書資料整理ボランティア</p> <p>12：00～13：00 ボランティア参加者との昼食会</p> <p>13：00～15：00 古文書資料整理ボランティア</p> <p>15：00～16：00 古文書資料整理補助</p> <p>16：00～17：00 公文書館について</p> <p>8月8日(金)</p> <p>8：30～9：00 研修準備</p> <p>9：00～12：00 展示会準備</p> <p>13：00～14：30 展示会準備</p> <p>14：30～16：30 古文書資料整理補助</p> <p>16：30～17：00 研修のまとめ</p> <p><b>2 研修の成果(今後への生かし方も含むこと)</b></p> <p>秋田県公文書館は、歴史的資料として重要な公文書、古文書その他の記録の保存、利用及び調査研究並びに永年保存文書等の保存に関する事務を行うことを目的として、平成5年11月に設置された。業務は公文書チーム、古文書チーム、総務チームに分かれており、初日は学生のインターンシップと合同で秋田県職員の採用についての説明や各チームの業務内容を伺った。秋田県職員の採用についての説明では、秋田県職員の業務内容や勤務地、福利厚生などについての詳しい説明をしていただいた。これまで曖昧にしか分からなかった部分を詳しく知ることができ、今後の進路指導に活用したいと感じた。また、公文書館の業務内容を伺う中で、公文書や古文書を後世に残さなければいけない意義を知るとともに、欧米などと比べると日本が公文書等の保存に関しての法整備や環境整備が遅れていることを知った。欧米では後世に歴史を伝え、伝統や文化を守りながらより良い歴史を築いていこうという意識があることがわかった。</p> <p>2日目、3日目は古文書チームの業務に携わった。2日目は古文書資料整理ボランティアの予定だったが、前日の大雨により前日の夕方に中止することが決まった。参加者に中止の連絡をしていたが、連絡を取れなかった1名が来館し、古文書チームと参加者1名で資料整理を行った。現在使われていないような漢字やくずし字を読み取り、手紙の内容や本のタイトルをまとめ、整理した。特にくずし字を読み解く際には文字を読めるだけでなく、歴史的な背景等の専門的な知識が必要であり、大変な作業だと感じた。また、古文書の中には歴史的な価値が大きいものもあれば小さいものもあり、その量も膨大ですべてを管理しようとすると人手が足りないことが分かった。</p> <p>3日目は8月21日から始まる大潟村の干拓についての展示物を作製した。展示物を作製するために公文書館の職員が現地に赴き取材したり、公文書等をわかりやすくまとめたりしていた。展示物を見ることで大潟村干拓の歴史がわかり、現在の状態にたどりつくまでに多くの人の苦労があったのだと感じた。</p> <p>今回、公文書館で研修をさせていただいたことで、公文書館の職員の方々が高度な専門性と誇りをもって仕事にあたっていることを知り、自身の専門性もさらに高めなければいけないと思った。また、進学指導をする際に歴史分野に進む生徒の指導に困っていたこともあったが、具体例の一つとして提示するなど、指導をする際に役立てて行きたい。</p> |                                     |     |         |

# 数学科(数学Ⅰ)学習指導案

日 時：令和7年9月3日(水) 2校時  
場 所：秋田県立秋田高等学校1年D組教室  
対 象：秋田県立秋田高等学校1年D組40名  
授業者：教諭 宇佐美 圭 介  
教科書：「数学Ⅰ」 数研出版

## 1 単 元 名 2次関数

### 2 単元の目標

- (1) 2次関数についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、2次関数を用いて事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) 2次関数を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、2次関数の表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付ける。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 2次関数について、数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付ける。(学びに向かう力、人間性等)

### 3 単元と生徒

#### (1) 単元観

関数と方程式、グラフの関係について多面的に考察したり、方程式の解の個数を求めたりすることで問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養いたい。

#### (2) 生徒観

男子23名、女子17名、計40名のクラスである。学習に対して意欲的な生徒が多く、元気で明るい雰囲気のあるクラスである。問いかけに対する反応も良い。

#### (3) 指導観

方程式の解と関数のグラフとの関係について、生徒とのやり取りやICT機器を用いた例示を通して考察させ、理解を深めさせたい。

### 4 単元の指導計画

2次関数 教科書の内容はすべて指導済み

### 5 単元の評価規準

|       | (ア) 知識・技能                       | (イ) 思考・判断・表現  | (ウ) 主体的に学習に取り組む態度                      |
|-------|---------------------------------|---|--|
| 評価の観点 | 二次方程式の解と二次関数のグラフとの関係について理解している。 | 二次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察することができる。 | 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 |

6 本時の計画

(1) 本時の目標

方程式の解と関数のグラフとの関係について、多面的に考察することができる。

(2) 展開

| 時間        | 生徒の学習活動   | 指導上の留意点   | 評価場面・評価方法  |
|-----------|---|---|--|
| 導入<br>10分 | 問1 $ x^2-4x =a$ を満たす実数 $x$ がちょうど 2 個存在する実数 $a$ の値の範囲を求めよ。   |   |  |
|           | <ul style="list-style-type: none"> <li>問1の解法を考察する。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>どのように解くかを考えさせ、周囲の生徒と意見を交換させる。</li> <li>意見を集約し、解法を確認させる。</li> </ul>       |  |
| 展開<br>30分 | 問2 $ x^2-4x =x+a$ を満たす実数 $x$ がちょうど 2 個存在する実数 $a$ の値の範囲を求めよ。   |   |  |
|           | 問3 $ x^2-4x =bx+5$ を満たす実数 $x$ がちょうど 2 個存在する実数 $b$ の値の範囲を求めよ。  |   |  |
|           | <ul style="list-style-type: none"> <li>問2, 問3の解法を考察する。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>どのように解くかを考えさせ、周囲の生徒と意見を交換させる。</li> </ul>                                 |  |
|           | <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">発問： <math>x+a, bx+5</math> をどのように処理しますか。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>類題を解く。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>意見を集約し、解く時間を与える。</li> <li>必要であればもう一度周囲の生徒と意見を交換させたり助言を与えたりする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>方程式の解と関数のグラフとの関係について、多面的に考察している。(イ)(観察、プリント)</li> </ul> |
| まとめ<br>5分 | <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の内容をまとめる。</li> <li>振り返りを記入する。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>関数のグラフをかくことで方程式の解の個数が求めやすくなることを確認させる。</li> </ul>                         |  |

## 特定課題研究レポート

|  |   |  |         |
|--|---|--|---------|
| 所属校  | 秋田市立秋田商業高等学校  | 氏名   | 宇佐美 圭 介 |
| 研究内容   | A：本県の教育課題に関する研究<br>C：生徒指導に関する研究<br>E：道徳教育に関する研究<br>G：総合的な学習の時間に関する研究<br>I：その他 | B：マネジメントに関する研究<br>④：教科指導に関する研究<br>F：特別活動に関する研究<br>H：特別支援教育に関する研究<br>(選択したものに○を付けること) |         |
| 研究テーマ  | 生徒が意欲的に学ぶことができる授業の構築について  |  |         |
| <p><b>1 研究の概要</b></p> <p>授業をする上で教員が良い授業だと思っていなくても生徒はそう思っていなかったり、学習意欲や習熟度の問題で積極的に参加していなかったりする場合があります。その場合の生徒の定着度は低くなると感じている。そこで、生徒が思う良い授業とはどのようなものかを調査し授業改善に生かそうと思った。2 B 37名、2 D 35名、2 F 31名を対象にアンケートを取り、結果から生じた課題や疑問について再度アンケートを実施した。アンケートを取る際には良い授業とは「自分がラクだから」や「寝てても怒られない」という消極的な理由ではなく、自分が前向きに取り組める授業と定義し、悪い授業はその逆であると伝えた。また、「集中できる」や「分かりやすい」といった抽象的な表現ではなく、なぜ集中できるのか、なぜ分かりやすいのか等を具体的に記入するように伝えた。</p> <p><b>2 成果と課題</b></p> <p>1回目のアンケートでは「皆さんにとっての良い授業とはどんな授業ですか?」、「具体的にいうと誰の(どの教科の)どのようなスタイルの授業ですか?」の2点について回答してもらった。回答結果から、生徒が意欲的に取り組めない理由や意欲的に取り組んでもらうためのICT機器の効果的な活用方法について知りたいと思い、2回目のアンケートを実施した。2回目のアンケートでは「前向きに取り組めない授業はどんな授業ですか?」、「ICT機器が効果的に活用された授業の例を教えてください。」、「ICT機器の効果的ではない活用方法について教えてください。」の3点について回答してもらった。アンケートのまとめは別紙の通りである。</p> <p>前向きに取り組める授業と前向きに取り組めない授業を比較すると、「安心感・納得感・参加感」の有無が、生徒の意欲を分ける要因となっていることが分かった。安心感については、「間違えても良い」、「相談しても良い」という雰囲気を作ることで、発言や質問を促し、前向きな学習意欲を引き出すことができる。また、周囲と相談させる場面を設定することにより、自分の考えに自信を持つことができ、全体の場で発言することにつながる。納得感については、単なる正解の提示ではなく、「なぜそうなるのか」という理由や背景を身近な例や図解を示すことで生徒に深く理解させることが、学習意欲を高めることにつながる。結果だけでなく思考のプロセスをいかに生徒に理解させるかが大切であると思う。参加感については、生徒が一方的に話を聞く受け身の姿勢ではなく、自ら考え発言し、手を動かすなど、能動的な関わりがあることが必要である。演習や対話など、生徒が授業の主体となる場面を用意することで、意欲や集中力を維持することができる。参加するための知識が抜けていたり、指示が曖昧になったりすると参加する意欲があっても参加できない状態になることも想定されるため注意が必要である。</p> <p>ICT機器に関しては、視覚化・効率化を目的とした活用は効果的であるが、板書の置き換えとしてICT機器を使用すると逆効果になる場合があることがわかった。視覚化では、画像を用いたり、手元を拡大投影したりすることで内容をイメージしやすくし知識の定着を助ける。ICT機器を用いて効率化を図ることで、生徒が主体的・対話的で深い学びをする時間を確保することができる。しかし、時間短縮を考えすぎ、思考のプロセスや補足知識等が抜けたり、必要な時間まで削ってしまったたりしないように注意しなければいけない。また、スライドに情報を詰めすぎると生徒の板書が追いつかなくなったり、理解が不十分になってしまったりするため、スライドを用いて効率的に進む場面と、板書を残しながらじっくりと考えさせる場面を設定しなければいけない。匿名での意見共有は、間違いを恐れずに授業に参加する心理的な安全性を高め、主体的・対話的な学びを促進する効果があると考えられる。</p> <p>これまでの自分の授業を振り返ると、生徒が一方的に説明されている感じになっていたり、ICT機器を活用する際に効率化が先行しすぎ、生徒の理解を深めることにつながっていなかったりすることがあったのではないかと感じている。これからの授業では、生徒がより意欲的に授業に参加するためにどのような授業を構築すればよいかを考え続け、生徒の主体的・対話的で深い学びにつなげられるような授業を展開していきたい。</p> <p>今回の研究に対して、管理職からは、ICT機器の活用が「目的」ではなく学習目標達成の「手段」と位置付けることが重要であり、活用すること自体に固執せず、思考の深化や対話、振り返りと組み合わせることで、生徒がより意欲的に学べる授業の構築を期待すると講評をいただいた。</p> |   |  |         |

### III 報告

| 前向きに取り組める授業             |                            | 前向きに取り組めない授業        |                                  |
|-------------------------|----------------------------|---------------------|----------------------------------|
| 生徒と生徒                   | グループワークなどコミュニケーションをとりながら進む | 霧囲気が暗くまじめすぎる        | 先生と生徒との距離感が遠い                    |
|                         | 友達と相談できる                   |                     | シーンとしている                         |
|                         | 話し合いが多い                    |                     | 生徒間の意見共有がない or 少ない               |
| 生徒と教員                   | 一人で考える時間が多すぎない             | 霧囲気                 | 相談すると怒られる                        |
|                         | 活動することが多い                  |                     | 答えないと怒られる                        |
|                         | ペアで基本の確認を繰り返す              |                     | 間違えたら責められる                       |
| 教員の説明                   | 先生と生徒との会話がある               | 教員の説明               | 先生が一方的に話す                        |
|                         | 生徒が気軽に返答できる                |                     | 先生が怒ってばかり                        |
|                         | 発言しやすい霧囲気がある               |                     | 発言しにくい                           |
|                         | 発言が活発                      |                     | 生徒が委縮するような霧囲気、語調が強く感じる言い方        |
|                         | 当たる人数が多い                   |                     | ノートに写すだけで話し合い等がない                |
|                         | 自主的に発表しやすい                 |                     | 当てられると正解を言わなければいけないと思いプレッシャーを感じる |
|                         | 基礎の部分を細かく教えてくれる            |                     | 生徒の活動が全くない                       |
|                         | 授業内容だけではなく雑学を知れる           |                     | 無駄話が注意されず集中できない                  |
|                         | 解説を聞いたうえでなるほどと思える          |                     | 生徒に対しての当たりが強い                    |
|                         | 図や絵を用いて考える                 |                     | 常に一言余計（釘のさしすぎ）でやる気がそがれる授業        |
| 授業構成                    | 要点がまとまっている                 | 授業構成                | 何をを使って解けばいいかが不明瞭                 |
|                         | 関連する知識とも繋げてくれる             |                     | 説明が長すぎる                          |
|                         | 基本を完璧にしてから応用についての説明        |                     | 先生が一人で黙々と書き続ける                   |
|                         | 要点のまとめ方がうまい                |                     | 例題の説明がない                         |
|                         | 理解するまで教えてくれる               |                     | プリントを埋めるだけで補足の説明などがない            |
|                         | 板書がシンプルで分かりやすい             |                     | たんたんと進むだけ                        |
|                         | 考え方を複数示してくれる               |                     | 考える間もなく結論だけ教えられる                 |
|                         | 新発見がある                     |                     | 教科書を読んでいるだけ                      |
|                         | 身近な例を示してくれる                |                     | 先生の話だけを聴く                        |
|                         | その他                        |                     | 聞く時間、話し合う時間、ノートをとる時間のバランスがいい     |
| ゆっくりと進む                 |                            | 要点をノートにまとめていく       |                                  |
| 問題を自力で解く時間がある           |                            | 話を聞いて問題を解くだけ        |                                  |
| 単元に対して段取りが決まっている        |                            | 無駄な時間がある            |                                  |
| 理解しながら授業が進む             |                            | 授業と関係ない話を長く語る       |                                  |
| 話を聴く時間とノートをとる時間が分けられている |                            | 先生ばかり話して生徒が考える時間がない |                                  |
| テンポがいい                  |                            | 進みが速く、ノートなどに書ききれない  |                                  |
| 何をすべきかが明確               |                            | ビデオばかり見る            |                                  |
| 速すぎない                   |                            | 生徒の活動が追いつかない        |                                  |
| ゲーム要素がある（英単語早押し）        |                            | ネットやAIに頼って他力本願      |                                  |
| その他                     | 雑談がある                      | その他                 | プリントの穴埋めだけのようなメリハリがない            |
|                         | たまにランダムで当たる                |                     | 興味が湧かない                          |
|                         | 授業の中で理解を深められる              |                     | 難しい問題が出てきたとき                     |
|                         | 学んだことが生活に役立つ               |                     | 内容がわからなくてついていけない                 |
|                         | 最初にわからない問題が最後にはわかる         |                     | 声が聞き取りにくい                        |
| 粘り強く教えてくれる              | 生徒ができていないことを笑って煽ってくる       |                     |                                  |

| ICT 機器の効果的な活用                                  |   | ICT 機器の効果的でない活用 |  |
|--|---|-----------------|--|
| 生徒が活用  | 分からない知識をすぐに調べられる                                  | 生徒が活用           | モノグサ（学習支援アプリ）などの繰り返し問題を解くもの                                  |
|  | タブレットを用いたまとめ学習                                    |                 | 調べ学習   |
|  | モノグサ（学習支援アプリ）を用いた繰り返し学習                           |                 | 小テスト等でタブレットを使う   |
| 教員が活用  | 総探等の調べ学習  | 教員が活用           | ゲームをしたり関係ない動画を見ている人がいるとき                                     |
|  | スライドにまとめて発表に使う                                    |                 | ノートではなく Google ドキュメントを活用した授業では 1 時間生徒がタブレットを使用するため、不正利用が増えた  |
|  | グループでのレポート作成                                      |                 | タブレットで答えを入力するだけの授業   |
|  | 作文等を打ち込む（作業効率アップ）                                 |                 | パワーポイントを使ってプリントの穴埋めをするだけ                                     |
|  | 生徒の答案を投影する（板書をしなくてよく効率的、誰の答えか分からないため間違えても恥ずかしくない） |                 | 黒板等を一切使わずにすべてパワーポイントで進む授業（文章量が多い場合ノートにまとめきれない、写しているとき話を聞けない） |
|  | 関連動画で知識を深めてくれる                                    |                 | 文字が小さい、明るい色などは見えにくい  |
|  | 動画やイラスト付きだと印象に残りやすい                               |                 | 黒板やノートを使った方が手取り早いとき  |
|  | 生徒の意見を共有する  |                 | スクリーンに映されたものを説明するだけ  |
|  | 要点をまとめたスライド                                       |                 | 板書してほしいところをスクリーンに映す  |
|  | カメラで先生の手元を表示する                                    |                 | 強調したいものが分からないスライド等   |
| 先生が問題を解くところを大きく表示する                            | 文字だけのパワーポイント                                      |                 |  |
| 国語等では文章を先生が板書すると時間がかかったり見えなかったりするためプロジェクターは効果的 | 内容がシンプルすぎて教科書の内容が省略されすぎている                        |                 |  |
| 英単語早押しクイズ                                      | スライド（テストのときに困った）                                  |                 |  |
| 文章の要約をプロジェクターで表示する                             | 教科書のほぼ切り抜きスライド（内容がまとまってないし、写すのに時間がかかり内容が頭に入らない）   |                 |  |
|  | 大事なことが強調されていないスライド                                |                 |  |
|  | 先生が Youtube をずっと流し続ける授業                           |                 |  |
|  | 重要な部分が口頭で説明されないときがある                              |                 |  |
|  | スライドの授業は効率的だけど頭に残りにくい                             |                 |  |
|  | スライドの進みが速すぎるとき                                    |                 |  |
|  | デジタル教科書の常用  |                 |  |

# 中堅教諭等資質向上研修講座(高等学校)を受講して

教諭 千葉 知美

## 1 校外研修について

### ①センター研修

| 期   | 日時                  | 研修内容   |
|-----|---------------------|--|
| I   | 6月24日(火)<br>(オンライン) | 【開講式】中堅教諭等への期待<br>○教育公務員の服務<br>○学校の危機管理<br>○質の高い授業研究を継続的に進めていくための方略                              |
| II  | 8月5日(火)             | ○高い専門性に基づく教科指導の充実と推進   |
| III | 9月18日(木)            | ○人間としての在り方生き方を考える道德教育<br>○いじめの理解と対応<br>○気になる生徒の事例を通じた具体的対応の理解                                    |
| IV  | 10月21日(火)           | ○学校全体で取り組む情報教育<br>○キャリア教育の推進<br>○学校組織の一員として一キャリアデザイナー<br>○これからの学校教育<br>【閉講式】中堅教諭等資質向上研修を終えるに当たって |

本県の教職キャリア指標では、採用11年目の教員は「第3ステージ(実践的指導力充実期)」に位置付けられ、組織マネジメント能力を身に付け、学校経営に参画する役割を担う立場にあると定義されている。恥ずかしながら、当該研修を受講するまで、このことについて十分な当事者意識を持てていなかったことを反省している。そこで、中堅教諭に求められる「組織マネジメント力」とは何かについて、自分なりの答えを見いだしたいと考え、本研修に臨んだ。

I期では、主任管理主事(兼)サブリーダーの柴田果織先生より「教育公務員の服務」についてご講義をいただいた。懲戒処分が及ぼす影響について、多角的かつ具体的に示していただいたことで、教育公務員としての職責の重さを再認識することができた。また、研修の意義に関するお話の中で、「教員の仕事は、能力や人格が生徒の成長に反映される」という言葉が特に印象に残った。教職における研修は、授業力や事務処理能力といった技能の向上に目が向きがちであるが、それと同時に、自身の資質や人間性を磨くことの重要性についても、今後は意識していきたいと考えた。

II期では、同教科の研修者同士で互いの授業を視聴し、協議を行った。自分の授業を客観的に観ることで、これまで気付くことのできなかった話し方や表情の癖を確認でき、立ち居振る舞いにおける改善点を把握することができた。今回の研修に限らず、今後も定期的に自身の授業を映像に残し、継続的な振り返りを行っていきたい。本研修では、原価計算の「標準原価計算」を題材に授業を実践した。協議では「説明を簡潔にし、生徒の活動時間を確保すること」や、「1時間で扱う内容を精選すること」といった助言をいただいた。改めて、この授業を通して生徒に何を伝えたいのかを自問しながら、1時間1時間を大切に授業づくりを心がけていきたい。

III期では、指導主事の鎌田勉先生より「人間としての在り方生き方を考える道德教育」について講義をしていただいた。今日の道德教育では、VUCAの時代の中で、その時々々の納得解を導き出すための資質・能力を育成することが求められている。そのためには、生徒が自ら考え、議論する場面を意識的に設定することが重要であるとの示唆を得た。高等学校では道德の授業が設けられていないため、ホームルームや学校行事、特別活動などの機会を通して、組織的に取り組んでいく必要があると考えた。

IV期では、「学校組織の一員として一キャリアデザイナー」の講義を通して、学校におけるリーダーシップについて学んだ。学校現場に求められるリーダーシップには、「①戦略的リーダーシップ(仕掛ける)」「②教育的リーダーシップ(引き出す)」「③応答的リーダーシップ(語

る・応える)」「④文化的リーダーシップ(変える)」の四つがあることを理解した。これらの考え方は学校運営に参画する場面だけではなく、学級担任としての在り方にも生かされると考えた。特に「②教育的リーダーシップ」を大切に、生徒一人一人の能力や適性を引き出し、より良い将来の形成に向けて影響を与えられる存在になっていきたい。そのためにも、本研修で学んだことを忘れず、今後も絶えず自己研鑽に励んでいきたい。

#### ② 選択研修

文部科学省の調査により、いじめや暴力行為の認知件数が過去最多となった今、生徒指導の在り方そのものが問い直されていると感じている。特に、問題行動を起こした生徒への特別指導について、従来の「反省を求める指導」だけでは十分ではないのではないかとこの思いから、更生保護の考え方を学ぶため、更生保護法人 秋田至仁会で3日間の研修を行った。研修を通して、問題行動の背景には、生育環境や人とのつながりの希薄さなど、本人も言葉にできない「生きづらさ」があることを知った。誰にも気づかれず、誰にも頼れなかった思いが積み重なった末に起こる行動であると知り、これまでの自分の生徒指導の方法を深く省みた。

特に心に残ったのは、職員の方々が被保護者に対して、責めるのではなく、静かに寄り添い、信頼関係を築こうとする姿である。「信頼関係を築くためには、相手に関心を持つことが大切」「保護に必要なことは、ノウハウや巧みな言葉ではなく、心である」という言葉に、教育の原点を見た思いがした。成果がすぐに見えなくとも、人の人生に寄り添う仕事には意味がある。目の前の生徒の小さな声に耳を澄まし、その未来を信じて関わり続ける教員でありたいと、強く心に刻んだ。

#### ③ 授業研修

10月22日(水)に能代松陽高等学校の2年生を対象にマーケティングの授業を行った。相手校の教科担当の先生のご厚意で、入念に事前打ち合わせができたため、クラスの雰囲気や生徒の様子がよくわかり、あまり緊張せず授業に向かうことができた。しかし、県立学校のICTの状況を把握しておらず、準備に手こずり、余裕のない状態で授業を迎えてしまったことが反省点である。現在は市立学校に勤務しているが、いずれ、県立学校へ異動となる。そのため、県立学校の動きや状況などにも意識を向けておきたいと考えた。指導主事高階市太郎先生からは、全体指導と個別指導のバランスをとることや、生徒の意見共有の場面をルーティン化することで、メリハリのある授業展開になるとの助言をいただいた。8月5日のセンター研修でも、「説明が長い」との指摘があったため、今後の題材の切り取り方について注意していきたい。

## 2 校内研修について

校内研修では、多くの先生方から、教科指導や組織マネジメントに関するさまざまな講話をいただいた。高田屋校長からは「教育目標の達成と学校経営について」をテーマにお話をいただいた。社会環境が急速に変化する中で、学校も柔軟に変わり続ける必要があり、「未来志向」の考え方を持つことの重要性を学んだ。常に自分たちの常識を見直し、考えをアップデートしていきたい。櫻田副校長からは「教育法規について」をテーマにお話をいただいた。特に「教育法規は、困ったことがあった時に自らを助ける」という言葉が強く印象に残った。教育法規を拠りどころとして、今後の業務にあたっていきたい。小林教頭からは「学校の危機管理について」をテーマにお話をいただいた。危機管理においては、未然防止、想定イメージを持つこと、チームで動くこと、心身の充実といった観点が重要であると理解した。今後は、アンテナを高く張り、想像力を働かせながら先を見通して業務に取り組むことで、生徒の安全を守っていきたい。

## 3 これまでの10年を振り返って

1年間を通して、「本県の教育課題への対応」「マネジメント能力」「生徒指導力」「教科等指導力」に関してどのような変化があったか、「あきたキャリアアップシート」に基づき評価を行った。

中堅教諭に求められる「組織マネジメント力」について考え、研修に取り組んだ1年であった。今後は組織にぶら下がる教員になることなく、ミドルリーダーとしての自覚を持ち、学校運営の参画に積極的に取り組んでいきたい。

## 選択研修報告書

|   |                                   |    |      |
|---|-----------------------------------|----|------|
| 所属校   | 秋田市立秋田商業高等学校                      | 氏名 | 千葉知美 |
| 研修先   | 更生保護法人 秋田至仁会                      |    |      |
| 研修期間  | 令和7年7月31日(木)～令和7年8月4日(月)※土日を除く3日間 |    |      |
| <p><b>1 研修の概要</b></p> <p>7月31日(木) 10:00～ 更生保護制度の概要・秋田至仁会の現状<br/> 13:00～ 秋田至仁会における処遇<br/> 15:00～ 秋田至仁会の施設見学</p> <p>8月1日(金) 10:00～ 秋田至仁会における特別処遇(高齢・障がい)<br/> 13:00～ 薬物乱用防止プログラム及びグループミーティング、認知行動療法について</p> <p>4日(月) 10:00～ 創設者没後120周年墓前供養祭参加<br/> 13:00～ 秋田保護観察所見学及び保護観察官による講話<br/> 14:00～ 秋田更生保護サポートセンター見学および保護司による講話<br/> 15:00～ 研修のふりかえり</p> <p><b>2 研修の成果(今後への生かし方も含むこと)</b></p> <p>文部科学省「令和5年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」によれば、小・中・高等学校におけるいじめ・暴力行為の認知件数は、調査開始以来、過去最多を記録した。この結果は、教師が児童生徒を取り巻く環境や心情をこれまで以上に深く理解し、生徒指導や教育相談の在り方を根本から見直す必要があるということを示していると考えられる。こうした現状に対し、私たちが対応すべき課題は多岐にわたるが、私はその中でも「問題を起こした生徒への指導(特別指導)」についてより見識を深める必要があると感じている。生徒が問題行動に至る背景は複雑化しており、その心情を適切に理解するには、「更生保護」の考え方が、問題行動を起こした生徒の立ち直りのための指導に活かせることを考え、秋田至仁会での研修を希望した。</p> <p>更生保護とは、犯罪や非行をした人に対し、社会内において適切な処遇を行うことで再犯を防ぎ、安心・安全な地域社会を築くことを目的とした考え方である。私たちにあっては普段馴染みの薄い分野であるが、本研修を通して、更生保護に関わる方々の尽力が、私たちの安心・安全な生活に直結していることを実感した。更生保護を必要とする多くの人々は、生育環境の問題や頼る人がいないこと、社会生活上の困難といった「生きづらさ」を抱えている。福祉職員の方によれば、そうした人々は幼少期から「生きづらさ」を抱えながらも、誰にも気づかれず、誰にも相談できず、違和感や孤独感を募らせ、それが問題行動の引き金となる場合があるとのことであった。本来であれば、家庭における指導が最も望ましい形だと思いが、社会制度が複雑化する中で、教育現場に求められる役割はより大きくなっている。生徒に対して違和感を覚えた際には、知らぬふりをせず、組織として向き合い、トラブルの未然防止にとどまらず、生徒がより良い人生を歩むための「生きづらさ」解消に向けた指導・支援を行っていきたく強く感じた。</p> <p>3日間の研修で多くの学びを得たが、特に印象に残ったことは、職員の方々による入所者への処遇の姿勢である。薬物乱用防止プログラムの映像を拝見した際、被保護者に対して、柔和な雰囲気と懇切で誠意ある態度で内面に寄り添っている姿が印象的であった。被保護者は少なからず、すでに自分の過ちを認識し、後悔の念を抱いているため、高圧的な態度で反省を促すことは、かえって逆効果であるようだ。「このようにしなさい」といった指示よりも、日常の何気ない会話の中で、本人が自ら得た気づきの方が心に残りやすい。そのために、信頼関係を早期に築き、内面の言葉を引き出すことが重要であることがわかった。職員の方の「信頼関係を築くためには、相手に関心を持つことが大切」「保護に必要なことは、ノウハウや巧みな言葉ではなく、心である」という言葉が心に強く残った。特別指導においても、ただ反省を促すのではなく、生徒の内面の綻びに寄り添うアプローチをしていきたいと感じた。</p> <p>立ち直し支援の成果は、目に見える形で表れにくい。職員の方の「人の生き方を支える仕事においては、人からの評価を気にしてはいけない」という言葉を聞いたとき、ふと、教員1年目の頃、先輩教員から「(指導困難な生徒に対して)期待しない。でも、諦めてはいけない」と助言を得たことを思い出した。当時は若さ故、期待しないという言葉に教育の虚しさを感じたが、今思えば、それは「生徒が変わること」に期待しないのではなく、「結果が他者に伝わること」を期待しないという意味だったのではないかと気づいた。日々の業務の中で、つい周りの評価を期待し、結果が見えにくい仕事を軽視してしまいそう時がある。しかし、教員の行動の一つ一つが、生徒一人ひとりの豊かな未来につながっているということをお忘れず、目の前の生徒のために大切なことは何かを見極めながら、生徒と向き合っていきたい。</p> |                                   |    |      |

## 商業科(マーケティング)学習指導案

日 時：令和7年10月22日(水) 2校時  
 場 所：秋田県立能代松陽高等学校 2年D組教室  
 対象生徒：秋田県立能代松陽高等学校 2年D組  
 指導者：千葉 知美(秋田市立秋田商業高等学校)  
 使用教科書：『マーケティング』(実教出版株式会社)

### 1 単元名 第5章 製品政策 1節 製品政策の概要

#### 2 単元の目標

- (1) 製品政策について企業における事例と関連付けて理解する。(知識・技術に関する目標)
- (2) 製品政策の目的について考え、それを踏まえ、製品の特性や企業の状況に応じた製品政策の立案及び評価を行い、製品政策のねらいや改善点について見いだす。(思考力・判断力・表現力等に関する目標)
- (3) 製品政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、学習課題に主体的かつ協働的に取り組む。(学びに向かう力、人間性等に関する目標)

#### 3 単元と生徒

##### (1) 単元観

企業の実例や消費者の動向を踏まえながら、企業のマーケティング活動で行われている製品政策のプロセスを理解することや、考察や討論などの学習活動を通して、製品政策の意義や課題について考えを深めることを学習の目的としている。

##### (2) 生徒観

男子22名、女子13名、計35名のクラスである。授業態度は良好であり、積極的に学習活動に取り組む生徒が多い。しかし、自身の意見を主体的に表現できる生徒は一部であり、適切な表現を用いて考えをまとめることに苦手意識を抱える生徒がいる。そのため、彼らの長所である「前向きに学習に取り組む姿勢」を随所に認めることで生徒の学習意欲を高め、考えをまとめる学習活動のハードルを下げ、生徒の「思考力」「判断力」を涵養するための土台を作りたい。

##### (3) 指導観

「自身の考えを表現することが苦手」という生徒の課題にアプローチするため、「生徒にとって身近な実例を取り入れる」「生徒の取り組みを積極的に褒める」という2点を心がけ、生徒の気持ちを乗せる授業にしたいと考えている。授業中の生徒の活動を注視し、一人ひとりとのコミュニケーションを重視し指導を行っていきたい。

#### 4 単元の評価規準

| 知識・技術                            | 思考・判断・表現   | 主体的に学習に取り組む態度                                      |
|----------------------------------|--|--|
| 製品政策について企業における事例と関連付けて十分に理解している。 | 製品政策の目的について考え、製品の特性や企業の状況に応じた製品政策の立案・評価を行い、製品政策のねらいや改善点を見いだしている。 | 製品政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 |

## 5 本時の計画

### (1) 本時のねらい

製品政策の概要を理解し、企業が製品政策を行うことの意義を表現することができる。

### (2) 学習活動と評価

| 段階                | 学習活動  | 指導上の留意点   | 評価                                       |
|-------------------|---|---|--|
| 導入<br>5分          | ○自己紹介（アイスブレイク）  |   |  |
| 展<br>開<br>40<br>分 | ○本時の学習課題を確認する。  | ○教科書・スライド・ワークシートを用いて授業を展開する。  |  |
|                   | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>本時の学習課題</b><br/>                     製品政策の概要を理解し、企業が製品政策を行うことの意義を表現することができる。                 </div> |   |  |
|                   | 【1】「製品政策とは何か」を理解する。<br>（一斉）<br><br>【2】「製品政策を行ううえで企業が留意すべき点は何か」を理解する。<br>（一斉／個別→ペア）<br>①便益の束<br>②マーケティング・マイオピアを避ける<br>③製品分類を把握する                             | ○双方向型の授業展開を意識し、生徒が意見を出しやすい雰囲気作りを行う。<br>○身近な店舗の製品政策の事例と関連付けて理解を深められるようにする。<br><br>○便益を考える場面では、対象製品の使用場面をイメージさせることで、意見をスムーズに出せるようにする。 |  |
|                   | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>主発問</b><br/>                     製品政策の留意点①～③のうち、あなたが一番大切だと思う考え方は何ですか。                 </div>        |   |  |
|                   | 【3】上記の問いについて自身の考えをまとめる。（個別）<br>→よく記述できている生徒が発表を行う   | ○「努力を要する状況」である生徒には、声かけ等で支援を行う。<br>○よく表現できている生徒を認め、発表を促す<br>○書画カメラを用いて良い点を解説し、多角的な思考を感じさせる。  | 自身の考えを明瞭に表現できている（ワークシート・発表）<br>→思考・判断・表現 |
| 整理<br>5分          | ○本時のまとめと振り返りを行う。  | ○自身の理解度を正直に記入させる。<br>○ワークシートを回収し、生徒の理解度を把握し、次回の授業実践に生かす。  |  |

## 6 協議の視点

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実が図られていたか

## 特定課題研究レポート

|       |   |    |  |
|-------|---|----|--|
| 所属校   | 秋田市立秋田商業高等学校  | 氏名 | 千葉 知美  |
| 研究内容  | A：本県の教育課題に関する研究<br>C：生徒指導に関する研究<br>E：道徳教育に関する研究<br>G：総合的な学習の時間に関する研究<br>I：その他 |    | B：マネジメントに関する研究<br>①：教科指導に関する研究<br>F：特別活動に関する研究<br>H：特別支援教育に関する研究<br>(選択したものに○を付けること) |
| 研究テーマ | 生徒の意見を反映した授業改善と学習意欲の変化との関連性について   |    |  |

### 1 研究の概要

本校では授業力向上の取り組みの一環として、年2回の授業アンケートを実施している。今まで、集計後に数値や記述意見をもとに振り返りは行っていたものの、従来の指導法を優先するあまり、抜本的な授業改善には踏み込めずにいた。

しかし、中堅教諭等資質向上研修を受講し、教科指導を真に充実させるためには、生徒の視点に立って授業を捉え直し、失敗を恐れずに創意工夫を重ねていくことが不可欠であると再認識した。6月に実施された成田雅樹先生による講義では、よい授業の5つの定義として、「資質・能力の育成」「子どもが主体的に学ぶ」「子どもが学ぶ意欲を高める」「見方・考え方が育つ」「常に再構築の余地がある学び」が挙げられ、生徒の主体性や学習意欲を高める工夫が授業改善の最優先課題であり、そのためには授業の主役である生徒の声に耳を傾けなければいけないと確信した。

研究にあたっては、管理職にテーマの妥当性をご確認いただいたのち、生徒の変化をどのように比較するかについての検証方法や、授業展開を考える際に意識すべき点などを重点的に教えていただいた。指導していただいたことをもとにして、アンケートから生徒の実態と意見を取り入れた授業実践を通し、生徒の意識がいかに変容するかを検証することにした。

|      |                    |
|------|--------------------|
| 実施科目 | 商業科「商品開発と流通」       |
| 実施期間 | 令和7年7月1日～令和8年1月30日 |
| 対象生徒 | 2年流通経済コース 71名      |

★7月に行った授業アンケートの結果(回答者66名 令和7年7月1日実施)

| 質問内容  | 平均   | 全校平均 |
|---|------|------|
| ①授業で学ぶことに興味や関心をもち、粘り強く学習に取り組んでいる。               | 3.49 | 3.68 |
| ②授業中、自分で考え表現(書く・話す)する学習活動を積極的に行っている。            | 3.40 | 3.68 |
| ③授業中、居眠りや私語などをせず集中して学習している。                     | 3.59 | 3.75 |
| ④提出物や宿題などがある場合は、きちんと取り組んでいる。                    | 3.74 | 3.83 |
| ⑤授業で学んだことをさらに発展させて、もっと深く学びたいと思う。                | 3.30 | 3.52 |
| ⑥自分の考えを広げたり深めたりするために、他の生徒と意見や考えを積極的に共有しようとしている。 | 3.64 | 3.58 |

※各質問に対して、4(そう思う)・3(だいたいそう思う)・2(あまりそう思わない)・1(思わない)の4段階で回答させ、平均点を出している。

〔自由意見に書かれた主な要望〕

- ・グループ学習をもっと取り入れてほしい。      ・用語を覚えるだけの授業はやめてほしい。
- ・視覚教材(動画など)を取り入れてほしい。      ・企業の実例と結び付けて教えてほしい。

### 【現状分析】

多くの項目で全校平均より数値が低く、学習に対して、苦手意識を持っている生徒が多いことが伺える。特に②(表現力)や①・⑤(向学心)の数値の低さが顕著であり、この課題にフォーカスした授業実践が求められることがわかった。しかし、書く・話すことへの苦手意識はある一方で、⑥のとおり、協働学習への抵抗はなく、自由意見からもグループ学習を求める声が多く上げられた。

他にも自由意見には、教科書の内容にとどまらず、視覚教材や企業の実例を取り入れることへの要望があげられた。このことは、⑤の項目の低さに繋がっていると考えられ、流通分野の学習が、自分たちの生活の何にどのように関わっているかがわからず、この科目を学ぶ意義が感じられていないことが原因であると考えられた。

このクラスの生徒の良さである「他者との協働性」を生かしつつ、自由意見にあげられた要望を取り入れながら、生徒の表現力や向学心を育むアプローチをしていくことにした。

## 2 成果と課題

### (1) 取り組みの一例

| 単元名        | 使用した教材                                 | 授業展開   |
|------------|--|--|
| 知的財産権の登録   | ・「それってパクリじゃないですか？」(日本テレビ)<br>・自作ワークシート | ・ドラマを視聴し、知的財産権に関わる重要用語と弁理士という職業の理解と企業における知的財産権の重要性について考える。<br>・パクリとオマージュの違いについて表現する。 |
| 4P政策       | ・ゲグルスプレッドシート(グループ学習)                   | ・大塚食品マッチ担当者の講演をもとに、マッチの4P政策について協働して考察する。   |
| STP        | ・「カンブリア宮殿」(テレビ東京)<br>・自作ワークシート         | ・カンブリア宮殿【異色のカフェ“ゴンチャ”全国拡大の舞台裏!】を視聴し、STPに関する用語の理解と、差別化の重要性について考える。                    |
| 環境分析       | ・よみうりワークシート<br>・新聞、雑誌の記事               | ・「オーバーツーリズム」「せいらブーム」「食品表示法」に関する記事を読み、社会課題や市場動向に関する自身の意見を表現する。                        |
| アイデアの創出・評価 | ・自作ワークシート                              | ・千葉商科大学主催「高校生サービス創造大賞」への出品を通し、アイデア出しの手法を理解する。  |

### (2) 結果

1月に行った授業アンケートの結果(回答者63名 令和8年1月30日実施)

| 質問内容  | 1月平均   | 7月平均 |
|---|--------|------|
| ①授業で学ぶことに興味や関心をもち、粘り強く学習に取り組んでいる。               | 3.73 ↑ | 3.49 |
| ②授業中、自分で考え表現(書く・話す)する学習活動を積極的に行っている。            | 3.56 ↑ | 3.40 |
| ③授業中、居眠りや私語などをせず集中して学習している。                     | 3.59 - | 3.59 |
| ④提出物や宿題などがある場合は、きちんと取り組んでいる。                    | 3.65 ↓ | 3.74 |
| ⑤授業で学んだことをさらに発展させて、もっと深く学びたいと思う。                | 3.40 ↑ | 3.30 |
| ⑥自分の考えを広げたり深めたりするために、他の生徒と意見や考えを積極的に共有しようとしている。 | 3.60 ↓ | 3.64 |

生徒の感想(「商品開発の授業を通して、どのような力が身に付いたと思いますか。」に対する回答一例)

- ・普段、購入し消費している商品がどのようにして私たちのもとに届いているかを知ることができた。店に行ったときにどのような工夫がされているか考えられるようになった。
- ・商品を開発する上での柔軟性、何を大切にすべきか、グループで意見を出し合いそれをブラッシュアップする能力などの、商品開発をする上での基礎的な能力を身につけることができた。
- ・考える力が身についたと思います。授業していく中で、個人・グループワークなどの時間が多く、考えて発言することができたと思いました。
- ・今まで身近な商品が出来るまでの過程や関わり、商品開発の大変さを知らなかったけど、商品開発の授業を通して、より開発の凄さや面白さがわかり、顧客や製造者などの考えをどちらも考えられる力が身についたと思う。
- ・自分たちが何気なく生活している中にたくさんの人の手があって経済が成り立っていると気づいた。物の重要性を考える力が身についたと思う。
- ・創造力や、人の話をよく聞く力、いろいろな視点から物事を見ることができるようになったこと。
- ・私は物事を深読みする力が身についたと思います。自分が普段使っている商品だったりテレビCMだったり、身近に商品開発で学んだ知識がたくさん見つかるので、「この商品は商品開発で学んだこんな手法を使って注目を集めているな」と考えることが多くなりました。
- ・テレビなどでのニュースが少し理解できるようになった。

※全て原文のまま

事後アンケートの結果より、①・⑤(向学心)及び②の(表現力)に関する項目において数値の向上が見られた。このことから、本研究のテーマである「生徒の意見を反映した授業改善」と「学習意欲の向上」との間には、密接な関連性があることが明らかになった。視覚教材や企業の実例を取り入れたことで、学習に取り組む際の心理的なハードルが下がり、学んでいる知識や考え方が、日常の行動や思考とどのように結びついているのかを、より明確に捉えられるようになったと考えられる。さらに「商品開発と流通」を自分事として考えられるようになったことで、「物事を多面的に考える力」や「思考力・分析力」が発揮され、生徒自身が表現力の向上を実感できたのではないかと推察される。一方で、④(自宅学習への取り組み)および⑥(協働的思考力)については、依然として課題が残った。学習のハードルを下げることや、質より量を重視したグループ学習に取り組むだけでは、生徒が学習の必要性を自覚する姿勢を十分に育成することが難しいと示唆された。単に楽しい授業を目指すのではなく、楽しさの中にも一定の緊張感を伴う授業作りが求められると感じた。本取り組みについては、本レポートの提出をもって完結するのではなく、今後も継続的に実践・検討を重ねていきたい。

## 実践的指導力発展研修講座を受講して

教諭 糸田 由香子

### 1 はじめに

この研修の目標は「豊富な経験を生かして積極的に学校経営に参画し、学校改善や若手教員の育成を推進する資質能力の向上を図る」である。秋田県教職キャリア指標の内容をあらためて意識する良い機会となった。

### 2 期 日 令和7年8月4日(月)

### 3 内 容

#### 〈開会行事・オリエンテーション〉挨拶

ベテラン教員の自覚・責任と学校マネジメント力について

秋田県総合教育センター

主幹(兼)チームリーダー

阿部 光 教 先生

#### 〈講義・演習〉実践的指導力発展講座①ーキャリアデザインー

秋田県教職キャリア指標における第4ステージ(組織運営力)

秋田県総合教育センター

主任指導主事

伊藤 文 子 先生

#### 〈講義・演習〉実践的指導力発展講座②ーコーチングの基礎ー

秋田県教職キャリア指標における第4ステージ(人材育成力)

秋田県総合教育センター

スーパーアドバイザー

安田 和 人 先生

#### 〈講義・演習〉学校組織の一員として

秋田県教職キャリア指標における第4ステージ(組織運営力)

秋田県総合教育センター

スーパーアドバイザー

湯澤 寛 先生

### 4 まとめ・感想

以前にコーチングを個人的に継続して学ぶ機会があった。今回の研修では、その経験を土台にしながらコーチングに関する最新の情報を得られたことが大きな収穫である。特に、生徒の意欲を引き出すような声のかけ方をたくさん学べて有意義な時間となった。

受講者は高等学校の教員が多かったが、グループワークで他校種の先生方と交流したことは貴重な機会である。指導の工夫や授業改善について、いろいろヒントをいただくことができた。

「人を育てる」のは、とても難しいが大切なことである。そこで、まずは自分自身が、生徒や後輩の気持ちに寄り添いながら接して身近な良い手本になりたいと思う。

今回の研修で得た知識や技術をこれからの指導に活用していきたい。



## 高等学校新任学年主任研修講座を受講して

教諭 児玉睦子

### 1 はじめに

この研修の目標は、学年経営に関する理論を学び、実践的な指導力を高めることである。研修を通じて、日々の学年運営に生かせる新たな視点を得ることができた。

### 2 期 日 第Ⅰ期：令和7年5月16日(金) 第Ⅱ期：令和7年6月27日(金)

### 3 内 容

#### 第Ⅰ期 (1)〈講話〉「望まれる学年主任像と学年主任の役割」

秋田県総合教育センター スーパーアドバイザー 湯澤 寛 先生

#### (2)〈講義・演習〉「生徒指導における学年主任の役割」

秋田県総合教育センター 指導主事 高橋 真理奈 先生

#### (3)〈講話〉「思春期の揺れと成長と共に歩む」

秋田赤十字病院心療センター 臨床心理士 丸山 真理子 先生

#### 第Ⅱ期 (1)〈講義・演習・協議〉「学年経営と組織マネジメントの基礎」

秋田県総合教育センター 指導主事 八柳 英子 先生

秋田県総合教育センター 指導主事 木村 ふさ子 先生

#### (2)〈公開講演〉「特別活動を要としたキャリア教育の推進」

文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 長田 徹 氏

#### (3)〈講義・協議〉「学年経営の実際と運営」

秋田県総合教育センター 指導主事 八柳 英子 先生

秋田県総合教育センター 指導主事 木村 ふさ子 先生

### 4 成果と感想

学年経営におけるチームワークの定義について改めて考える良い機会となった。生徒も職員も「認められれば成長する」ことを肝に銘じ、一人一人の自尊心を大切に内在する能力を引き出す学年経営を心がけたいと思う。そして、学年の方針を「見える化」し、組織で対応することを徹底させたい。担任や副担任はストレスを抱える立場であるため、学年部において対話を基盤とした助け合う文化を醸成することが重要である。また、学年の強みと弱みを明確にすることにより、マネジメントは円滑に進む。生徒間の高い協働性や行事への主体的な姿勢といった1学年の強みを、今後どのように活用するかが課題である。最後に、長田氏が述べた「小・中とつながってきた生徒の背景を理解することで、高校での指導が深まる」というキャリア・パスポートの視点は、非常に示唆的であった。一過性の指導ではなく、生徒理解の在り方を学年部で共有し、継続的に取り組む体制を構築していきたいと思う。

# 高等学校新任学年主任研修講座を受講して

教諭 高橋伸友

## 1 はじめに

本講座の研修目標は、「学年経営に関する理論の在り方についての研修を通して、実践的な指導力を高める」ことである。学年経営の在り方について、深く考えることができるいい機会となった。

2 期 日 1回目 令和7年5月16日(金)

2回目 令和7年6月27日(金)

## 3 内 容

### 1回目

〈講 話〉 望まれる学年主任像と学年主任の役割

秋田県総合教育センター 指導主事 高橋 真理奈 先生

〈講義・演習〉 生徒指導における学年主任像と学年主任の役割

秋田県総合教育センター スーパーアドバイザー 湯澤 寛 先生

〈講 話〉 思春期の揺れと成長を共に歩む

秋田赤十字病院心療センター

臨床心理士 丸山 真理子 先生

### 2回目

〈講義演習協議〉 学年経営と組織マネジメントの基礎

秋田県総合教育センター 指導主事 八柳 英子 先生

秋田県総合教育センター 指導主事 木村 ふさ子 先生

〈公開講演〉 特別活動を要としたキャリア教育の推進

文科省初等中等教育局教育課程課

教科調査官 長田 徹 先生

〈講義・協議〉 学年経営の実際と運営

秋田県総合教育センター 指導主事 八柳 英子 先生

秋田県総合教育センター 指導主事 木村 ふさ子 先生

## 4 まとめ・感想

学年主任の仕事について考えると、その責任の重さとやりがいの大きさに改めて気づかされる。学年全体を見渡し、先生方や生徒たちが安心して過ごせるように環境を整える役割、行事の計画や学年部会の運営など、日々の業務は多岐にわたる。特に、生徒指導では一人ひとりの背景や気持ちに寄り添いながら、全体の秩序を保つバランス感覚が求められる。私が特に大切だと感じたのは、情報の共有とチームワークの促進だ。学年の先生たちが同じ方向を向いて協力し合えるようにするには、信頼関係と丁寧なコミュニケーションが不可欠だと思う。

## 高等学校新任生徒指導主事研修講座を受講して

教諭 石塚 委

### 1 はじめに

本講座の研修目標は、「生徒指導主事として必要な基本的事項と、各学校の生徒指導の状態に応じた具体的な対応の在り方について理解を深める」ことである。生徒指導主事の役割や、生徒・保護者に対する生徒指導上の対応方法などを考えるいい機会となった。

### 2 期日・内容

#### 講座Ⅰ 5月20日(火)

〈講 義〉 生徒指導主事の役割

秋田県総合教育センター 指導主事 高橋 真理奈 先生

〈講義・演習〉 危機管理、保護者対応、児童生徒支援からいじめ問題を考える

神田外国語大学 客員教授 嶋崎 政 男 先生

#### 講座Ⅱ 10月20日(月)

〈講義・演習〉 事例を通じた生徒理解と対応

秋田県総合教育センター 指導主事 高橋 真理奈 先生

秋田県総合教育センター 指導主事 進藤 拓 歩 先生

〈講義・演習〉 災害や事件・事故発生時における心のケア

東北医科薬科大学 病院准教授 福地 成 先生

### 3 まとめ・感想

本研修を通して、生徒指導の方法やいじめ・不登校の定義について理解を深めるとともに、学校全体がチームとして組織的に取り組むことの重要性を再認識した。特に、ナレッジマネジメントの視点に立ったリスクマネジメントの必要性や、チーム学校としての初期対応の大切さ、保護者との円滑な連携が問題の根本把握につながることを学んだ。また、複雑な課題を抱える生徒を支援するためには、関係する教職員がそれぞれの専門性や視点を生かし、一体となって関わるのが不可欠であり、その基盤としてアセスメントが重要であることを理解した。今回の研修は、生徒や保護者への向き合い方を改めて見直す貴重な機会となった。

# 高等学校講師等研修講座Aを受講して

臨時講師 伊藤 智博

## 1 はじめに

本講座の研修目標は、「教員としての心構えを身に付け、県内の公立学校に勤務する講師として必要な資質能力の向上を図る」ことである。公立学校で勤務する教育者としての基礎を学ぶことができるいい機会となった。

## 2 期 日

令和7年4月25日(金)

## 3 内 容

### <講 義> 教育公務員の服務

秋田県教育庁高校教育課 管 理 主 事 鈴 木 真由美 先生

### <講義・演習> 学校組織の一員として—組織人の基本—

秋田県総合教育センター 主任指導主事 森 川 剛 先生

### <講義・演習> 授業づくりについて

秋田県総合教育センター 指 導 主 事 田 口 峰 子 先生

### <講義・演習> 人間関係づくりについて

秋田県総合教育センター 指 導 主 事 高 橋 真理奈 先生

## 4 まとめ・感想

本研修を通して、教育公務員としての服務、学校組織の一員としての基本、人間関係づくりなどの公立学校で勤務するうえでの基礎知識をしっかりと学ぶことができた。中でも、授業づくりの講義は、今年度より公立学校で勤務する私にとって大変参考となる内容であった。基本となる授業の形を理解し、そしてどのように授業をつくり展開していくのかを講義、演習を通して学ぶことができた。授業経験の乏しい私にとっては日々の授業を展開していくことに不安を感じる部分もあったが、本研修でしっかりと学ぶことができ多少ではあるが不安を解消することができた。今後は、生徒たちが「問い」を発する機会が増える授業をつくれるように自己研鑽を重ね、自らも学ぶ姿勢を忘れずに勤務していきたい。

# 「国語科における『読む力』を育む指導の工夫」を受講して

教諭 糸田由香子

## 1 はじめに

この研修の目標は「国語科の『読むこと』の領域において児童生徒の『読む力』を高めるための実践的な研修を通して、指導力の向上を図る」である。他校種の先生方との交流も含め、国語科の学びを深める良い機会となった。

## 2 期 日 令和7年7月4日(金)

## 3 内 容

### 〈講義・演習〉「読む力」を育む指導の工夫①

言語の能力を育てる国語の授業

－「言葉による見方・考え方」や新しい学力観を意識しながら－

秋田大学 名誉教授

東京未来大学 特任教授 阿部 昇 先生

### 〈講義・演習〉「読む力」を育む指導の工夫②

教科書教材を利用した演習

－「読むこと」に関する文学的文章と説明的文章のそれぞれ三つの観点－

秋田大学 名誉教授

東京未来大学 特任教授 阿部 昇 先生

## 4 まとめ・感想

他校種の先生方との交流は有益だった。国語科の指導において小学校から高等学校までの連続性を意識したり、特別支援学校での細やかな関わりを知ったりする機会は大変貴重である。

そして、グループワークを通して気づきも数多くあった。相手に対して思いやりを持ち、言い方に気を配ることの重要性を再確認したのもその一つである。授業の中で生徒たちのグループワークを観察していると、思いを上手に言語化できず、日常の人間関係に影響する場面も見られる。今後は、生徒が思いを言語化するタイミングで、円滑な人間関係に結びつくように声をかけたい。

以前にも同じ講座を受講したことがある。前回は今回も、学習の土台となる「読む力」を育む指導について、最新の情報を得ることができて有意義な時間となった。研修で得た知識や技術をこれからの指導に活用したい。

# 「JTE English Workshop(中学校、高等学校等)」を受講して

教諭 高崎 雅 恵

## 1 はじめに

本講座の研修目標は「英語によるやり取り等の体験を通して、英語の授業を担当する教員の英語運用能力の向上を図る」ことである。英語の運用能力を高める良い機会となった。

## 2 期 日 令和7年7月4日(金)

## 3 内 容

### 〈演習〉 話すこと[やり取り]体験

秋田県総合教育センター 指導主事 菅原 英明 先生

秋田県総合教育センター A L T スティーブン・フィッシャー 先生

### 〈演習〉 ディベート体験

秋田県立平成高等学校 教諭 大塚 繁太郎 先生

秋田県総合教育センター 指導主事 菅原 英明 先生

秋田県総合教育センター A L T スティーブン・フィッシャー 先生

## 4 まとめ・感想

ClassDojoというアプリを使い、Conundrum(正解のない難問)について考え、答えることの楽しさと難しさを感じることができた。どんな答えであっても間違いではないという難問を考えることによってより深い学びになるのではないかと感じた。

また、ディベート体験では、即興の難しさを実感した。相手の意見を聞き取って問題点を的確に指摘することを時間内に行うことはハードだった。しかし、4技能を活用するトレーニングとしては効果的だと感じた。

# 「生成AIやデジタルツールを活用した授業づくり」を受講して

教諭 佐々木 一 秀

**研修の目的** 生成AIや各種デジタルツールの基本的な利用方法について理解を深め、授業づくりに活かすICT活用力の向上を図る。

**期 日** 令和7年9月4日(木)  
**場 所** 秋田県総合教育センター

## 【日程と内容】

|      |                                 |             |            |            |
|------|---------------------------------|-------------|------------|------------|
| 講 義  | 生成AIについて                        | 秋田県立秋田南高等学校 | 教諭(兼)教育専門監 | 小 西 一 幸 先生 |
| 講 義  | 生成AIやデジタルツールを利用した授業づくり          | 秋田県立秋田南高等学校 | 教諭(兼)教育専門監 | 小 西 一 幸 先生 |
| 公開講演 | 1人1台端末環境に求められる情報活用能力としての情報モラル教育 | 静岡大学 教育学部   | 准 教 授      | 塩 田 真 吾 先生 |

## ○生成AIの特性と教育における人間の役割

生成AIの特性を理解し、教育現場でどう活用していくかについて学んだ。生成AIは、情報収集やアイデアの創出、さらにはプログラムコードの作成といった分野で卓越した能力を発揮する。その能力は「超優秀な新人部下」に喩えられ、私たちの業務を強かにサポートする可能性を秘めている。

しかし、AIには「指示がなければ動けない」という決定的な弱点が存在する。AIは自ら課題を発見したり、目的を設定したりすることはできない。したがって、教育活動において最も重要になるのは、私たち人間による「問題設定能力」である。どのような指導案が必要か、どんな教材が効果的かを考え、AIに的確な指示を与えるのは人間の役割となる。

また、AIが生成した内容が意図通りか、教育的に適切かを判断する力、そして個人情報の取り扱いといった倫理的な配慮も人間に委ねられている。AIを使いこなすとは、単に操作するだけでなく、最終的な責任を人間が担う「ファストチェック」が必要であることを意味する。

## ○生成AIを活用した授業づくりの実践

具体的なツールを用いて授業づくりを体験した。Google Geminiの活用により、従来数時間を要していた指導案がわずか15分程度で作成できるなど、劇的な業務効率化が実証された。これにより創出された時間を、より本質的な生徒との関わりや教材研究に充てることが可能となる。

特に注目すべきは、新機能「Canvas」を用いたインタラクティブ教材の作成である。例えば、「三角比を視覚的に理解させたい」「2進数の仕組みを体験させたい」といった簡単な指示(プロンプト)を入力するだけで、専門的な知識がなくとも生徒が直感的に操作できるデジタル教材を5分から30分程度で作成できた。これらは自作では多大な労力がかかるものであり、まさに「かゆいところに手が届く」教材開発が手軽に実現できた。

さらに、「NotebookLM」というツールでは、学習指導要領などの特定の資料をAIの唯一の情報源として設定できる。これにより、AIが参照元不明の情報を生成する「ハルシネーション」のリスクを抑え、根拠の明確な回答を得ることが可能になる。これは、信頼性が求められる教育現場において極めて有効な活用法であった。

本研修を通して、生成AIは教員の業務負担を軽減し、教育の質を向上させる強力なパートナーとなり得ることが確認できた。今後、AIの進化に対応し、その可能性を最大限に引き出すための実践を継続していく必要がある。

## ○【公開講演】情報モラル教育のアップデートと実践

この講演では、単に「気をつけなさい」と注意するだけの従来の情報モラル教育から脱却し、子供たちが「自分ごと」として捉えられるような新しい指導方法や、家庭での関わり方が提案された。

### 1. 教育工学的なアプローチ(人はミスをする前提)

「気をつけなさい」と言ってもミスはなくなる。工学(安全工学)の視点では、「人はミスをするもの」という前提に立ち、ミスをして危険にならない仕組み(フールプルーフ)や、どうしても気をつけてしまう仕掛けを考えることが重要である。

### 2. 自覚を促す指導法(「自分は大丈夫」と思わせない)

子供たちは知識としては「やってはいけないこと」を知っているが、「自分は大丈夫」と思いがちである。これを打破するための手法を紹介された。

#### ・カード分類法(価値観のズレを知る)

「何をされたら嫌か」は人によって異なる(既読スルーが嫌な人もいれば、スタンプだけが嫌な人もいる)。「自分がされて嫌なことは相手にもしない」だけでは不十分で、「自分が嫌じゃなくても、相手は嫌かもしれない」という想像力が必要である。

#### ・場面強制想像法(いつならやってしまうか?)

「絶対にしない」ではなく、「どんなシチュエーションなら自分もやってしまうか?」を考えさせる。

### 3. リスクのグラデーション(「リスクのものさし」)

トラブルのリスクを「安全か危険か(0か100か)」の二元論ではなく、レベル分けして考えさせる。身体の痛みと同様に、心の痛みや社会的リスクも「レベル1~4」のように数値化して共通言語(ものさし)にする。これにより、家庭や学校で「それはレベル3の危険だよ」といった具体的な対話が可能になる。

### 4. ルール作りのポイント

いきなり「21時まで」といった具体的なルールを決めるのではなく、その前段階が重要である。

理想の共有:なぜそのルールが必要なのか(例:自制心を身につけてほしいから)という願いを伝える。

言葉の定義(ズレ)の確認:「大切に使う」という言葉一つでも、親と子で認識がズレている。ここを話し合うことが重要である。

### 5. 使いすぎ指導と「余暇(よか)」の充実

「使いすぎ」を単に時間の長さだけで判断せず、生活に支障が出ているかで判断する。

タイムマネジメント:作業にかかる時間を「予想」させ、実際にかかった時間との「誤差」を埋めるトレーニングが有効である。

余暇の充実:余暇の過ごし方がスマホ一択になっていることが問題である。AI時代において、仕事が減り余暇が増える可能性がある。スマホ以外の「楽しみ」や「気晴らし」の選択肢を大人と一緒に探してあげることが、結果として使いすぎ対策になる。

## ○まとめ

これからの情報モラル教育は、子供を一方向的に管理・禁止するのではなく、子供自身がリスクを見積もり、時間を管理し、人生を楽しむためのスキル(情報活用能力)として育てていく視点が必要だ。また、学校の授業だけでなく、日常のちょっとした場面や家庭での対話に取り入れていくことが推奨されていくだろう。

# 編集後記

ICTの効果的活用を考え、授業での利用も含め、各場面での利用が以前よりも増えてきました。難しく感じることはありますが、今後も積極的に活用することで、次年度以降に活かせると考えています。

山崎 翼

専門科目はもちろん様々な場面でのICTの活用を目の当たりにし日々の研修、研鑽の必要性を痛感した一年でした。今年度の経験を活かし積極的に活用できるよう支援できたらと考えております。ご多忙の中教えて下さった方々に感謝申し上げます。

佐藤 珠美

様々な教科の授業を拝見し、場面に応じたICTの効果的活用を考えさせられた1年でした。まもなく本校で始まる生徒のBYODに向けてなど、めまぐるしく変わる教育情勢に対応できるよう今後も日々研修に邁進したいと思います。

今野 千佳

おかげさまで「研修集録 第40号」がまとまりました。お忙しい中、寄稿いただいた先生方には深く感謝いたします。ありがとうございました。

先生方には、様々な研修へのご参加とご協力をいただき、心より感謝しています。本当にありがとうございました。この1年を次年度につなげていただけますよう、本研修集録を今後の研修・研鑽の場に役立てていただければ幸いです。

山崎 史織

## 令和7年度 研修集録

発行日 令和8年3月  
発行者 秋田市立秋田商業高等学校  
〒010-1603 秋田市新屋勝平台1-1  
TEL 018-823-4308  
FAX 018-823-4310  
印刷所 株式会社 塚田美術印刷

表紙デザイン：相原 莉子(本校生徒)

校訓

鍛錬 勤勉 感謝



昨年度までの研修集録は  
こちらから